

児童生徒のSNS等の利用実態の把握 及び情報モラル教育の さらなる充実に資する調査研究 【最終報告】



令和3年3月

総合教育センター 指導相談担当



埼玉県立総合教育センター
Saitama Prefectural Education Center

目 次

I 研究の概要

1 調査研究の背景と主題設定の理由	1
2 調査研究の方法	1
3 調査研究計画	2
4 調査研究の経過	4

II 実態調査

1 アンケート調査について	6
2 アンケート調査の結果	17

III 児童生徒のSNS利用に係る指導事例集 60

IV 研究の成果と今後の課題 108

V 参考文献等 110

VI 調査研究協力委員等 111

I 研究の概要

1 調査研究の背景と主題設定の理由

近年、インターネットは急速に利便性が向上し、普及が進んでいる。

内閣府が平成30年度に実施した「青少年のインターネット利用環境実態調査」によれば、青少年の93.2%がインターネットを利用している。これは、平成26年度と同調査76.0%と比較すると、2割以上の伸びを示している。

インターネット、中でもSNS（Social Networking Service）の急速な普及は、青少年の新たなコミュニケーションツールとして様々な利便性をもたらす一方、その弊害も指摘されている。いじめや誹謗中傷の道具として使われるほか、SNSでのやりとりを介して犯罪に巻き込まれることも少なくない。こうしたことから、SNSをはじめとするインターネットの適正で安全な利用を促すため、青少年に対する情報モラル教育の推進が求められている。

本研究は、埼玉県の子供生徒のSNS利用実態等を調査して課題を明確にし、その課題の解決のための効果的な教育活動・授業展開について、具体例を示して明らかにしようとするものである。

2 調査研究の方法

(1) 児童生徒及び教職員の情報端末機器等の利用状況調査

- ① 県内8校の児童生徒及び教職員への独自アンケート調査
- ② 国や県その他関係団体の実施した類似調査の情報集積
- ③ 調査結果の分析による課題の抽出

(2) SNS利用に係る指導の実践事例の収集

- ① 県内8校における情報モラル教育の授業実践
- ② 実践結果の検証と、より効果的な情報モラル教育の推進に向けた提案

3 調査研究計画

令和元年度

	内 容
5月29日（金）	○第1回 調査研究協力委員会 (1) 事務局から研究計画を委員へ説明し、2年後の研究のゴールを共通認識する。 (2) 研究1年次のゴールを共通認識し、取組内容を整理する。研究の具体的な進め方について共通理解する。 (3) アンケート調査項目・調査内容・方法について協議する。 (4) スーパーバイザーから指導・助言をいただく。
< 6 ～ 7 月 > 調査用紙（案）を作成する。	
8月1日（木）	○第2回 調査研究協力委員会 (1) 調査内容・方法の最終確認をする。 (2) 調査実施に向けての準備や作業の確認をする。 (3) 外部講師からの指導・助言をいただく。 (4) スーパーバイザーから指導・助言をいただく。
< 8 ～ 1 2 月 > アンケート調査を実施する。 ・調査研究協力員の各学校の児童生徒及び教職員 ・チーム力向上研修会参加者 ・中級・上級研修会参加者 （受講生の最も集まる中級研修会が10月なので、そこでの実施を経て、11月には全調査を集計する。）	
10月9日（水）	○第3回 調査研究協力委員会 (1) アンケート調査の結果を考察する。 (2) 考察から課題を立てる。 (3) 課題に対する解決策を立てる。 (4) スーパーバイザーから指導・助言をいただく。 (5) 中間報告書の作成について確認する。
< 1 0 ～ 1 1 月 > 調査研究協力委員が中間報告書の原稿を作成する。	
12月11日（水）	○第4回 調査研究協力委員会 (1) 報告をもとに考察し、新たな課題を立て解決策を見直す。 (2) スーパーバイザーからの指導・助言をいただく。 (3) 中間報告書の作成について確認する。
< 1 2 ～ 2 月 > 調査研究協力委員が中間報告書の原稿を作成する。 事務局が中間報告書の原稿をまとめる。	
3月12日（木）	調査研究 所内発表会

令和 2 年度

	内 容
< 4 ～ 9 月 >事務局にて指導案原案を作成する。 アンケートの調査結果を精査する。 ・校種別グラフの作成 ・自由記述内容の分析	
1 0 月 7 日（水）	○第 1 回 調査研究協力委員会 (1) 研究のゴールを共通認識する。 (2) 実態調査の結果について共通理解する。 (3) 実態調査の結果を考察する。 (4) 指導案について協議する。 (5) スーパーバイザーから指導・助言をいただく。
< 1 0 ～ 1 1 月 > 指導案を基に、各学校で授業実践を行う。	
1 2 月 9 日（水）	○第 2 回 調査研究協力委員会 (1) 授業実践報告を行う。 (2) 授業前後のアンケート結果について考察する。 (3) 指導案作成に係る参考資料の作成について協議する。 (4) スーパーバイザーから指導・助言をいただく。
< 1 2 ～ 3 月 > 事務局が報告書の原稿をまとめる。	
3 月 1 5 日（月）	調査研究 所内発表会

※緊急事態宣言下における集合型研修会等の自粛により、4月から9月に予定していた調査研究協力委員会は中止となった。

4 調査研究の経過

【一年次】

- (1) 令和元年度第1回調査研究協力委員会 <令和元年5月29日>

【内 容】

- ア 情報提供（生徒指導課から）

- (ア) SNSを利用した相談システムについての実施状況

- ## (イ) ネットパトロールの概要

- イ 説明（事務局から）

- (ア) 調査研究の概要について

- (イ) 調査研究の方向性について

- (ウ) 具体的な研究の進め方及び調査・分析について

- ウ 協議

- (ア) 各学校におけるSNSに関する指導事例の紹介

- (イ) SNS等にかかわるトラブル、課題の例示

- (ウ) 平成30年度児童生徒におけるスマートフォン等の利用状況等に関する調査結果（生徒指導課実施）の分析

- (エ) アンケート調査の内容・方法について検討・共有

- (2) 令和元年度第2回調査研究協力委員会<令和元年8月1日>

【内 容】

- ア 講演

- e-ネットキャラバン（e-ネット安心講座）

- 演題：「スマートフォンの正しい利用方法について」

- ～ネットの被害者にも加害者にもならないために～

- (インターネットに潜む危険への対応)

- 講師：総務省関東総合通信局 情報通信部電気通信事業課

- 利用環境担当 井口 善孝 氏

- ## イ 協議

- (ア) 児童生徒用の実態調査アンケートの項目について

- (イ) 教師用の実態調査アンケートの項目について

- (ウ) アンケートの実施方法について

- (3) 令和元年度第3回調査研究協力委員会 <令和元年10月9日>

【内 容】

- ア 説明（事務局から）

- (ア) アンケートの実施方法について

- イ 協議

- (ア) 教師用アンケート調査結果の分析（個人研究）

- (イ) // (グループ研究)

- (ウ) 分析結果の共有

- (エ) 中間まとめについて

(4) 令和元年度第4回調査研究協力委員会 <令和元年12月11日>

【内 容】

ア 情報提供（生徒指導課から）

- (ア) 埼玉県ネットトラブル防止サミット２０２０の実施について

イ 説明（事務局から）

- (ア) 協議について

ウ 協議

- (ア) 児童生徒用・教師用アンケート調査結果の分析・考察（個人研究）

- (イ) // (グループ研究)

- (ウ) 記述内容の分析・考察（個人研究）

- (エ) // (グループ研究)

- (才) 考察の共有

エ 説明（事務局から）

- (ア) 中間報告について

- (イ) 次年度の調査研究について

【二年次】

(5) 令和2年度第1回調査研究協力委員会 <令和2年10月7日>

【内 容】

ア 情報提供（生徒指導課から）

- (ア) 令和元年度児童生徒におけるスマートフォン等の利用状況等に関する調査結果について

イ 説明（事務局から）

- (ア) 調査研究データの結果と今年度のすすめ方について

ウ 協議

- (ア) 調査研究データ結果の分析（個人研究）

- (イ) // (グループ研究)

- (ウ) 分析結果の共有

- (エ) 指導案について

(6) 令和2年度第2回調査研究協力委員会 <令和2年12月9日>

【内 容】

ア 説明（事務局から）

- (ア) 協議について

イ 協議

- (7) 授業実践の報告（各学校から）

- (イ) 〃 の分析・考察（グループ研究）

- (ウ) 授業前後のアンケート結果と指導案作成に係る参考資料の作成について

- (エ) 研究のまとめについて

Ⅱ 実態調査

1 アンケート調査について

(1) 目的

学校における情報モラル教育のさらなる充実に向けて、児童生徒のＳＮＳ等の利用実態と、そのことに対する先生方の認識や指導等について把握すること。

(2) 方法

ア 調査対象

(ア) 児童生徒

調査研究協力委員が所属する学校の児童生徒

(イ) 教員

調査研究協力委員が所属する学校の教員

令和元年度県立総合教育センター指導相談担当主催の下記研修会受講者

- ・生徒指導・教育相談上級研修会
- ・生徒指導・教育相談チーム力向上研修会
- ・生徒指導・教育相談中級研修会
- ・生徒指導・教育相談スキルアップ研修会

イ 調査時期

令和元年 9 月～令和元年 1 0 月

ウ 調査内容

質問紙調査を実施した。調査項目は以下のとおりである。

なお、調査項目は、総務省関東総合通信局情報通信部電気通信事業課利用環境担当 井口 善孝 氏からアドバイスをいただきながら事務局で試案を作成した。それを調査研究協力委員会で検討し決定した。

○児童生徒用アンケート

【アンケート対象者情報】

(1) 性別を教えてください。

- ①男 ②女 ③その他 ④回答しない

(2) 学年を教えてください。

- ①小学 5 年生 ②小学 6 年生 ③中学 1 年生 ④中学 2 年生 ⑤中学 3 年生
⑥高校 1 年生 ⑦高校 2 年生 ⑧高校 3 年生

【日常生活におけるＳＮＳ利用の占める割合】

(3) インターネットに接続できる自分専用の機器は、次のうちどれですか。（複数回答可）

- ①スマートフォン ②ケータイ（いわゆるガラケー） ③パソコン ④タブレット

⑤ゲーム機 ⑥音楽プレイヤー ⑦自分専用のものはない

⑧その他【①～⑥以外の機器を()内に記入してください(複数可)】

()

(4) インターネットに接続できる自分専用の機器を持っている人に聞きます。その機器を自宅以外の無料 Wi-Fi が使える場所で使用しますか。

①使用する ②使用しない

(5) (4)で、①使用すると答えた人に聞きます。無料 Wi-Fi が使える場所・方法とはどれですか。(複数回答可)

①コンビニ・スーパー ②カフェ ③ハンバーガーショップなどのファストフード店

④地方自治体が提供しているもの

⑤駅や空港、バスなど公共交通機関が提供しているもの

⑥その他【①～⑤以外の場所・方法を()内に記入してください(複数可)】

()

(6) 平日に、平均して何時頃まで SNS 等(動画・ゲームも含む)のコミュニケーションアプリを利用しますか。

① 20 時まで ② 21 時まで ③ 22 時まで ④ 23 時まで ⑤ 24 時まで

⑥ 次の日の 1 時まで ⑦ 次の日の 2 時まで ⑧ 次の日の 3 時まで

⑨ 次の日の 4 時まで ⑩ 次の日の 5 時まで ⑪ 次の日の 6 時まで

⑫ ずっと起きて利用している ⑬ ほとんど利用しない

(7) 平日に、平均してどのくらいの時間、SNS 等(動画・ゲームも含む)のコミュニケーションアプリを利用しますか。

①使っていない ② 30 分未満 ③ 30 分以上 1 時間未満 ④ 1 時間以上 2 時間未満

⑤ 2 時間以上 3 時間未満 ⑥ 3 時間以上 4 時間未満 ⑦ 4 時間以上 5 時間未満

⑧ 5 時間以上 ⑨ わからない

(8) 日曜日に、何も予定が入っていないとき、前日の土曜日には、SNS 等(動画・ゲームも含む)のコミュニケーションアプリを平均して何時頃まで利用しますか。

① 20 時まで ② 21 時まで ③ 22 時まで ④ 23 時まで ⑤ 24 時まで

⑥ 次の日の 1 時まで ⑦ 次の日の 2 時まで ⑧ 次の日の 3 時まで

⑨ 次の日の 4 時まで ⑩ 次の日の 5 時まで ⑪ 次の日の 6 時まで

⑫ ずっと起きて利用している ⑬ ほとんど利用しない

(9) (8)のように、予定が入っていない休みの日の前日、SNS 等(動画・ゲームも含む)のコミュニケーションアプリを最大で何時ごろまで利用したことがありますか。

① 20 時まで ② 21 時まで ③ 22 時まで ④ 23 時まで ⑤ 24 時まで

⑥ 次の日の 1 時まで ⑦ 次の日の 2 時まで ⑧ 次の日の 3 時まで

⑨ 次の日の 4 時まで ⑩ 次の日の 5 時まで ⑪ 次の日の 6 時まで

⑫ ずっと起きて利用していた

(10) 月曜日など休みあけの朝、前日の夜に遅くまで SNS 等（動画・ゲームも含む）のコミュニケーションアプリを使用して、起きるのがつらいと思うことがありますか。

① よくある ② たまにある ③ まったくない

【使っているアプリ等】

(11) SNS 等のアプリで、知っているコミュニケーションアプリはどれですか。（複数回答可）

① L I N E （ライン） ② T w i t t e r （ツイッター）

③ F a c e b o o k （フェイスブック） ④ I n s t a g r a m （インスタグラム）

⑤ T i k T o k （ティックトック） ⑥ Y o u T u b e （ユーチューブ）

⑦ いずれも知らない

⑧ その他 【①～⑥以外で、S N O W （スノウ）やゲームアプリ等で配信や双方向のやりとりができる、知っているコミュニケーションアプリを（ ）内に記入してください（複数可）】

()

(12) SNS 等のアプリで、使ったことがあるコミュニケーションアプリはどれですか。（複数回答可）

① L I N E （ライン） ② T w i t t e r （ツイッター）

③ F a c e b o o k （フェイスブック） ④ I n s t a g r a m （インスタグラム）

⑤ T i k T o k （ティックトック） ⑥ Y o u T u b e （ユーチューブ）

⑦ いずれも使っていない

⑧ その他 【①～⑥以外で、S N O W （スノウ）やゲームアプリ等で配信や双方向のやりとりをしたことがあるコミュニケーションアプリを（ ）内に記入してください（複数可）】

()

(13) SNS 等のアプリで、使用頻度の高いコミュニケーションアプリはどれですか。（複数回答可）

① L I N E （ライン） ② T w i t t e r （ツイッター）

③ F a c e b o o k （フェイスブック） ④ I n s t a g r a m （インスタグラム）

⑤ T i k T o k （ティックトック） ⑥ Y o u T u b e （ユーチューブ）

⑦ （アプリはあるが）いずれも利用していない

⑧ その他 【①～⑥以外で、S N O W （スノウ）やゲームアプリ等で配信や双方向のやりとりをした使用頻度の高いコミュニケーションアプリを（ ）内に記入してください（複数可）】

()

(14) SNS等のコミュニケーションアプリで作った（所属している）グループの数は、複数のアプリ全体でいくつありますか。

- ① 0 ② 1～5 ③ 6～10 ④ 11～15 ⑤ 16～20 ⑥ 21～25
⑦ 26～30 ⑧ その他【最大の数を（ ）内に記入してください】（ ）

(15) SNS等のコミュニケーションアプリで作った（所属している）グループのうち、最大の人数は何人ですか。

- ① 2～5人 ② 6～10人 ③ 11～15人 ④ 16～20人
⑤ 21～25人 ⑥ 26～30人
⑦ その他【最大の人数を（ ）内に記入してください】（ ）人

(16) SNS等のコミュニケーションアプリで作った（所属している）グループのうち、鍵をかけている（パスワードを設定している）グループはありますか。

- ① はい ② いいえ

(17) (16)で①はいと答えた人に聞きます。鍵をかけている（パスワードを設定している）グループはいくつありますか。

- ① 0 ② 1～5 ③ 6～10 ④ 11～15 ⑤ 16～20 ⑥ 21～25
⑦ 26～30 ⑧ その他【最大の数を（ ）内に記入してください】（ ）

(18) SNS等のコミュニケーションアプリで、自分のアイコンの表示のところの未読の数が1000という数字を見たことはありますか。

- ① はい ② いいえ

(19) フリマアプリ等で何か買ったことがありますか。

- ① はい ② いいえ

(20) フリマアプリ等で何か売ったことがありますか。

- ① はい ② いいえ

(21) フリマアプリ等を利用したネットショッピングで、トラブルにあったことがありますか。

- ① はい ② いいえ

(22) ゲーム等で課金したことがありますか。

- ① はい ② いいえ

(23) プリペイドカードを購入して、SNS等（動画・ゲームも含む）のコミュニケーションアプリに使用したことがありますか。

- ① はい ② いいえ

【トラブル経験率】【トラブルの種類と自身の対応】

(24) SNS等のコミュニケーションアプリを使用しているときに、嫌な思いをしたことがありますか。

- ①はい ②いいえ

(25) (24)で①はいと答えた人に聞きます。どのような嫌な思いをしましたか。(複数回答可)

- ①悪口を書かれた
②チェーンメールを送られた
③自分の個人情報や写真などを無断で流された
④心当たりのない利用料金の請求を受けた
⑤広告などの迷惑メールがたびたび送られてきた
⑥他人からしつこくメールを送られたり、つきまとわれたりした
⑦知らない人から「会わないか」とさそわれた
⑧インターネット上のグループで仲間はずれにされた
⑨人に言われて自分の写真を送ってしまった
⑩メール等の書き込み内容を友だちに誤解されて気まづくなった
⑪メール等の返信が遅いと言われ、友だちにきらわれた
⑫友だちなどが、勝手に自分になりすました
⑬その他【①～⑫以外の嫌な思いを()内に記入してください(複数可)】

()

(26) (24)で①はいと答えた人に聞きます。誰かに、自分と同じように嫌な思いをさせたいと思ったことはありますか。

- ①はい ②いいえ

(27) (26)で①はいと答えた人に聞きます。誰かに、実際に自分と同じように嫌な思いをさせる行為をしたことはありますか。

- ①はい ②いいえ

(28) (27)で①はいと答えた人に聞きます。どのような嫌な思いをさせる行為をしましたか。(複数回答可)

- ①悪口を書いた
②チェーンメールを送った
③他人の個人情報や写真などを無断で流した
④インターネット上のグループで仲間はずれにした
⑤友達になりすまして、書き込み等をした
⑥その他【①～⑤以外の行為を()内に記入してください(複数可)】

()

(29) (27)で①はいと答えた人に聞きます。嫌な思いをさせる行為を何回しましたか。

- ① 1回 ② 2回 ③ 3回 ④ 4回 ⑤ 5回以上

(30) (27)で①はいと答えた人に聞きます。嫌な思いをさせる行為をしたことについて、どう思いますか。

- ①当然だ ②ある程度は仕方がない ③やらなければよかった

【小中高毎の使用制限の実態】【家庭の関わり】

(31) 家庭内で、インターネット（SNS等のコミュニケーションアプリの利用を含む）の利用のルールを決めていますか。

- ①ルールを決めている ②ルールを決めていない

(32) (31)で①ルールを決めていると答えた人に聞きます。どのようなルールですか。
(複数回答可)

- ①利用料金の上限を決めている
②利用マナーを決めている
③利用する時間を決めている
④利用する場所を決めている
⑤インターネットの利用を禁止したり利用内容を決めたりしている
⑥メール等の使用を禁止したり、送る相手を制限したりしている
⑦その他【①～⑥以外のルールを()内に記入してください(複数可)】
()

(33) (31)で①ルールを決めていると答えた人に聞きます。そのルールを守れていますか。

- ①はい ②いいえ

(34) (31)で①ルールを決めていると答えた人に聞きます。ルールを定めることについて、どう思いますか。

- ①家庭内のルールに納得している ②家庭内のルールに少し納得している
③家庭内のルールにあまり納得していない ④家庭内のルールに納得していない

(35) スマートフォン等を持っている人に聞きます。スマートフォン等を学校で使えますか。

- ①はい ②いいえ

(36) (35)で②いいえと答えた人に聞きます。学校で使えないことに対して、どう思いますか。

- ①学校で使えなくてもよい ②学校で使いたい

(37) (36)で②学校で使いたいと答えた人に聞きます。使いたいのはなぜですか。(複数回答可)

- ①勉強に使用したいから ②SNS等のコミュニケーションアプリを使用したいから
③ゲームのアプリを使用したいから ④動画を見たいから
⑤その他【①～④以外の理由を()内に記入してください(複数可)】
()

(38) (35)で①はいと答えた人に聞きます。学校で勉強や調べものをするとき等で、スマートフォン等を上手に活用したことがあったら教えてください。【自由に記入してください】

○教師用アンケート

【アンケート対象者情報】

(1) 校種を教えてください。

- ①小学校 ②中学校 ③高等学校 ④特別支援学校

(2) 性別を教えてください。

- ①男 ②女 ③その他 ④回答しない

(3) 年齢を教えてください。

- ①20代 ②30代 ③40代 ④50代 ⑤60代

【日常生活におけるSNS利用の占める割合】

(4) インターネットに接続できる自分専用の機器は、次のうちどれですか。(複数回答可)

- ①スマートフォン ②ケータイ(いわゆるガラケー) ③パソコン ④タブレット
⑤ゲーム機 ⑥音楽プレイヤー ⑦自分専用のものはない
⑧その他【①～⑥以外の機器を()内に記入してください(複数可)】
()

(5) インターネットに接続できる自分専用の機器を持っている人に聞きます。その機器を自宅以外の無料Wi-Fiが使える場所で使用しますか。

- ①使用する ②使用しない

(6) (5)で、①使用すると答えた人に聞きます。無料Wi-Fiが使える場所・方法とはどれですか。(複数回答可)

- ①コンビニ・スーパー ②カフェ ③ハンバーガーショップなどのファストフード店
④地方自治体が提供しているもの
⑤駅や空港、バスなど公共交通機関が提供しているもの
⑥その他【①～⑤以外の場所・方法を()内に記入してください(複数可)】
()

(7) 平日に、平均して何時頃までSNS等（動画・ゲームも含む）のコミュニケーションアプリを利用しますか。

- ① 20時まで ② 21時まで ③ 22時まで ④ 23時まで ⑤ 24時まで
⑥ 次の日の1時まで ⑦ 次の日の2時まで ⑧ 次の日の3時まで
⑨ 次の日の4時まで ⑩ 次の日の5時まで ⑪ 次の日の6時まで
⑫ ずっと起きて利用している ⑬ ほとんど利用しない

(8) 平日に、平均してどのくらいの時間、SNS等（動画・ゲームも含む）のコミュニケーションアプリを利用しますか。

- ① 使っていない ② 30分未満 ③ 30分以上1時間未満 ④ 1時間以上2時間未満
⑤ 2時間以上3時間未満 ⑥ 3時間以上4時間未満 ⑦ 4時間以上5時間未満
⑧ 5時間以上 ⑨ わからない

(9) 日曜日に、何も予定が入っていないとき、前日の土曜日には、SNS等（動画・ゲームも含む）のコミュニケーションアプリを平均して何時頃まで利用しますか。

- ① 20時まで ② 21時まで ③ 22時まで ④ 23時まで ⑤ 24時まで
⑥ 次の日の1時まで ⑦ 次の日の2時まで ⑧ 次の日の3時まで
⑨ 次の日の4時まで ⑩ 次の日の5時まで ⑪ 次の日の6時まで
⑫ ずっと起きて利用している ⑬ ほとんど利用しない

(10) (9)のように、予定が入っていない休みの日の前日、SNS等（動画・ゲームも含む）のコミュニケーションアプリを最大で何時ごろまで利用したことがありますか。

- ① 20時まで ② 21時まで ③ 22時まで ④ 23時まで ⑤ 24時まで
⑥ 次の日の1時まで ⑦ 次の日の2時まで ⑧ 次の日の3時まで
⑨ 次の日の4時まで ⑩ 次の日の5時まで ⑪ 次の日の6時まで
⑫ ずっと起きて利用していた

(11) 月曜日など休みあけの朝、前日の夜に遅くまでSNS等（動画・ゲームも含む）のコミュニケーションアプリを使用していて、起きるのがつらいと思うことがありますか。

- ① よくある ② たまにある ③ まったくない

【使っているアプリ等】

(12) SNS等のアプリで、知っているコミュニケーションアプリはどれですか。（複数回答可）

- ① L I N E （ライン） ② T w i t t e r （ツイッター）
③ F a c e b o o k （フェイスブック） ④ I n s t a g r a m （インスタグラム）
⑤ T i k T o k （ティックトック） ⑥ Y o u T u b e （ユーチューブ）
⑦ いずれも知らない
⑧ その他【①～⑥以外で、S N O W （スノウ）やゲームアプリ等で配信や双方向の

やりとりができる、知っているコミュニケーションアプリを（ ）内に記入してください（複数可）】

()

(13) SNS等のアプリで、使ったことがあるコミュニケーションアプリはどれですか。
(複数回答可)

- ①LINE (ライン) ②Twitter (ツイッター)
③Facebook (フェイスブック) ④Instagram (インスタグラム)
⑤TikTok (ティックトック) ⑥YouTube (ユーチューブ)
⑦いずれも使っていない

⑧その他【①～⑥以外で、SNOW (スノウ) やゲームアプリ等で配信や双方向のやりとりをしたことがあるコミュニケーションアプリを（ ）内に記入してください（複数可）】

()

(14) SNS等のアプリで、使用頻度の高いコミュニケーションアプリはどれですか。
(複数回答可)

- ①LINE (ライン) ②Twitter (ツイッター)
③Facebook (フェイスブック) ④Instagram (インスタグラム)
⑤TikTok (ティックトック) ⑥YouTube (ユーチューブ)
⑦(アプリはあるが) いずれも利用していない

⑧その他【①～⑥以外で、SNOW (スノウ) やゲームアプリ等で配信や双方向のやりとりをした使用頻度の高いコミュニケーションアプリを（ ）内に記入してください（複数可）】

()

(15) SNS等のコミュニケーションアプリで作った(所属している)グループの数は、複数のアプリ全体でいくつありますか。

- ①0 ②1～5 ③6～10 ④11～15 ⑤16～20 ⑥21～25
⑦26～30 ⑧その他【最大の数を（ ）内に記入してください】()

(16) SNS等のコミュニケーションアプリで作った(所属している)グループのうち、最大の人数は何人ですか。

- ①2～5人 ②6～10人 ③11～15人 ④16～20人 ⑤21～25人
⑥26～30人 ⑦その他【最大の人数を（ ）内に記入してください】()人

(17) SNS等のコミュニケーションアプリで作った(所属している)グループのうち、鍵をかけている(パスワードを設定している)グループはありますか。

- ①はい ②いいえ

(18) (17)で①はいと答えた方に聞きます。鍵をかけている（パスワードを設定している）グループはいくつありますか。

- ① 0 ② 1～5 ③ 6～10 ④ 11～15 ⑤ 16～20 ⑥ 21～25
⑦ 26～30 ⑧ その他【最大の数を（ ）内に記入してください】（ ）

(19) SNS等のコミュニケーションアプリで、自分のアイコンの表示のところの未読の数が1000という数字を見たことはありますか。

- ① はい ② いいえ

(20) フリマアプリ等で何か買ったことがありますか。

- ① はい ② いいえ

(21) フリマアプリ等で何か売ったことがありますか。

- ① はい ② いいえ

(22) フリマアプリ等を利用したネットショッピングで、トラブルにあったことがありますか。

- ① はい ② いいえ

(23) ゲーム等で課金したことがありますか。

- ① はい ② いいえ

(24) プリペイドカードを購入して、SNS等（動画・ゲームも含む）のコミュニケーションアプリに使用したことがありますか。

- ① はい ② いいえ

【小中高毎の使用制限の実態】【家庭の関わり】

(25) あなたが勤務する学校では、児童生徒が、校内でスマートフォン等を使用することを認めていますか。

- ① はい ② いいえ

(26) (25)で②いいえと答えた方に聞きます。学校でスマートフォン等を使えないことに対して、どう思いますか。

- ① 学校（授業）で使えた方がよい ② 学校（授業）で使わせたい
③ 学校（授業）で使えなくてよい ④ 学校（授業）で使わせたくない
⑤ その他【①～④以外で、あなたが思っていることがありましたら記入してください】（ ）

【情報モラル教育】

(27) 児童生徒に、情報モラル教育を行っていますか。

- ① 行っている ② 行っていない

(28) (27)で①行っていると答えた方に聞きます。どのような方法で情報モラル教育を行っていますか。(複数回答可)

①学校全体で行っている ②学年で行っている ③学級で行っている

④その他【①～③以外の方法を()内に記入してください】

()

(29) 情報モラル教育を行うにあたり、適切に指導する自信はありますか。

①ある ②まあまあある ③あまりない ④ない

(30) 児童生徒から、SNS等のコミュニケーションアプリの利用に係るトラブルについて相談を受けたことはありますか。

①ある ②ない

(31) (30)で①あると答えた方に聞きます。どのような内容のトラブルでしたか。(記述)

(32) SNS等のコミュニケーションアプリの利用に関する生徒指導で困っていることはありますか。(記述)

(33) SNS等のコミュニケーションアプリの利用に関する、学校でのルールはありますか。

①ある ②ない

(34) (33)で①あると答えた方に聞きます。それは、どのようなルールですか。主なものを2～3つ記入してください。(記述)

(35) SNS等のコミュニケーションアプリの利用のトラブルで、効果があった指導や対応があったら教えてください。(記述)

(36) スマートフォンの利用(SNS等のコミュニケーションアプリの利用を含む)で、教育活動上、よい事例があったら教えてください。(記述)

(37) (36)を記入して下さった方に聞きます。指導相談担当では、スマートフォンの利用(SNS等のコミュニケーションアプリの利用を含む)で、教育活動上よい事例についてまとめることを考えています。そこで、あなたが記入した内容について尋ねることがあるかもしれません。差し支えなければ、学校名と名前を教えてください。

学校名 ()

お名前 ()

項目1【アンケート対象者情報】

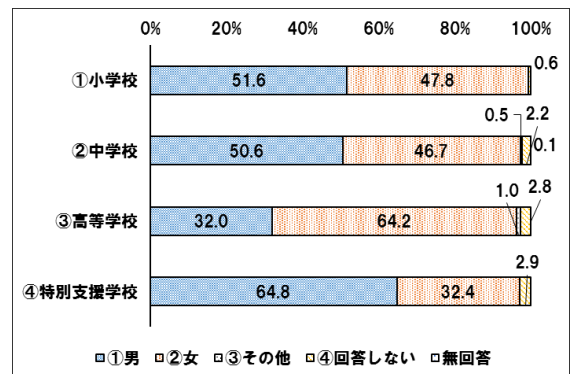
2 アンケート調査の結果

【アンケート対象者情報】

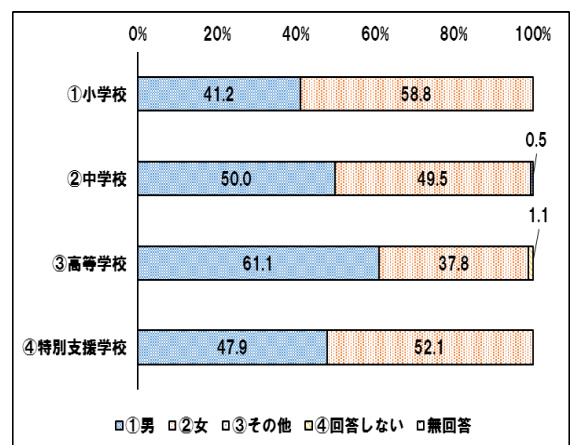
(1) あなたの性別を教えてください。

(2) あなたの学年を教えてください。

児童生徒	①男	②女	③その他	④回答しない	無回答	計
①小学校	173	160	0	2	0	335
②中学校	782	721	7	34	1	1545
③高等学校	414	830	13	36	0	1293
④特別支援学校	136	68	0	6	0	210
人数 計	1505	1779	20	78	1	3383
①小学校	51.6	47.8		0.6		100.0
②中学校	50.6	46.7	0.5	2.2	0.1	100.0
③高等学校	32.0	64.2	1.0	2.8		100.0
④特別支援学校	64.8	32.4		2.9		100.0
% 計	44.5	52.6	0.6	2.3	0.0	100.0

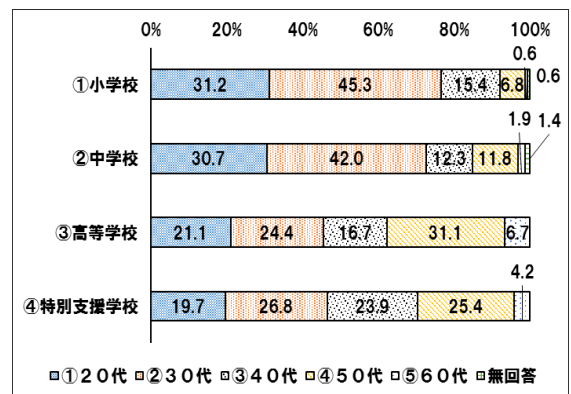


教師	①男	②女	③その他	④回答しない	無回答	計
①小学校	128	183	0	0	0	311
②中学校	106	105	0	0	1	212
③高等学校	55	34	0	1	0	90
④特別支援学校	34	37	0	0	0	71
無回答	0	1	0	0	0	1
人数 計	323	360	0	1	1	685
①小学校	41.2	58.8				100.0
②中学校	50.0	49.5			0.5	100.0
③高等学校	61.1	37.8		1.1		100.0
④特別支援学校	47.9	52.1				100.0
% 計	47.2	52.6	0.0	0.1	0.1	100.0



※以下、教師のみの設問
年齢を教えてください。

教師	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答	計
①小学校	97	141	48	21	2	2	311
②中学校	65	89	26	25	4	3	212
③高等学校	19	22	15	28	6	0	90
④特別支援学校	14	19	17	18	3	0	71
無回答	1	0	0	0	0	0	1
人数 計	196	271	106	92	15	5	685
①小学校	31.2	45.3	15.4	6.8	0.6	0.6	100.0
②中学校	30.7	42.0	12.3	11.8	1.9	1.4	100.0
③高等学校	21.1	24.4	16.7	31.1	6.7		100.0
④特別支援学校	19.7	26.8	23.9	25.4	4.2		100.0
% 計	28.6	39.6	15.5	13.4	2.2	0.7	100.0



【アンケート対象者情報】の結果概要と考察

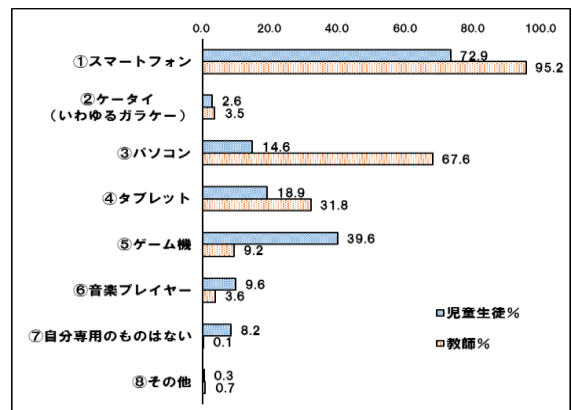
- 小学校、中学校、高等学校、特別支援学校と様々な校種の児童生徒、及び様々な校種、年代の教職員に対して、アンケート調査を実施した。
- 児童生徒用アンケートと教師用アンケートの中には同じ設問もあり、児童生徒と教職員の実態や意識を比較することができるようにした。

項目2【日常生活におけるSNS利用の占める割合】

【日常生活におけるSNS利用の占める割合】

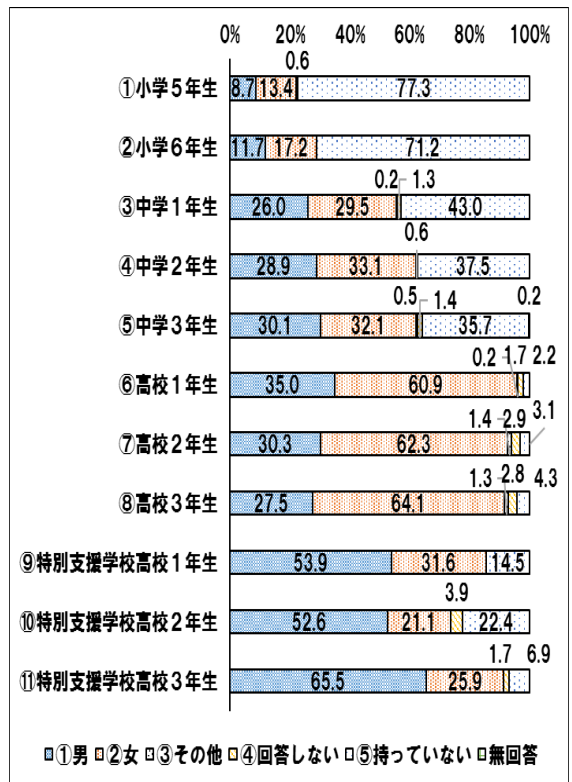
(3) インターネットに接続できる自分専用の機器は、次のうちどれですか。(複数回答可)

	児童生徒人数	児童生徒%	教師人数	教師%
①スマートフォン	2466	72.9	652	95.2
②ケータイ(いわゆるガラケー)	88	2.6	24	3.5
③パソコン	494	14.6	463	67.6
④タブレット	641	18.9	218	31.8
⑤ゲーム機	1341	39.6	63	9.2
⑥音楽プレイヤー	324	9.6	25	3.6
⑦自分専用のものはない	279	8.2	1	0.1
⑧その他	11	0.3	5	0.7



(3)-① スマートフォンの所持率

児童生徒	①男	②女	③その他	④回答しない	⑤持っていない	無回答	計
①小学5年生	15	23	0	1	133	0	172
②小学6年生	19	28	0	0	116	0	163
③中学1年生	120	136	1	6	198	0	461
④中学2年生	152	174	0	3	197	0	526
⑤中学3年生	168	179	3	8	199	1	558
⑥高校1年生	143	249	1	7	9	0	409
⑦高校2年生	127	261	6	12	13	0	419
⑧高校3年生	128	298	6	13	20	0	465
⑨特別支援学校高校1年生	41	24	0	0	11	0	76
⑩特別支援学校高校2年生	40	16	0	3	17	0	76
⑪特別支援学校高校3年生	38	15	0	1	4	0	58
人数計	991	1403	17	54	917	1	3383
	①男	②女	③その他	④回答しない	⑤持っていない	無回答	計
①小学5年生	8.7	13.4		0.6	77.3		100.0
②小学6年生	11.7	17.2			71.2		100.0
③中学1年生	26.0	29.5	0.2	1.3	43.0		100.0
④中学2年生	28.9	33.1		0.6	37.5		100.0
⑤中学3年生	30.1	32.1	0.5	1.4	35.7	0.2	100.0
⑥高校1年生	35.0	60.9	0.2	1.7	2.2		100.0
⑦高校2年生	30.3	62.3	1.4	2.9	3.1		100.0
⑧高校3年生	27.5	64.1	1.3	2.8	4.3		100.0
⑨特別支援学校高校1年生	53.9	31.6			14.5		100.0
⑩特別支援学校高校2年生	52.6	21.1		3.9	22.4		100.0
⑪特別支援学校高校3年生	65.5	25.9		1.7	6.9		100.0
%計	29.3	41.5	0.5	1.6	27.1	0.0	100.0

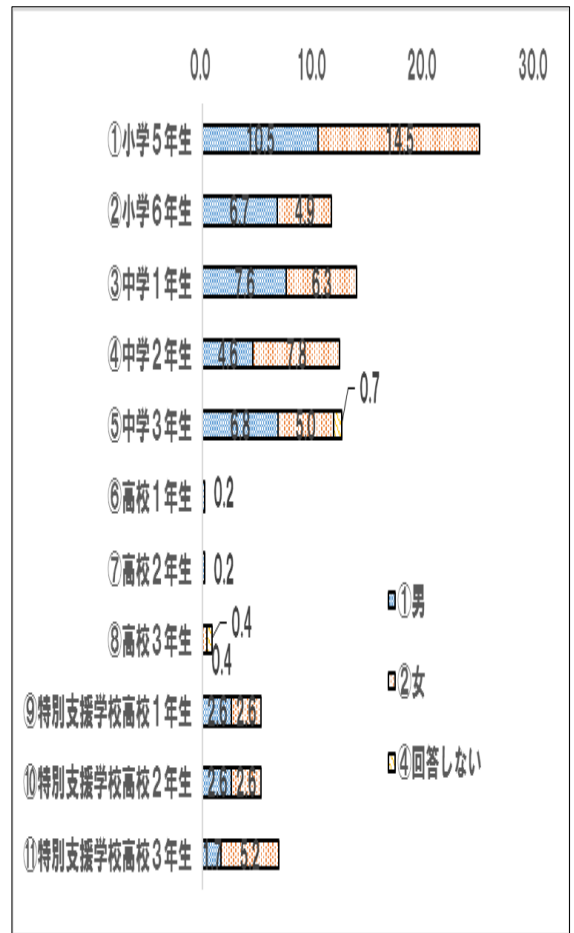


項目2【日常生活におけるSNS利用の占める割合】

(3)-② インターネットに接続できる自分専用の機器を持っていない

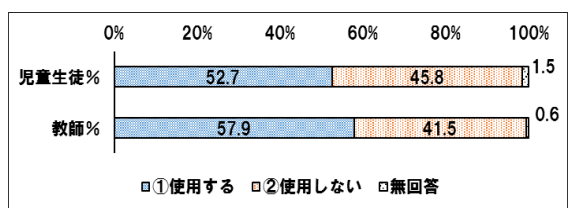
※(3)において「⑦自分専用のものはない」と回答した者

児童生徒	①男	②女	③その他	④回答しない	計
①小学5年生	18	25	0	0	43
②小学6年生	11	8	0	0	19
③中学1年生	35	29	0	0	64
④中学2年生	24	41	0	0	65
⑤中学3年生	38	28	0	4	70
⑥高校1年生	1	0	0	0	1
⑦高校2年生	1	0	0	0	1
⑧高校3年生	0	2	0	2	4
⑨特別支援学校高校1年生	2	2	0	0	4
⑩特別支援学校高校2年生	2	2	0	0	4
⑪特別支援学校高校3年生	1	3	0	0	4
人数 計	133	140	0	6	279
	①男	②女	③その他	④回答しない	計
①小学5年生	10.5	14.5			25.0
②小学6年生	6.7	4.9			11.7
③中学1年生	7.6	6.3			13.9
④中学2年生	4.6	7.8			12.4
⑤中学3年生	6.8	5.0		0.7	12.5
⑥高校1年生	0.2				0.2
⑦高校2年生	0.2				0.2
⑧高校3年生		0.4		0.4	0.9
⑨特別支援学校高校1年生	2.6	2.6			5.3
⑩特別支援学校高校2年生	2.6	2.6			5.3
⑪特別支援学校高校3年生	1.7	5.2			6.9
% 計	3.9	4.1	0.0	0.2	8.2



(4) インターネットに接続できる自分専用の機器を持っている人に聞きます。その機器を自宅以外の無料Wi-Fiが使える場所で使用しますか。

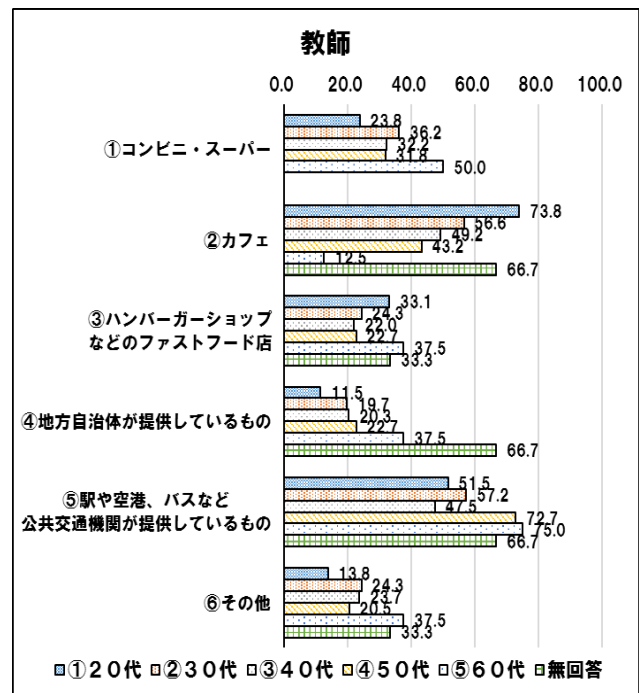
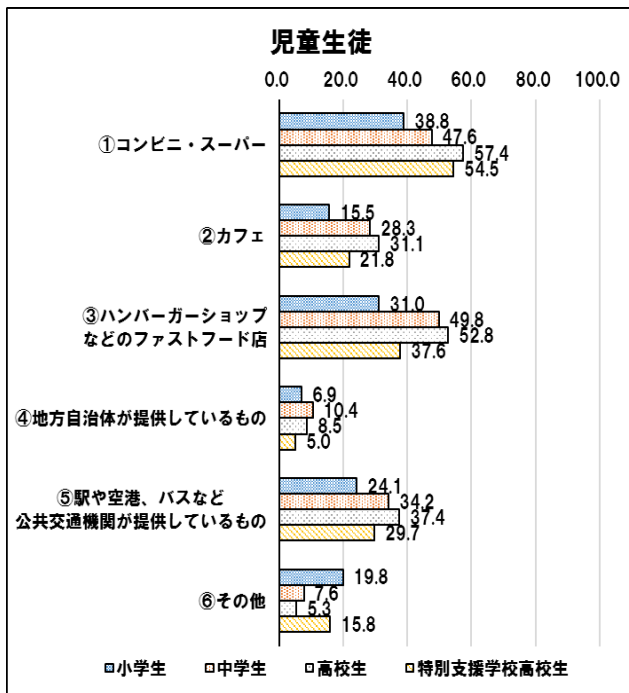
	児童生徒人数	児童生徒%	教師人数	教師%
①使用する	1635	52.7	396	57.9
②使用しない	1423	45.8	284	41.5
無回答	46	1.5	4	0.6



項目2【日常生活におけるSNS利用の占める割合】

(5) 設問(4)で、①使用すると答えた人に聞きます。無料Wi-Fiが使える場所・方法とはどれですか。(複数回答可)

人数	児童生徒				教師					
	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答
①コンビニ・スーパー	45	326	421	55	31	55	19	14	4	0
②カフェ	18	194	228	22	96	86	29	19	1	2
③ハンバーガーショップなどのファストフード店	36	341	387	38	43	37	13	10	3	1
④地方自治体が提供しているもの	8	71	62	5	15	30	12	10	3	2
⑤駅や空港、バスなど公共交通機関が提供しているもの	28	234	274	30	67	87	28	32	6	2
⑥その他	23	52	39	16	18	37	14	9	3	1
%	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答
①コンビニ・スーパー	38.8	47.6	57.4	54.5	23.8	36.2	32.2	31.8	50.0	
②カフェ	15.5	28.3	31.1	21.8	73.8	56.6	49.2	43.2	12.5	66.7
③ハンバーガーショップなどのファストフード店	31.0	49.8	52.8	37.6	33.1	24.3	22.0	22.7	37.5	33.3
④地方自治体が提供しているもの	6.9	10.4	8.5	5.0	11.5	19.7	20.3	22.7	37.5	66.7
⑤駅や空港、バスなど公共交通機関が提供しているもの	24.1	34.2	37.4	29.7	51.5	57.2	47.5	72.7	75.0	66.7
⑥その他	19.8	7.6	5.3	15.8	13.8	24.3	23.7	20.5	37.5	33.3

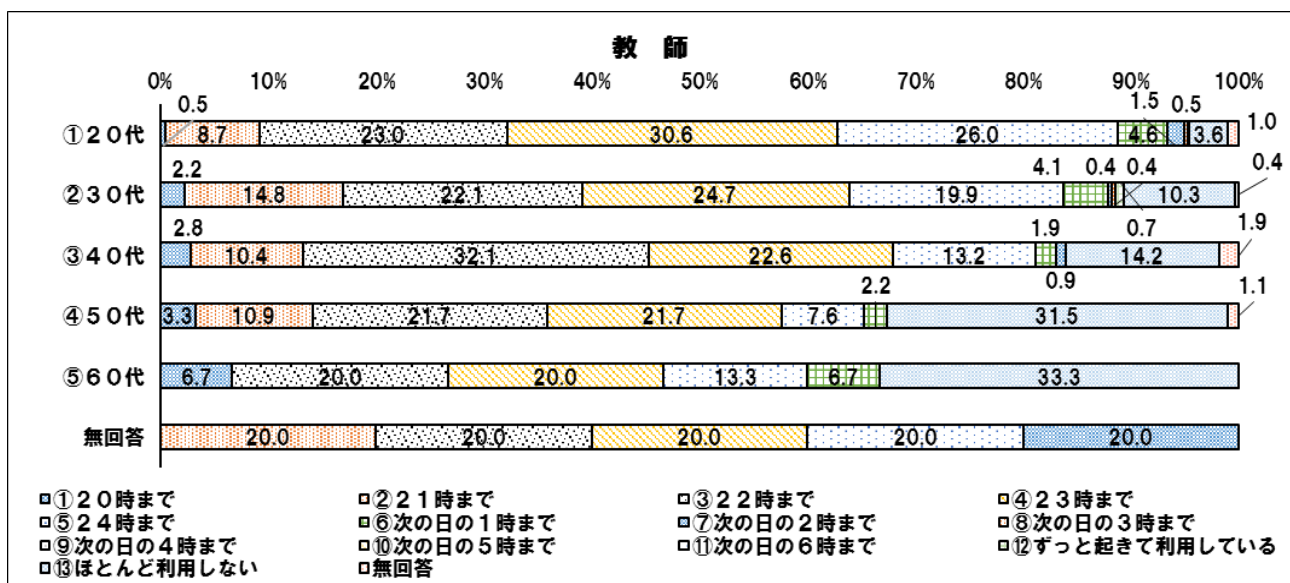
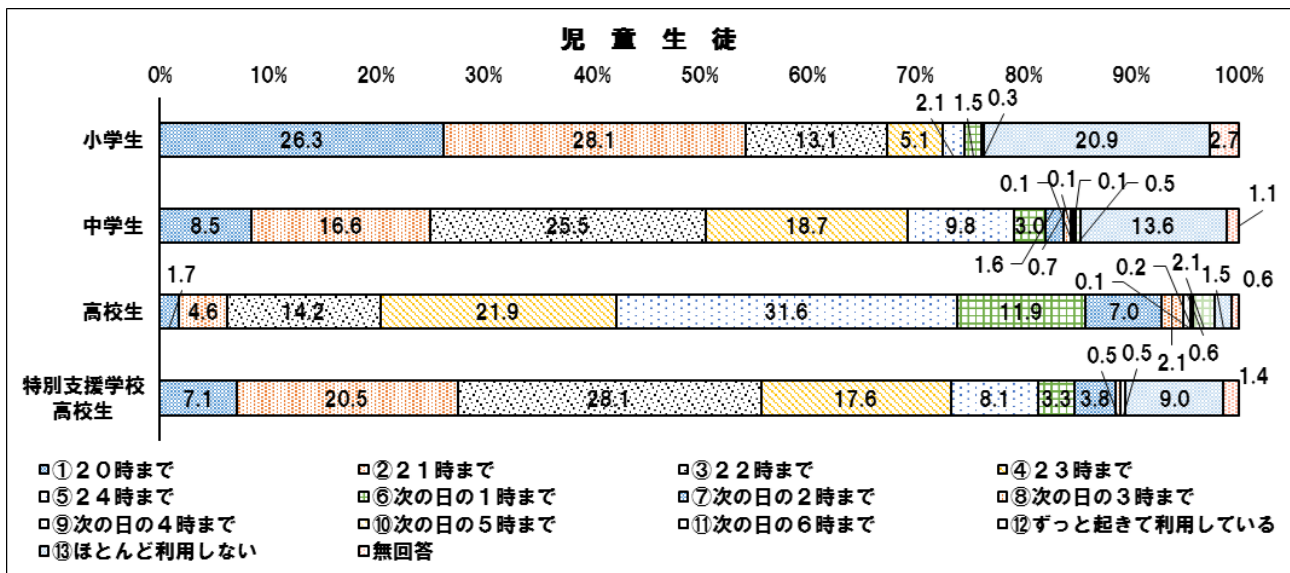


項目2【日常生活におけるSNS利用の占める割合】

(6) 平日に、平均して何時頃までSNS等（動画・ゲームも含む）のコミュニケーションアプリを利用しますか。

	児童生徒				教師					
人数	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答
①20時まで	88	131	22	15	1	6	3	3	1	0
②21時まで	94	257	59	43	17	40	11	10	0	1
③22時まで	44	394	183	59	45	60	34	20	3	1
④23時まで	17	289	283	37	60	67	24	20	3	1
⑤24時まで	7	152	409	17	51	54	14	7	2	1
⑥次の日の1時まで	5	46	154	7	9	11	2	2	1	0
⑦次の日の2時まで	1	25	90	8	3	1	1	0	0	1
⑧次の日の3時まで	0	11	27	1	1	1	0	0	0	0
⑨次の日の4時まで	0	2	8	0	0	0	0	0	0	0
⑩次の日の5時まで	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0
⑪次の日の6時まで	0	2	2	1	0	0	0	0	0	0
⑫ずっと起きて利用している	0	7	27	0	0	2	0	0	0	0
⑬ほとんど利用しない	70	210	20	19	7	28	15	29	5	0
無回答	9	17	8	3	2	1	2	1	0	0
%	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答
①20時まで	26.3	8.5	1.7	7.1	0.5	2.2	2.8	3.3	6.7	
②21時まで	28.1	16.6	4.6	20.5	8.7	14.8	10.4	10.9		20.0
③22時まで	13.1	25.5	14.2	28.1	23.0	22.1	32.1	21.7	20.0	20.0
④23時まで	5.1	18.7	21.9	17.6	30.6	24.7	22.6	21.7	20.0	20.0
⑤24時まで	2.1	9.8	31.6	8.1	26.0	19.9	13.2	7.6	13.3	20.0
⑥次の日の1時まで	1.5	3.0	11.9	3.3	4.6	4.1	1.9	2.2	6.7	
⑦次の日の2時まで	0.3	1.6	7.0	3.8	1.5	0.4	0.9			20.0
⑧次の日の3時まで		0.7	2.1	0.5	0.5	0.4				
⑨次の日の4時まで		0.1	0.6							
⑩次の日の5時まで		0.1	0.1							
⑪次の日の6時まで		0.1	0.2	0.5						
⑫ずっと起きて利用している		0.5	2.1			0.7				
⑬ほとんど利用しない	20.9	13.6	1.5	9.0	3.6	10.3	14.2	31.5	33.3	
無回答	2.7	1.1	0.6	1.4	1.0	0.4	1.9	1.1		

項目2【日常生活におけるSNS利用の占める割合】

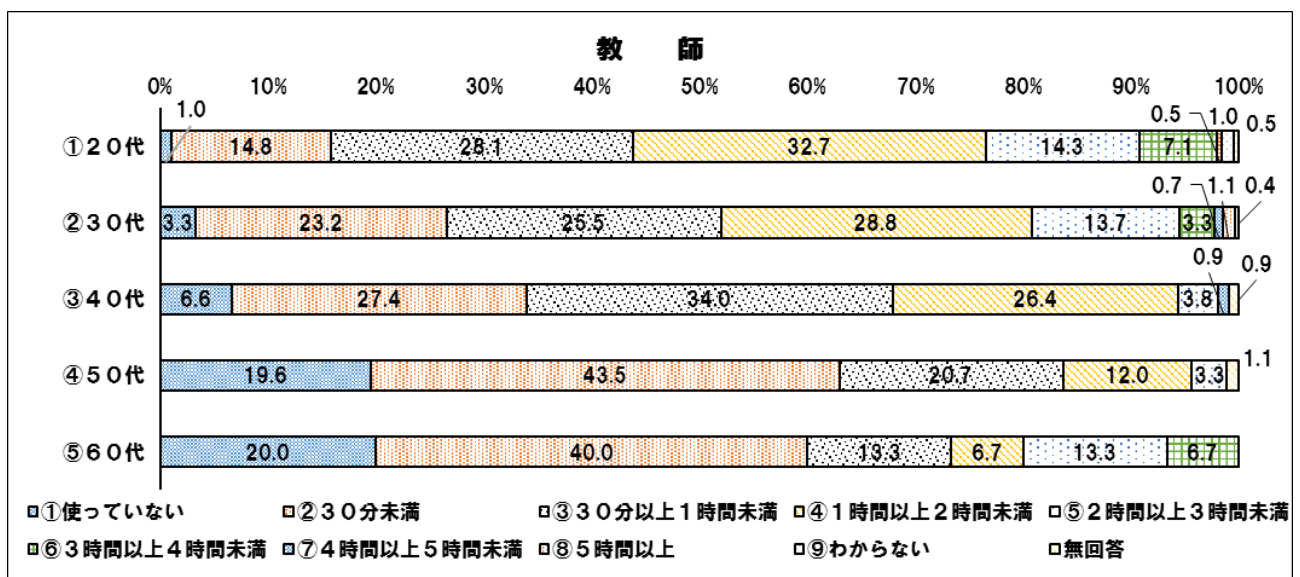
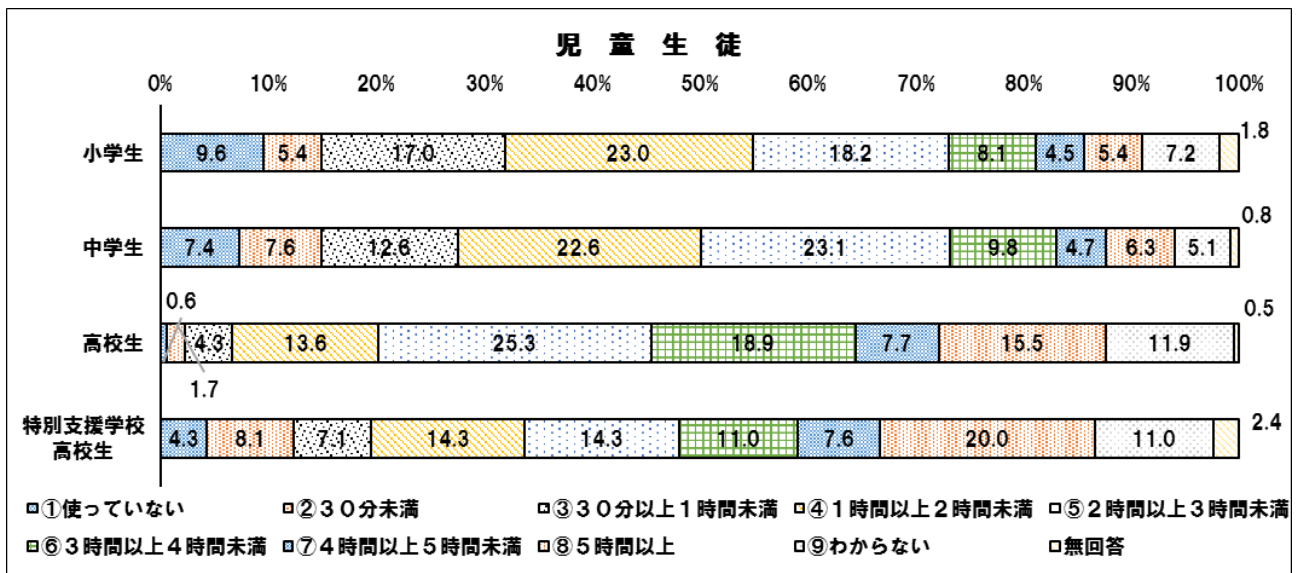


項目2【日常生活におけるSNS利用の占める割合】

(7) 平日に、平均してどのくらいの時間、SNS等（動画・ゲームも含む）のコミュニケーションアプリを利用しますか。

	児童生徒				教師					
人数	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答
①使っていない	32	114	8	9	2	9	7	18	3	0
②30分未満	18	117	22	17	29	63	29	40	6	2
③30分以上1時間未満	57	195	56	15	55	69	36	19	2	0
④1時間以上2時間未満	77	349	176	30	64	78	28	11	1	2
⑤2時間以上3時間未満	61	357	327	30	28	37	4	3	2	0
⑥3時間以上4時間未満	27	151	244	23	14	9	0	0	1	1
⑦4時間以上5時間未満	15	72	100	16	0	2	1	0	0	0
⑧5時間以上	18	98	200	42	1	3	0	0	0	0
⑨わからない	24	79	154	23	2	1	0	0	0	0
無回答	6	13	6	5	1	0	1	1	0	0
%	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答
①使っていない	9.6	7.4	0.6	4.3	1.0	3.3	6.6	19.6	20.0	
②30分未満	5.4	7.6	1.7	8.1	14.8	23.2	27.4	43.5	40.0	40.0
③30分以上1時間未満	17.0	12.6	4.3	7.1	28.1	25.5	34.0	20.7	13.3	
④1時間以上2時間未満	23.0	22.6	13.6	14.3	32.7	28.8	26.4	12.0	6.7	40.0
⑤2時間以上3時間未満	18.2	23.1	25.3	14.3	14.3	13.7	3.8	3.3	13.3	
⑥3時間以上4時間未満	8.1	9.8	18.9	11.0	7.1	3.3			6.7	20.0
⑦4時間以上5時間未満	4.5	4.7	7.7	7.6		0.7	0.9			
⑧5時間以上	5.4	6.3	15.5	20.0	0.5	1.1				
⑨わからない	7.2	5.1	11.9	11.0	1.0	0.4				
無回答	1.8	0.8	0.5	2.4	0.5		0.9	1.1		

項目 2 【日常生活におけるSNS利用の占める割合】

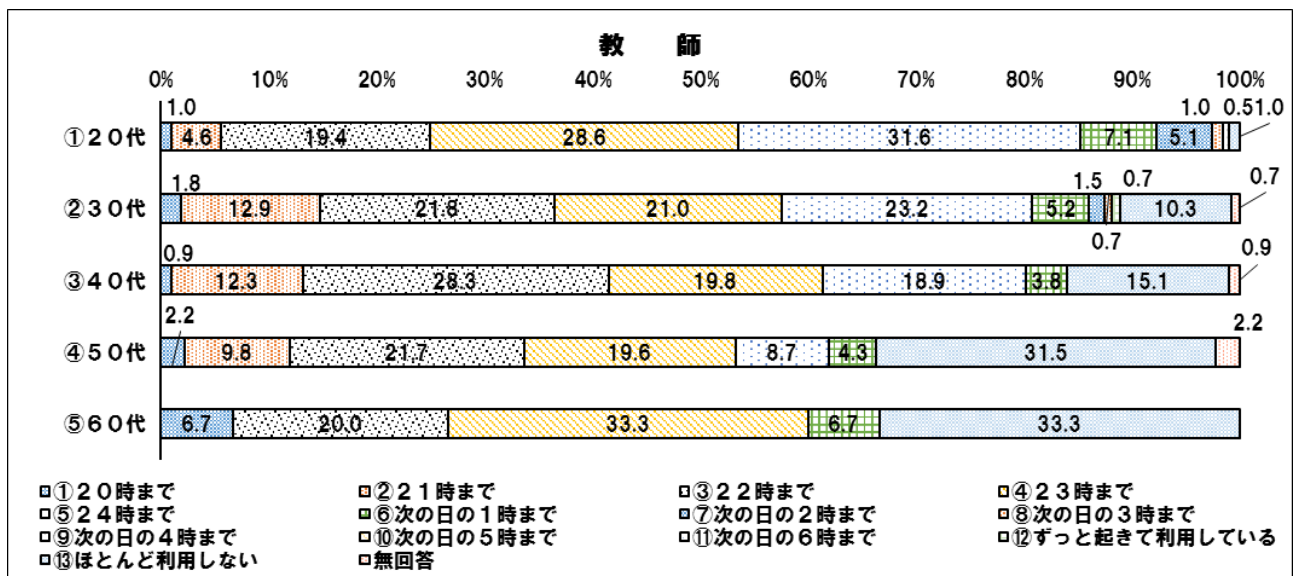
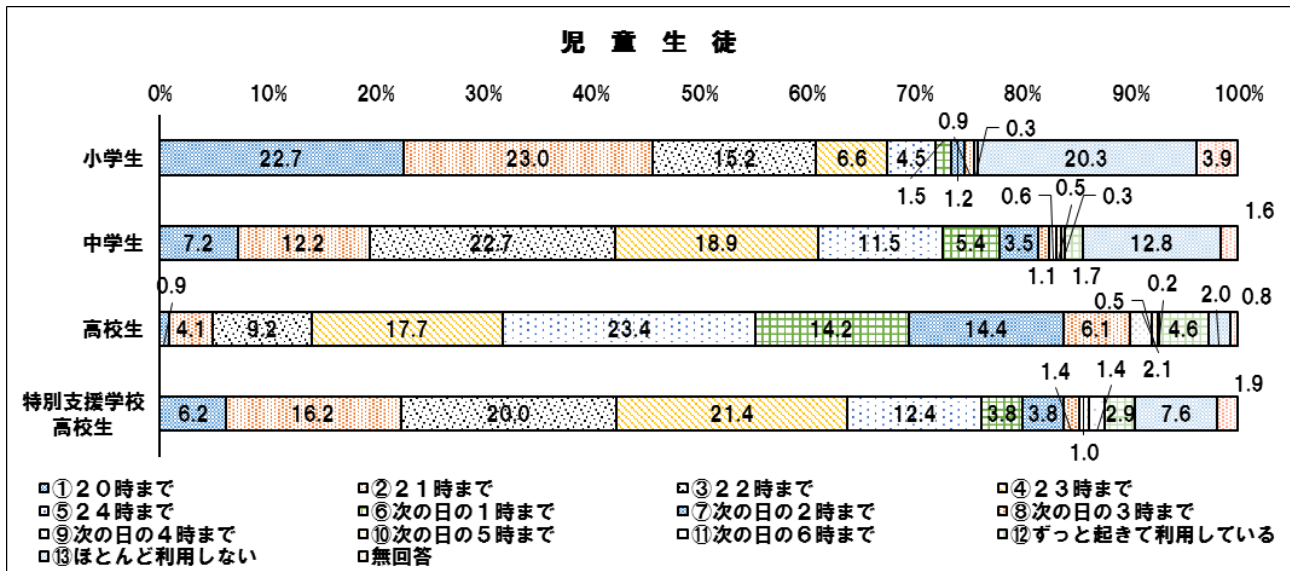


項目2【日常生活におけるSNS利用の占める割合】

(8) 日曜日に、何も予定が入っていないとき、前日の土曜日には、SNS等（動画・ゲームも含む）のコミュニケーションアプリを平均して何時頃まで利用しますか。

	児童生徒				教師					
人数	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答
①20時まで	76	112	11	13	2	5	1	2	1	0
②21時まで	77	189	53	34	9	35	13	9	0	1
③22時まで	51	351	119	42	38	59	30	20	3	1
④23時まで	22	292	229	45	56	57	21	18	5	0
⑤24時まで	15	177	302	26	62	63	20	8	0	2
⑥次の日の1時まで	5	83	184	8	14	14	4	4	1	1
⑦次の日の2時まで	4	54	186	8	10	4	0	0	0	0
⑧次の日の3時まで	3	17	79	3	2	2	0	0	0	0
⑨次の日の4時まで	0	9	27	2	1	0	0	0	0	0
⑩次の日の5時まで	0	7	6	0	0	0	0	0	0	0
⑪次の日の6時まで	1	5	2	3	0	0	0	0	0	0
⑫ずっと起きて利用している	0	27	59	6	0	2	0	0	0	0
⑬ほとんど利用しない	68	197	26	16	2	28	16	29	5	0
無回答	13	25	10	4	0	2	1	2	0	0
%	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答
①20時まで	22.7	7.2	0.9	6.2	1.0	1.8	0.9	2.2	6.7	
②21時まで	23.0	12.2	4.1	16.2	4.6	12.9	12.3	9.8		20.0
③22時まで	15.2	22.7	9.2	20.0	19.4	21.8	28.3	21.7	20.0	20.0
④23時まで	6.6	18.9	17.7	21.4	28.6	21.0	19.8	19.6	33.3	
⑤24時まで	4.5	11.5	23.4	12.4	31.6	23.2	18.9	8.7		40.0
⑥次の日の1時まで	1.5	5.4	14.2	3.8	7.1	5.2	3.8	4.3	6.7	20.0
⑦次の日の2時まで	1.2	3.5	14.4	3.8	5.1	1.5				
⑧次の日の3時まで	0.9	1.1	6.1	1.4	1.0	0.7				
⑨次の日の4時まで		0.6	2.1	1.0	0.5					
⑩次の日の5時まで		0.5	0.5							
⑪次の日の6時まで	0.3	0.3	0.2	1.4						
⑫ずっと起きて利用している		1.7	4.6	2.9		0.7				
⑬ほとんど利用しない	20.3	12.8	2.0	7.6	1.0	10.3	15.1	31.5	33.3	
無回答	3.9	1.6	0.8	1.9		0.7	0.9	2.2		

項目2【日常生活におけるSNS利用の占める割合】

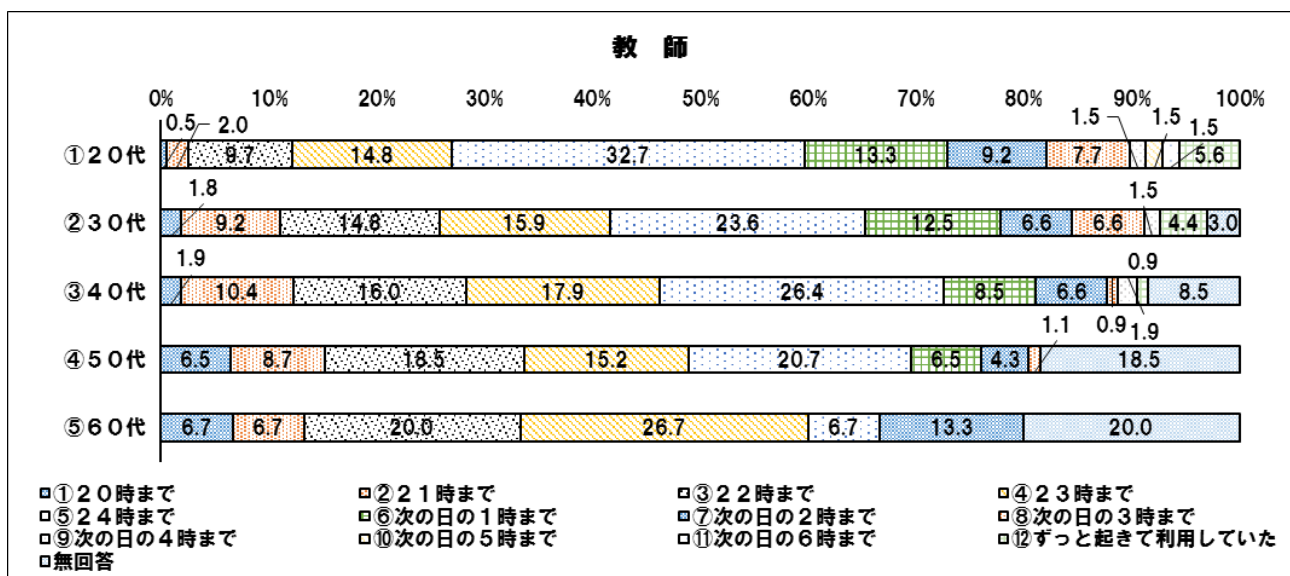
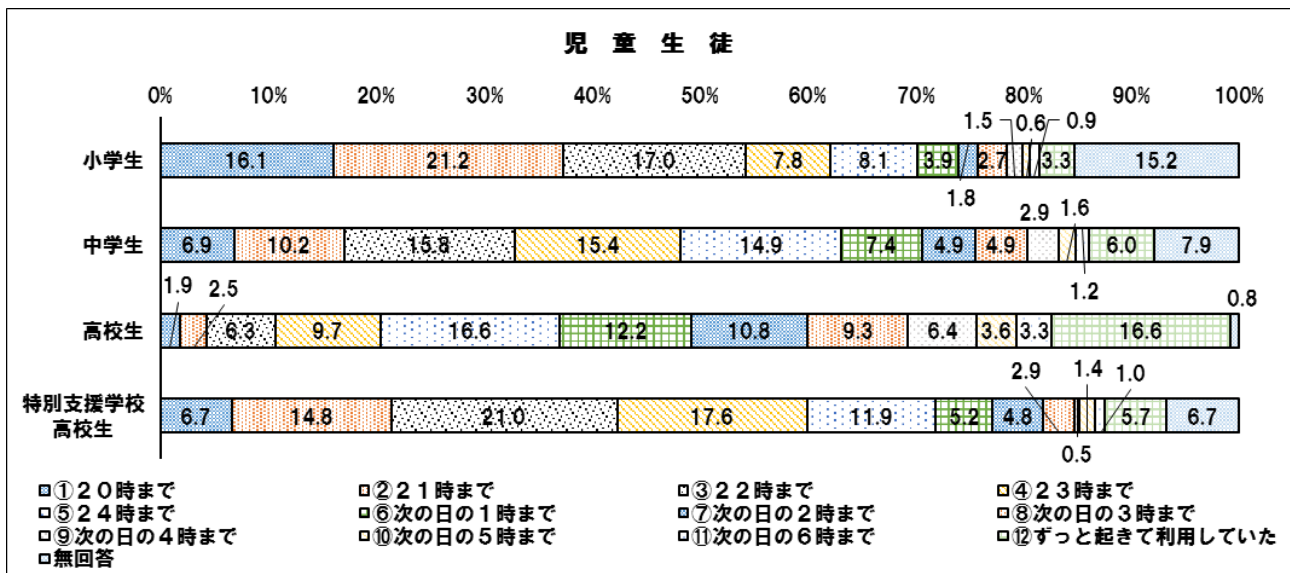


項目2【日常生活におけるSNS利用の占める割合】

- (9) (8)のように、予定が入っていない休みの日の前日、SNS等（動画・ゲームも含む）のコミュニケーションアプリを最大で何時ごろまで利用したことがありますか。

	児童生徒				教師					
人数	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答
①20時まで	54	106	24	14	1	5	2	6	1	0
②21時まで	71	158	32	31	4	25	11	8	1	0
③22時まで	57	244	82	44	19	40	17	17	3	2
④23時まで	26	238	126	37	29	43	19	14	4	0
⑤24時まで	27	230	215	25	64	64	28	19	1	2
⑥次の日の1時まで	13	115	158	11	26	34	9	6	0	1
⑦次の日の2時まで	6	76	139	10	18	18	7	4	2	0
⑧次の日の3時まで	9	75	120	6	15	18	1	1	0	0
⑨次の日の4時まで	5	45	83	1	3	4	2	0	0	0
⑩次の日の5時まで	2	24	47	3	3	0	0	0	0	0
⑪次の日の6時まで	3	19	43	2	3	0	0	0	0	0
⑫ずっと起きて利用していた	11	93	214	12	11	12	1	0	0	0
無回答	51	122	10	14	0	8	9	17	3	0
%	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答
①20時まで	16.1	6.9	1.9	6.7	0.5	1.8	1.9	6.5	6.7	
②21時まで	21.2	10.2	2.5	14.8	2.0	9.2	10.4	8.7	6.7	
③22時まで	17.0	15.8	6.3	21.0	9.7	14.8	16.0	18.5	20.0	40.0
④23時まで	7.8	15.4	9.7	17.6	14.8	15.9	17.9	15.2	26.7	
⑤24時まで	8.1	14.9	16.6	11.9	32.7	23.6	26.4	20.7	6.7	40.0
⑥次の日の1時まで	3.9	7.4	12.2	5.2	13.3	12.5	8.5	6.5		20.0
⑦次の日の2時まで	1.8	4.9	10.8	4.8	9.2	6.6	6.6	4.3	13.3	
⑧次の日の3時まで	2.7	4.9	9.3	2.9	7.7	6.6	0.9	1.1		
⑨次の日の4時まで	1.5	2.9	6.4	0.5	1.5	1.5	1.9			
⑩次の日の5時まで	0.6	1.6	3.6	1.4	1.5					
⑪次の日の6時まで	0.9	1.2	3.3	1.0	1.5					
⑫ずっと起きて利用していた	3.3	6.0	16.6	5.7	5.6	4.4	0.9			
無回答	15.2	7.9	0.8	6.7		3.0	8.5	18.5	20.0	

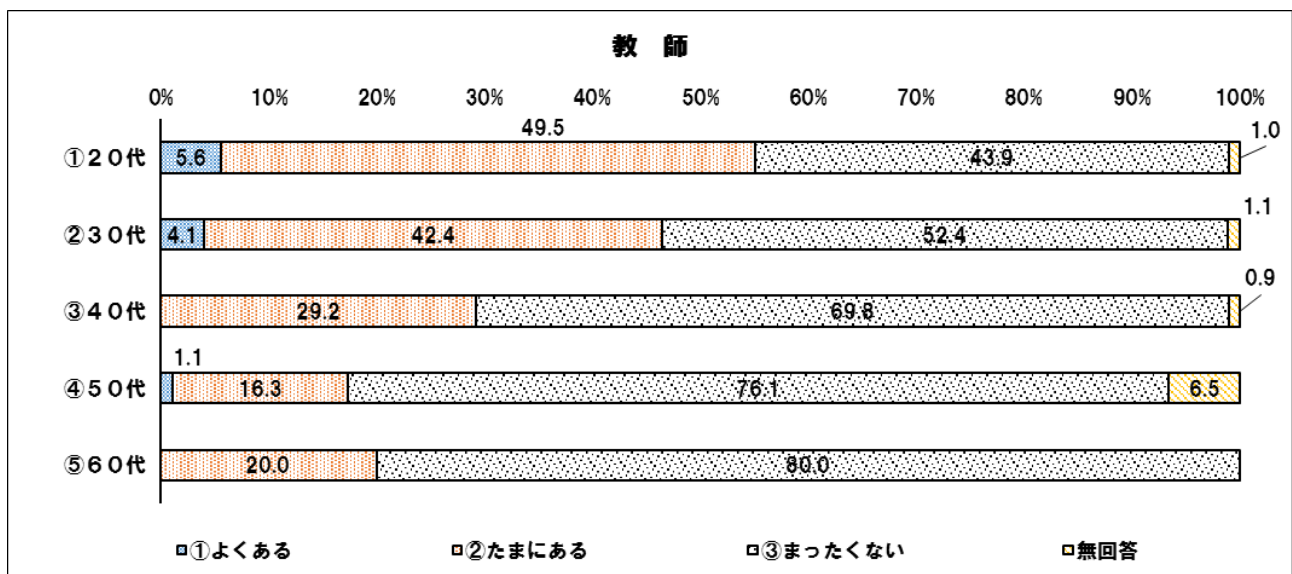
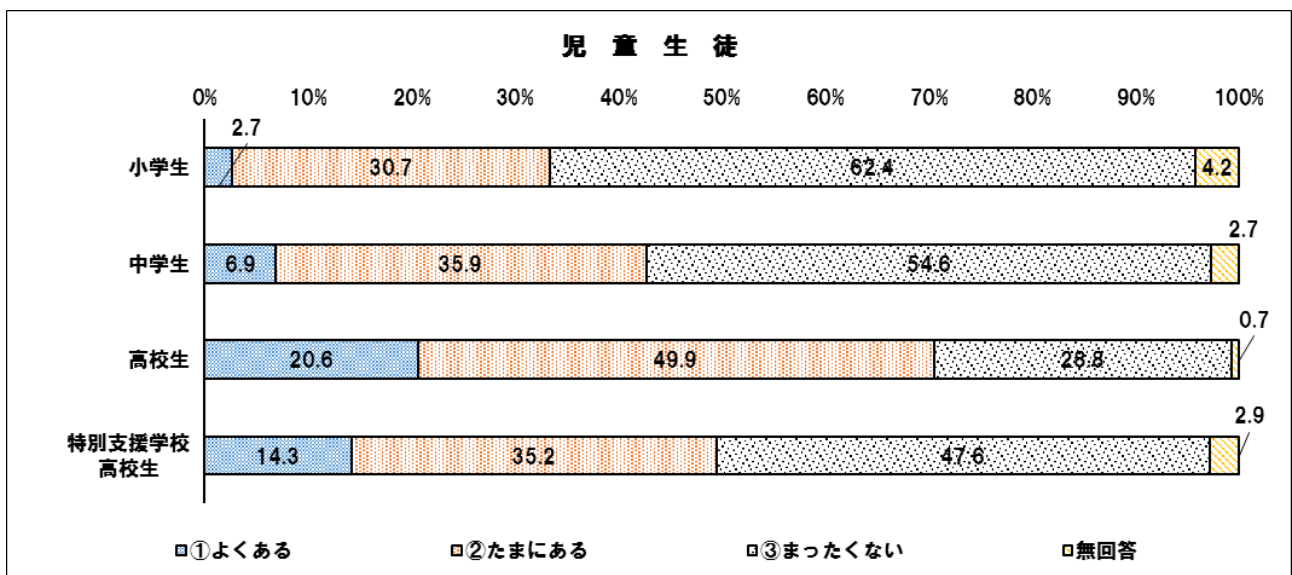
項目2【日常生活におけるSNS利用の占める割合】



項目2【日常生活におけるSNS利用の占める割合】

- (10) 月曜日など休みあけの朝、前日の夜に遅くまでSNS等（動画・ゲームも含む）のコミュニケーションアプリを使用していて、起きるのがつらいと思うことがありますか。

	児童生徒				教師					
人数	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答
①よくある	9	106	267	30	11	11	0	1	0	0
②たまにある	103	554	645	74	97	115	31	15	3	1
③まったくない	209	844	372	100	86	142	74	70	12	4
無回答	14	41	9	6	2	3	1	6	0	0
%	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答
①よくある	2.7	6.9	20.6	14.3	5.6	4.1		1.1		
②たまにある	30.7	35.9	49.9	35.2	49.5	42.4	29.2	16.3	20.0	20.0
③まったくない	62.4	54.6	28.8	47.6	43.9	52.4	69.8	76.1	80.0	80.0
無回答	4.2	2.7	0.7	2.9	1.0	1.1	0.9	6.5		



項目2【日常生活におけるSNS利用の占める割合】

【日常生活におけるSNS利用の占める割合】の結果概要と考察

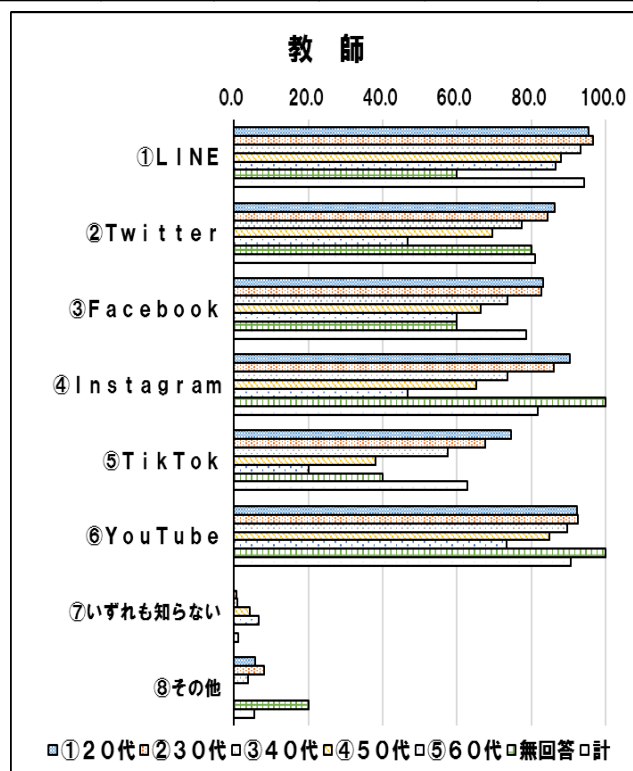
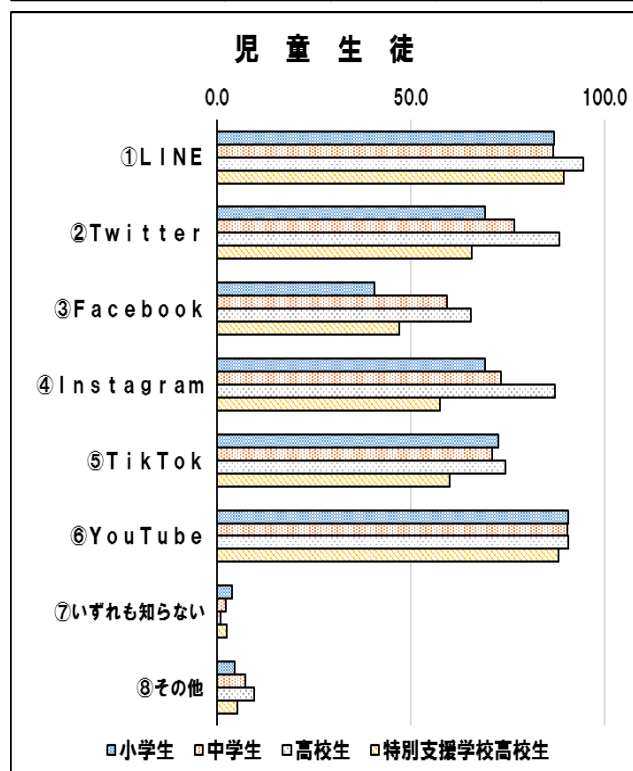
- スマートフォンの所持率は、児童生徒が全体で72.9%である。校種別に見ると小学校5年生で22.1%、6年生で28.9%であったものが、中学校1年生で55.5%とほぼ倍増している。さらに、高校1年生では95.9%に上昇し、多くの生徒が所持していることがわかる。特別支援学校高校生では全体で82.9%の生徒が所持していた。
 - 内閣府による令和元年度青少年のインターネット利用環境実態調査報告書では、中学生は男子80.1%、女子83.3%、高校生においては男子98.7%、女子98.5%が専用のスマートフォンを利用しているが、本調査では中学生は男子56.3%、女子67.8%で、高校生は男子96.1%、女子97.3%といずれも全国と比べて低かった。
- 無料Wi-Fiの使用に関して、児童生徒については「使用する」と「使用しない」がほぼ半数になった。つなぐ場所としては、コンビニエンスストアやファストフード店がやや多いが、様々な場所の無料Wi-Fiを利用しているという実態がわかる。教職員では57.8%が「使用する」と答えている。
 - 無料Wi-Fiの中には通信傍受やID・パスワードなどを盗むために設置された悪質なWi-Fiスポットもある。安全に使うために、スマホのWi-Fi接続設定が自動になっていると、危険なWi-Fiスポットにつながってしまう可能性もあることや、接続前に安全性の確認をすることが大切であることなどを知識として伝える必要がある。
- SNS等の利用時刻について、平日であっても遅くまで利用する傾向がみられた。学年が上がるにつれ、小学生もわずかではあるが、日をまたいでの使用が散見され、高校生では約4人に1人が24時を過ぎてもSNS等を利用しているという実態がわかる。
- SNS等のアプリを使用している時間については、1日の使用時間も学年が上がるにつれて長くなっている。小学生では1時間以上2時間未満と答えた児童が最も多く、中学生、高校生では、ともに2時間以上3時間未満使用していると答えた生徒が最も多かった。一方で5時間以上使用していると答えた児童生徒も、全校種合わせて358人/3,383人(10.6%)となっており、10人に1人は1日のSNSの利用時間が5時間を超えているということがわかった。次の日に予定が入っていないときの使用時間についてはさらに遅くなる傾向も見られた。
- 「月曜日の朝、SNSの影響で起きるのがつらいか」という設問では、高校生で約70%の生徒、特別支援学校高校生でも約50%の生徒が、休み明けの朝に辛さを感じている状況にあることがわかった。
 - 自分をコントロールできずスマホが手放せなくなると、日常生活に支障をきたすだけでなく、健康面にも影響が及ぶことがある。適切な使い方ができるよう、利用のルールを話し合い、利用時間を制限するアプリを利用するなど、適切に利用するためにできる工夫をする必要がある。スマホ利用を自制する力を育て、子供の利用状況を観察し、ときには長時間利用による身体への影響を話し合ってみるなど、家庭とも協力していくことが大切である。

項目3【使っているアプリケーション等】

【使っているアプリケーション等】

(11) SNS等のアプリで、知っているコミュニケーションアプリはどれですか。(複数回答可)

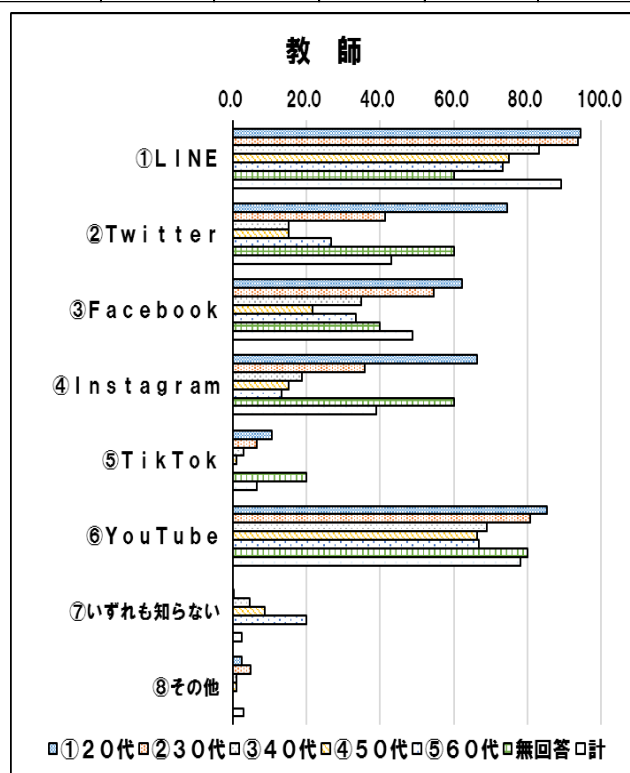
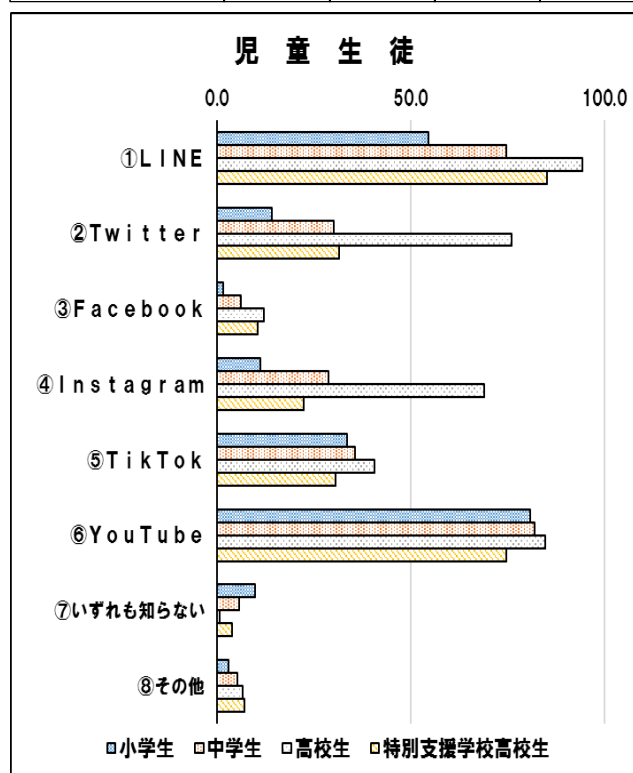
人数	児童生徒				教師					
	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答
①LINE	292	1343	1224	188	187	262	99	81	13	3
②Twitter	232	1186	1143	138	169	229	82	64	7	4
③Facebook	136	917	849	99	163	224	78	61	9	3
④Instagram	232	1133	1128	121	177	233	78	60	7	5
⑤TikTok	243	1096	964	126	146	183	61	35	3	2
⑥YouTube	304	1399	1174	185	181	251	95	78	11	5
⑦いずれも知らない	13	35	12	5	0	2	1	4	1	0
⑧その他	15	113	123	11	11	22	4	0	0	1
%	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答
①LINE	87.2	86.9	94.7	89.5	95.4	96.7	93.4	88.0	86.7	60.0
②Twitter	69.3	76.8	88.4	65.7	86.2	84.5	77.4	69.6	46.7	80.0
③Facebook	40.6	59.4	65.7	47.1	83.2	82.7	73.6	66.3	60.0	60.0
④Instagram	69.3	73.3	87.2	57.6	90.3	86.0	73.6	65.2	46.7	100.0
⑤TikTok	72.5	70.9	74.6	60.0	74.5	67.5	57.5	38.0	20.0	40.0
⑥YouTube	90.7	90.6	90.8	88.1	92.3	92.6	89.6	84.8	73.3	100.0
⑦いずれも知らない	3.9	2.3	0.9	2.4		0.7	0.9	4.3	6.7	
⑧その他	4.5	7.3	9.5	5.2	5.6	8.1	3.8	0.0	0.0	20.0



項目3【使っているアプリケーション等】

- (12) SNS等のアプリで、使ったことがあるコミュニケーションアプリはどれですか。
(複数回答可)

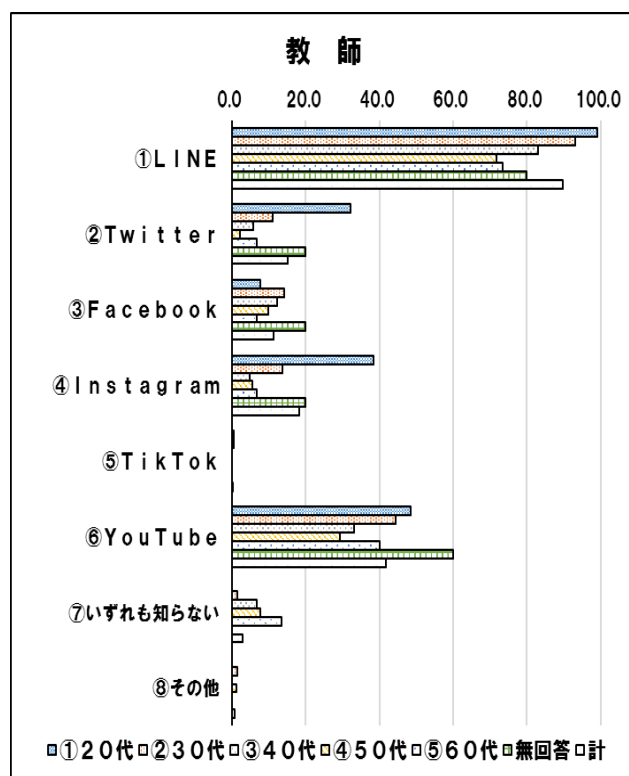
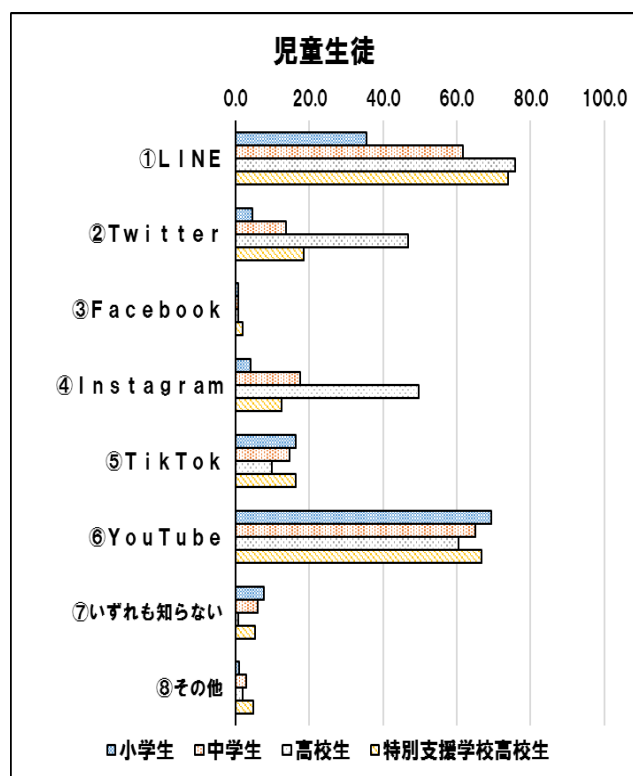
人数	児童生徒				教師					
	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答
①LINE	183	1153	1221	179	185	254	88	69	11	3
②Twitter	47	467	983	66	146	112	16	14	4	3
③Facebook	5	93	157	22	122	148	37	20	5	2
④Instagram	37	443	892	47	130	97	20	14	2	3
⑤TikTok	112	551	526	64	21	18	3	1	0	1
⑥YouTube	271	1268	1095	157	167	219	73	61	10	4
⑦いずれも知らない	33	88	8	8	0	1	5	8	3	0
⑧その他	10	79	86	15	5	13	1	1	0	0
%	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答
①LINE	54.6	74.6	94.4	85.2	94.4	93.7	83.0	75.0	73.3	60.0
②Twitter	14.0	30.2	76.0	31.4	74.5	41.3	15.1	15.2	26.7	60.0
③Facebook	1.5	6.0	12.1	10.5	62.2	54.6	34.9	21.7	33.3	40.0
④Instagram	11.0	28.7	69.0	22.4	66.3	35.8	18.9	15.2	13.3	60.0
⑤TikTok	33.4	35.7	40.7	30.5	10.7	6.6	2.8	1.1		20.0
⑥YouTube	80.9	82.1	84.7	74.8	85.2	80.8	68.9	66.3	66.7	80.0
⑦いずれも知らない	9.9	5.7	0.6	3.8		0.4	4.7	8.7	20.0	
⑧その他	3.0	5.1	6.7	7.1	2.6	4.8	0.9	1.1		



項目3【使っているアプリケーション等】

(13) SNS等のアプリで、使用頻度の高いコミュニケーションアプリはどれですか。(複数回答可)

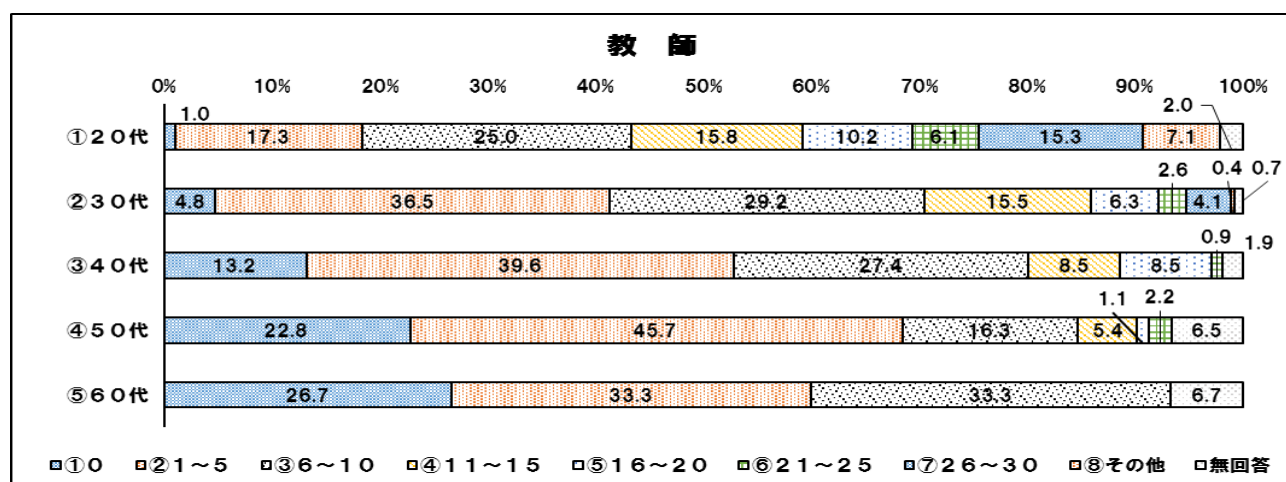
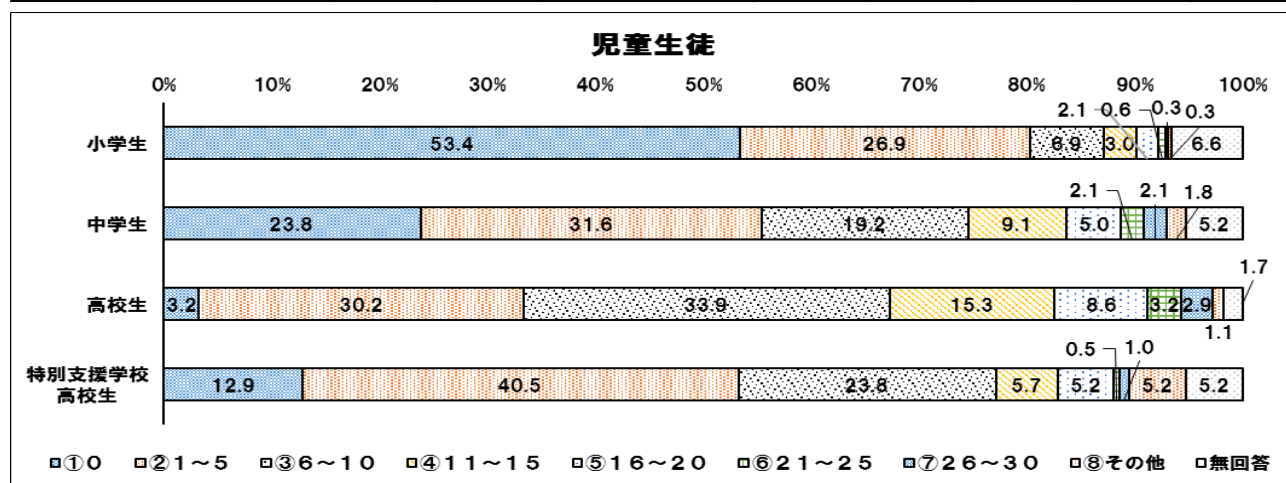
人数	児童生徒				教師					
	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答
①LINE	119	954	980	155	194	252	88	66	11	4
②Twitter	15	210	604	39	63	30	6	2	1	1
③Facebook	2	11	10	4	15	38	13	9	1	1
④Instagram	14	272	643	26	75	37	5	5	1	1
⑤TikTok	55	226	126	34	1	1	0	0	0	0
⑥YouTube	232	1006	781	140	95	120	35	27	6	3
⑦いずれも知らない	26	91	9	11	0	4	7	7	2	0
⑧その他	3	45	25	10	0	4	0	1	0	0
%	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答
①LINE	35.5	61.7	75.8	73.8	99.0	93.0	83.0	71.7	73.3	80.0
②Twitter	4.5	13.6	46.7	18.6	32.1	11.1	5.7	2.2	6.7	20.0
③Facebook	0.6	0.7	0.8	1.9	7.7	14.0	12.3	9.8	6.7	20.0
④Instagram	4.2	17.6	49.7	12.4	38.3	13.7	4.7	5.4	6.7	20.0
⑤TikTok	16.4	14.6	9.7	16.2	0.5	0.4				0.0
⑥YouTube	69.3	65.1	60.4	66.7	48.5	44.3	33.0	29.3	40.0	60.0
⑦いずれも知らない	7.8	5.9	0.7	5.2		1.5	6.6	7.6	13.3	0.0
⑧その他	0.9	2.9	1.9	4.8		1.5		1.1		0.0



項目3【使っているアプリケーション等】

(14) SNS等のコミュニケーションアプリで作った（所属している）グループの数は、複数のアプリ全体でいくつありますか。

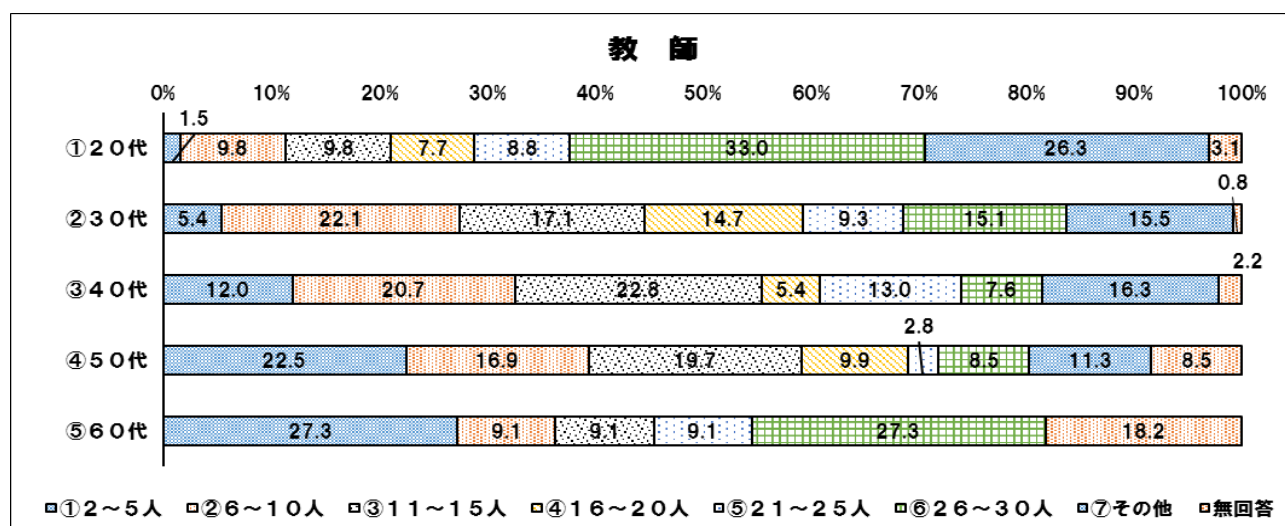
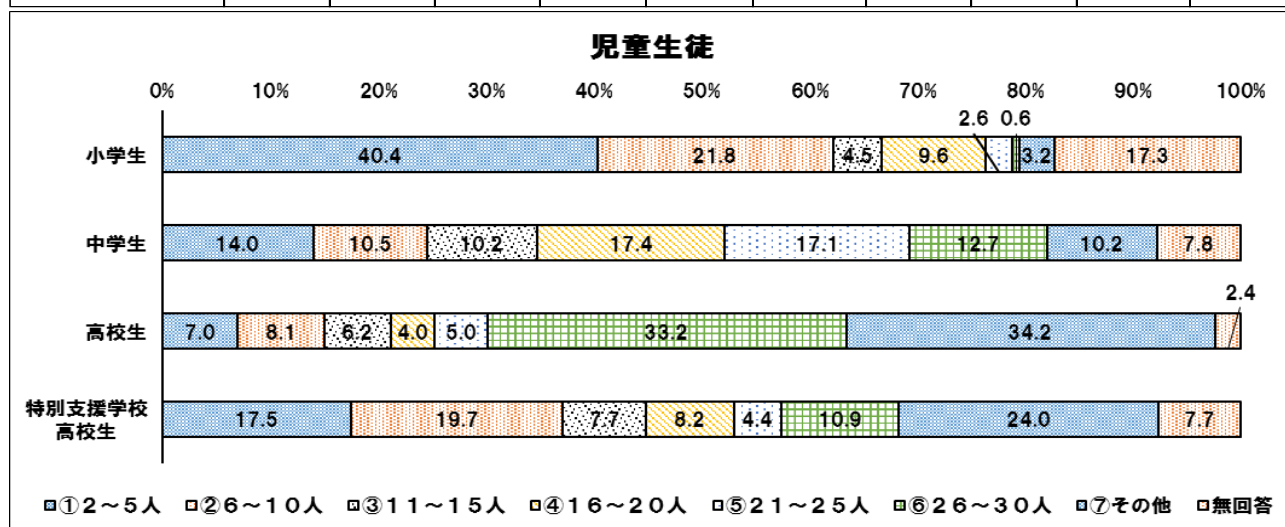
	児童生徒				教師					
人数	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答
①0	179	368	42	27	2	13	14	21	4	0
②1～5	90	488	390	85	34	99	42	42	5	1
③6～10	23	296	438	50	49	79	29	15	5	1
④11～15	10	141	198	12	31	42	9	5	0	2
⑤16～20	7	78	111	11	20	17	9	1	0	0
⑥21～25	2	32	41	1	12	7	1	2	0	0
⑦26～30	1	33	37	2	30	11	0	0	0	1
⑧その他	1	28	14	11	14	1	0	0	0	0
無回答	22	81	22	11	4	2	2	6	1	0
%	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答
①0	53.4	23.8	3.2	12.9	1.0	4.8	13.2	22.8	26.7	
②1～5	26.9	31.6	30.2	40.5	17.3	36.5	39.6	45.7	33.3	20.0
③6～10	6.9	19.2	33.9	23.8	25.0	29.2	27.4	16.3	33.3	20.0
④11～15	3.0	9.1	15.3	5.7	15.8	15.5	8.5	5.4		40.0
⑤16～20	2.1	5.0	8.6	5.2	10.2	6.3	8.5	1.1		
⑥21～25	0.6	2.1	3.2	0.5	6.1	2.6	0.9	2.2		
⑦26～30	0.3	2.1	2.9	1.0	15.3	4.1				20.0
⑧その他	0.3	1.8	1.1	5.2	7.1	0.4				
無回答	6.6	5.2	1.7	5.2	2.0	0.7	1.9	6.5	6.7	



項目3【使っているアプリケーション等】

(15) SNS等のコミュニケーションアプリで作った（所属している）グループのうち、最大の人数は何人ですか。

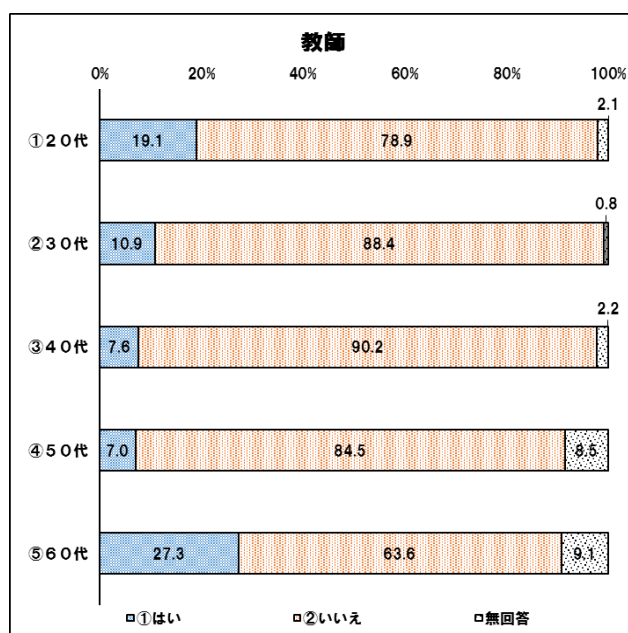
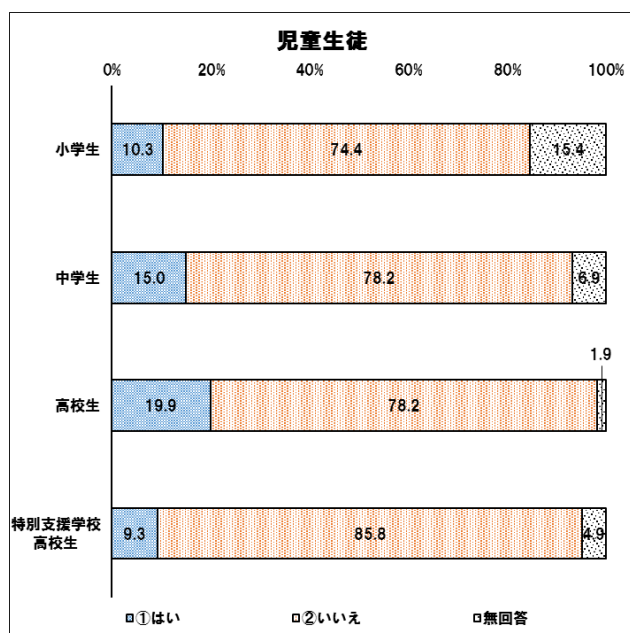
人数	児童生徒				教師					
	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答
①2～5人	63	165	87	32	3	14	11	16	3	0
②6～10人	34	124	101	36	19	57	19	12	1	1
③11～15人	7	120	77	14	19	44	21	14	1	0
④16～20人	15	205	50	15	15	38	5	7	0	1
⑤21～25人	4	201	63	8	17	24	12	2	1	0
⑥26～30人	1	150	415	20	64	39	7	6	3	1
⑦その他	5	120	428	44	51	40	15	8	0	2
無回答	27	92	30	14	6	2	2	6	2	0
%	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答
①2～5人	40.4	14.0	7.0	17.5	1.5	5.4	12.0	22.5	27.3	
②6～10人	21.8	10.5	8.1	19.7	9.8	22.1	20.7	16.9	9.1	20.0
③11～15人	4.5	10.2	6.2	7.7	9.8	17.1	22.8	19.7	9.1	
④16～20人	9.6	17.4	4.0	8.2	7.7	14.7	5.4	9.9		20.0
⑤21～25人	2.6	17.1	5.0	4.4	8.8	9.3	13.0	2.8	9.1	
⑥26～30人	0.6	12.7	33.2	10.9	33.0	15.1	7.6	8.5	27.3	20.0
⑦その他	3.2	10.2	34.2	24.0	26.3	15.5	16.3	11.3		40.0
無回答	17.3	7.8	2.4	7.7	3.1	0.8	2.2	8.5	18.2	



項目3【使っているアプリケーション等】

- (16) SNS等のコミュニケーションアプリで作った（所属している）グループのうち、鍵をかけている（パスワードを設定している）グループはありますか。

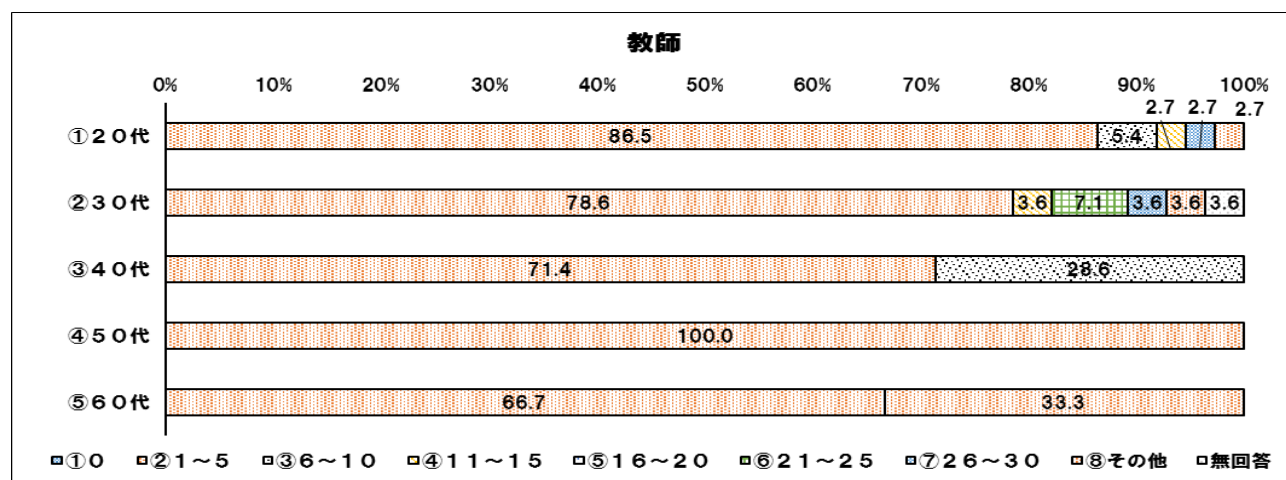
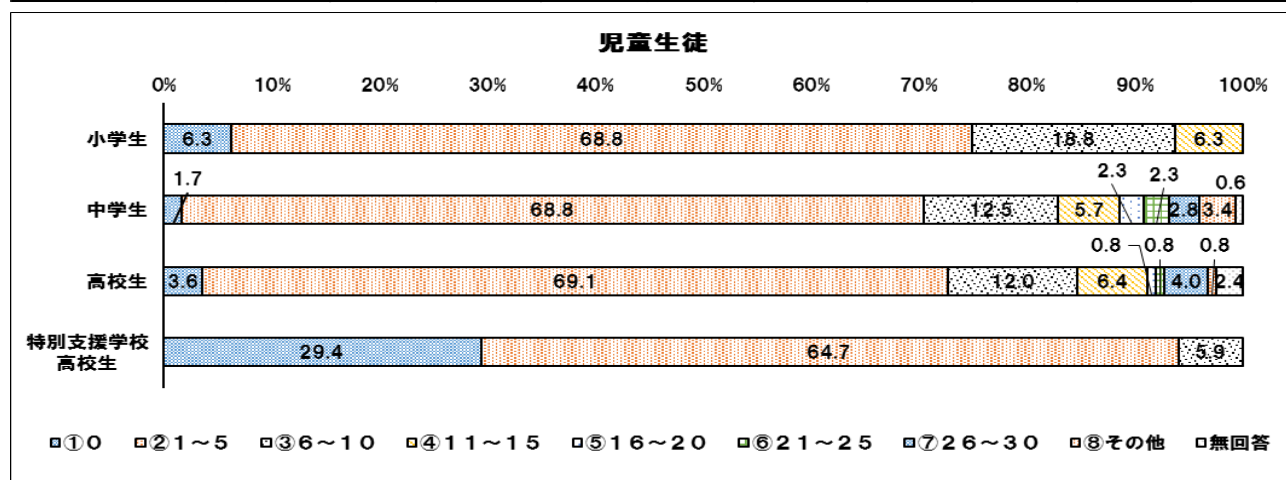
人数	児童生徒				教師					
	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答
①はい	16	176	249	17	37	28	7	5	3	1
②いいえ	116	920	978	157	153	228	83	60	7	4
無回答	24	81	24	9	4	2	2	6	1	0
%	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答
①はい	10.3	15.0	19.9	9.3	19.1	10.9	7.6	7.0	27.3	20.0
②いいえ	74.4	78.2	78.2	85.8	78.9	88.4	90.2	84.5	63.6	80.0
無回答	15.4	6.9	1.9	4.9	2.1	0.8	2.2	8.5	9.1	



項目3【使っているアプリケーション等】

(17) (16)で①はいと答えた人に聞きます。鍵をかけている(パスワードを設定している)グループはいくつありますか。

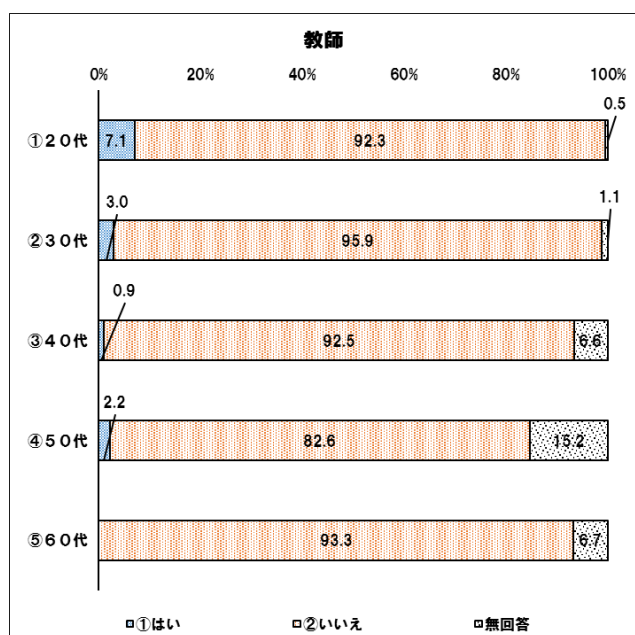
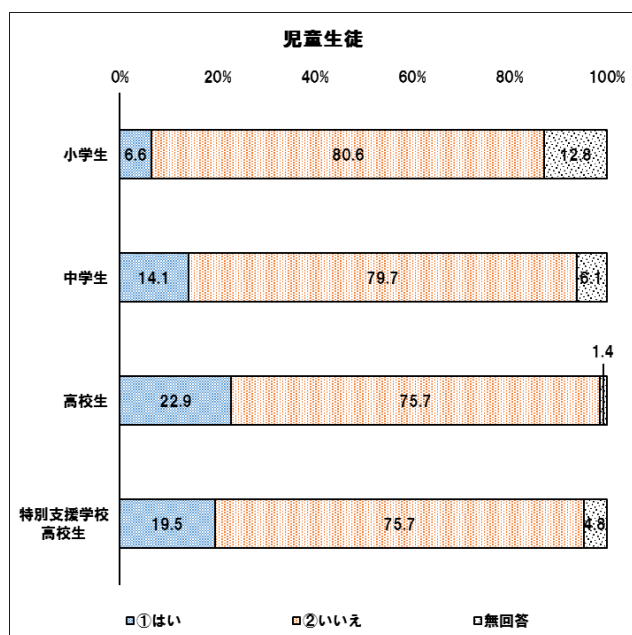
人数	児童生徒				教師					
	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答
①0	1	3	9	5	0	0	0	0	0	0
②1～5	11	121	172	11	32	22	5	5	2	0
③6～10	3	22	30	1	2	0	2	0	0	0
④11～15	1	10	16	0	1	1	0	0	0	0
⑤16～20	0	4	2	0	0	0	0	0	0	0
⑥21～25	0	4	2	0	0	2	0	0	0	0
⑦26～30	0	5	10	0	1	1	0	0	0	0
⑧その他	0	6	2	0	1	1	0	0	1	0
無回答	0	1	6	0	0	1	0	0	0	0
%	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答
①0	6.3	1.7	3.6	29.4	86.5	78.6	71.4	100.0	66.7	
②1～5	68.8	68.8	69.1	64.7	5.4		28.6			
③6～10	18.8	12.5	12.0	5.9	2.7	3.6				
④11～15	6.3	5.7	6.4							
⑤16～20		2.3	0.8			7.1				
⑥21～25		2.3	0.8		2.7	3.6				
⑦26～30		2.8	4.0		2.7	3.6			33.3	
⑧その他		3.4	0.8			3.6				
無回答		0.6	2.4							



項目3【使っているアプリケーション等】

(18) SNS等のコミュニケーションアプリで、自分のアイコンの表示のところの未読の数が1000という数字を見たことはありますか。

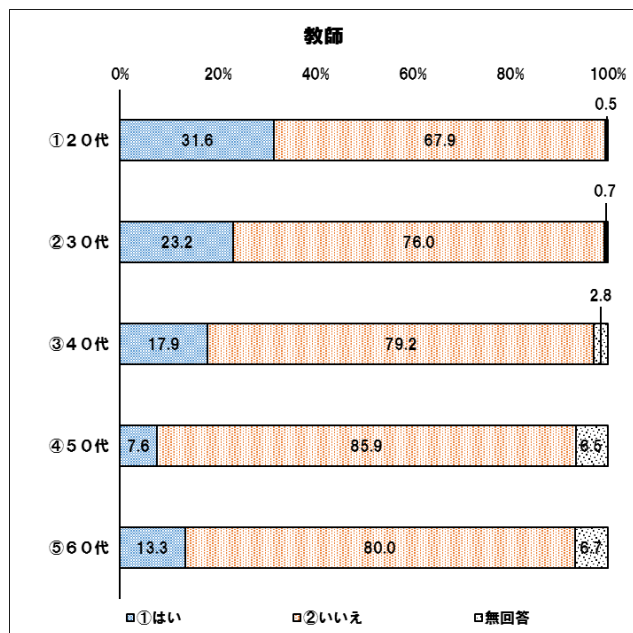
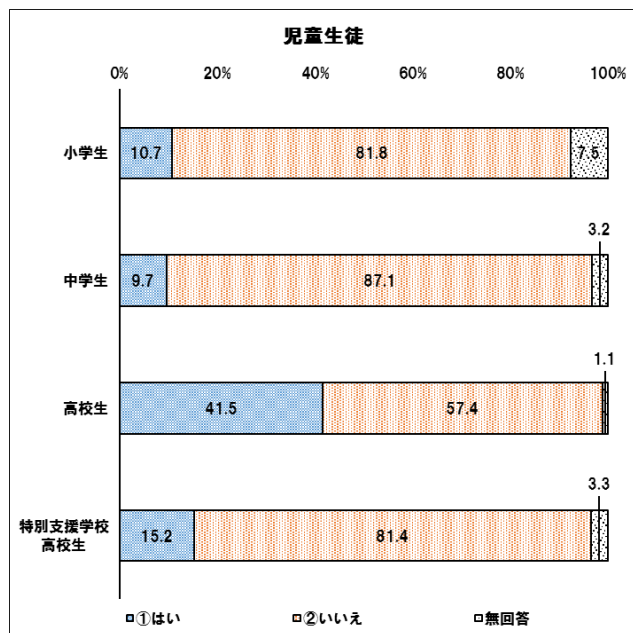
人数	児童生徒				教師					
	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答
①はい	22	218	296	41	14	8	1	2	0	0
②いいえ	270	1232	979	159	181	260	98	76	14	5
無回答	43	95	18	10	1	3	7	14	1	0
%	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答
①はい	6.6	14.1	22.9	19.5	7.1	3.0	0.9	2.2		
②いいえ	80.6	79.7	75.7	75.7	92.3	95.9	92.5	82.6	93.3	100.0
無回答	12.8	6.1	1.4	4.8	0.5	1.1	6.6	15.2	6.7	



項目3【使っているアプリケーション等】

(19) フリマアプリ等で何か買ったことがありますか。

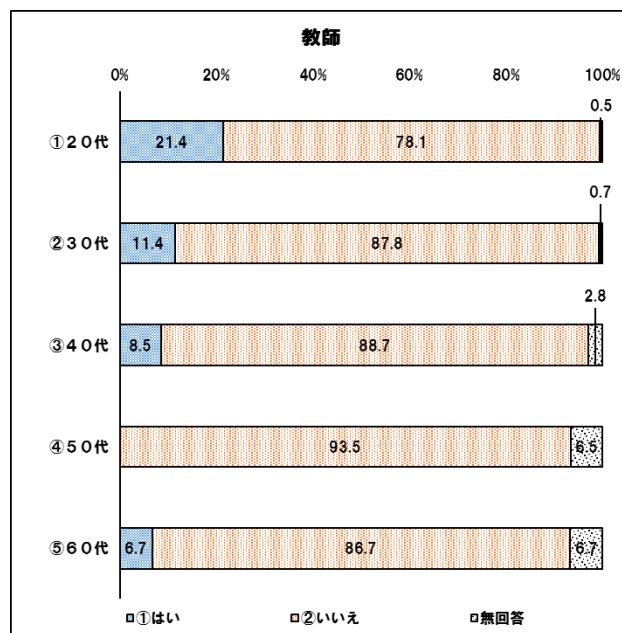
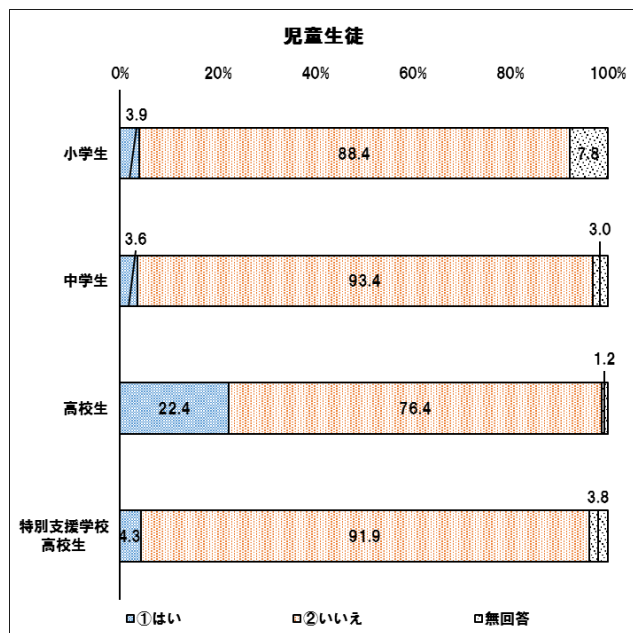
	児童生徒				教師					
人数	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答
①はい	36	150	537	32	62	63	19	7	2	1
②いいえ	274	1345	742	171	133	206	84	79	12	4
無回答	25	50	14	7	1	2	3	6	1	0
%	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答
①はい	10.7	9.7	41.5	15.2	31.6	23.2	17.9	7.6	13.3	20.0
②いいえ	81.8	87.1	57.4	81.4	67.9	76.0	79.2	85.9	80.0	80.0
無回答	7.5	3.2	1.1	3.3	0.5	0.7	2.8	6.5	6.7	



項目3【使っているアプリケーション等】

(20) フリマアプリ等で何か売ったことがありますか。

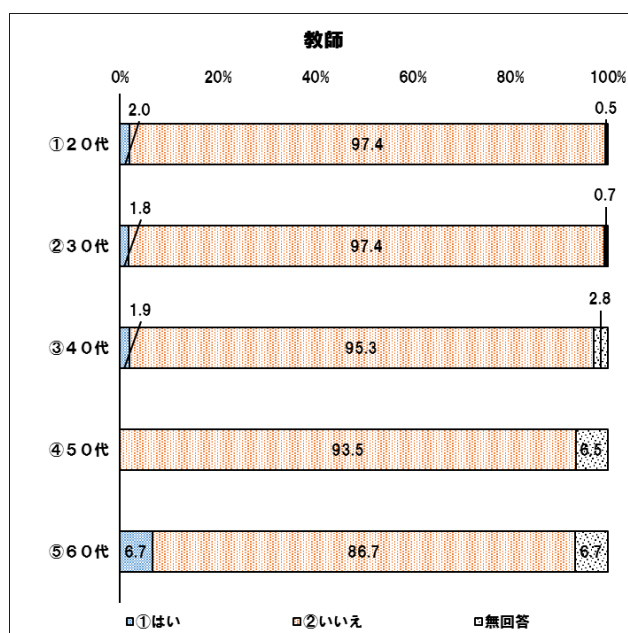
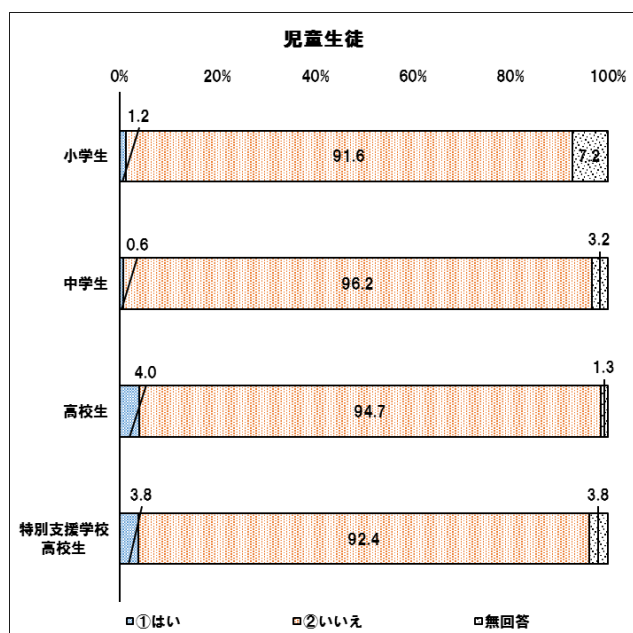
	児童生徒				教師					
人数	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答
①はい	13	55	289	9	42	31	9	0	1	1
②いいえ	296	1443	988	193	153	238	94	86	13	4
無回答	26	47	16	8	1	2	3	6	1	0
%	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答
①はい	3.9	3.6	22.4	4.3	21.4	11.4	8.5		6.7	20.0
②いいえ	88.4	93.4	76.4	91.9	78.1	87.8	88.7	93.5	86.7	80.0
無回答	7.8	3.0	1.2	3.8	0.5	0.7	2.8	6.5	6.7	



項目3【使っているアプリケーション等】

(21) フリマアプリ等を利用したネットショッピングで、トラブルにあったことがありますか。

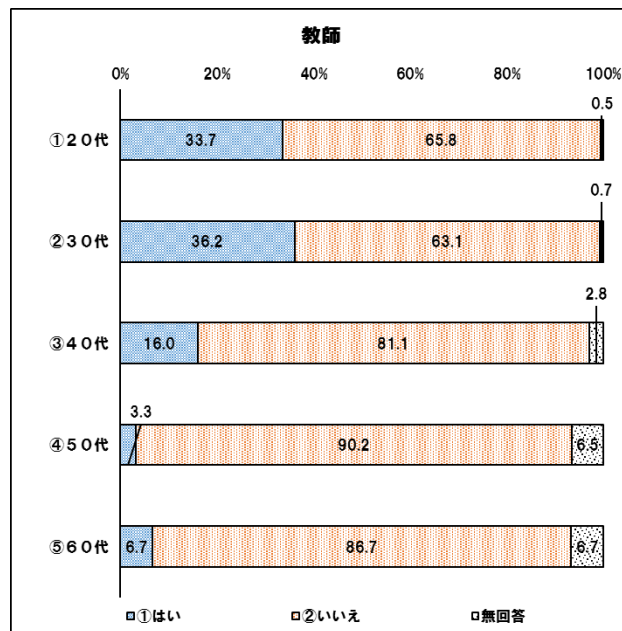
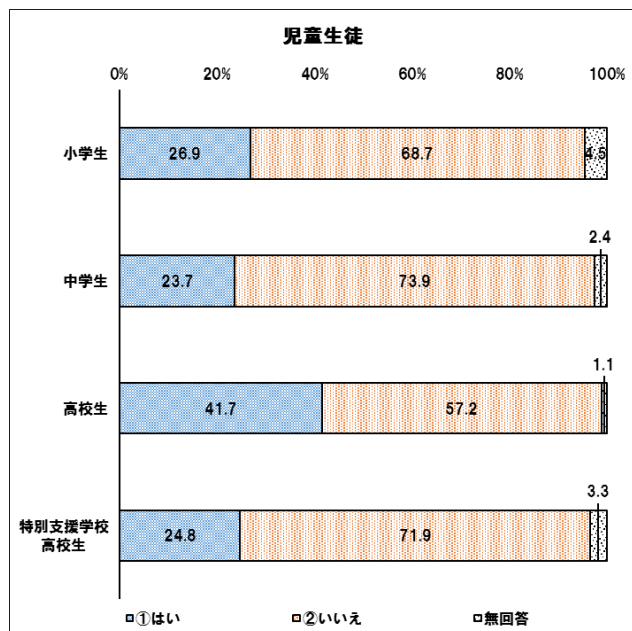
	児童生徒				教師					
人数	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答
①はい	4	10	52	8	4	5	2	0	1	0
②いいえ	307	1486	1224	194	191	264	101	86	13	5
無回答	24	49	17	8	1	2	3	6	1	0
%	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答
①はい	1.2	0.6	4.0	3.8	2.0	1.8	1.9		6.7	
②いいえ	91.6	96.2	94.7	92.4	97.4	97.4	95.3	93.5	86.7	100.0
無回答	7.2	3.2	1.3	3.8	0.5	0.7	2.8	6.5	6.7	



項目3【使っているアプリケーション等】

(22) ゲーム等で課金したことがありますか。

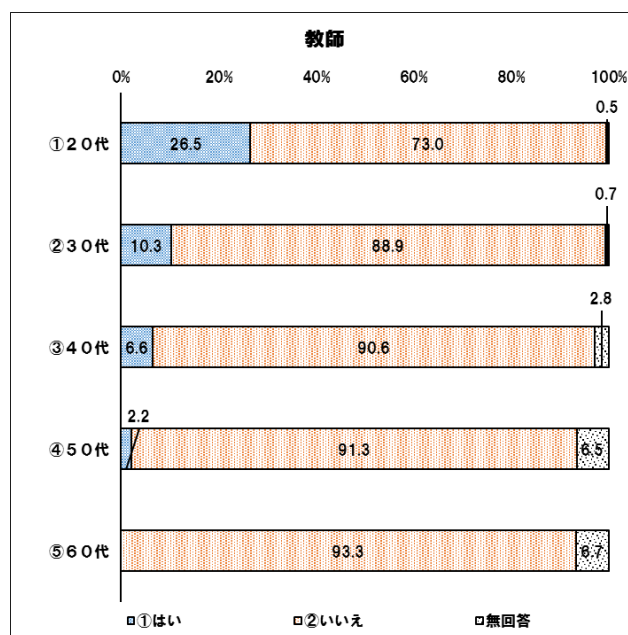
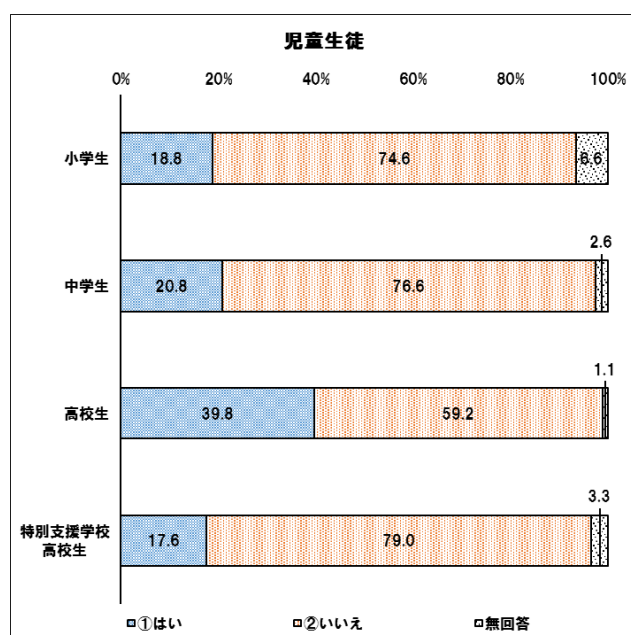
人数	児童生徒				教師					
	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答
①はい	90	366	539	52	66	98	17	3	1	1
②いいえ	230	1142	740	151	129	171	86	83	13	4
無回答	15	37	14	7	1	2	3	6	1	0
%	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答
①はい	26.9	23.7	41.7	24.8	33.7	36.2	16.0	3.3	6.7	20.0
②いいえ	68.7	73.9	57.2	71.9	65.8	63.1	81.1	90.2	86.7	80.0
無回答	4.5	2.4	1.1	3.3	0.5	0.7	2.8	6.5	6.7	



項目3【使っているアプリケーション等】

(23) プリペイドカードを購入して、SNS等（動画・ゲームも含む）のコミュニケーションアプリに使用したことがありますか。

人数	児童生徒				教師					
	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答
①はい	63	322	514	37	52	28	7	2	0	1
②いいえ	250	1183	765	166	143	241	96	84	14	4
無回答	22	40	14	7	1	2	3	6	1	0
%	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答
①はい	18.8	20.8	39.8	17.6	26.5	10.3	6.6	2.2		20.0
②いいえ	74.6	76.6	59.2	79.0	73.0	88.9	90.6	91.3	93.3	80.0
無回答	6.6	2.6	1.1	3.3	0.5	0.7	2.8	6.5	6.7	



【使っているアプリ等】の結果概要と考察

- SNSに関するアプリについて、ほとんどの児童生徒、教職員ともに名称は知っていると答えている。
- 使ったことがあるという設問においては、LINE、YouTubeは児童生徒と教職員では差がほとんどない。一方TikTokは、児童生徒は37.0%に対して、教職員は6.4%となっている。それぞれのアプリの存在は認識していても、児童生徒と教職員では使用したことがあるアプリに差があることがわかった。
- YouTubeは多くの児童生徒、教職員が「使用したことがある」と答えている。
 - 勉強や試験対策にSNSや動画サービスを利用する児童生徒も増えており、「スマホを操作している」イコール「遊んでいる」と決めつけることはできない。そのため、どのような動画を視聴しているのか、気になるときは興味を持って尋ね、ネット関連の話題で会話をすることも、児童生徒の利用状況を把握するための有効な手段の一つである。
- SNSで作っているグループ数は、「1～5」と答えた児童生徒が31.1%と最も多かった。高校生では「6～10」と答えた生徒が最も多く33.9%おり、学年が

項目3【使っているアプリケーション等】

上がるにつれて、所属しているグループ数が多くなっていく傾向がみられた。一方で、高校生でも所属しているグループ数が「0」と答えた生徒が3.2%いた。

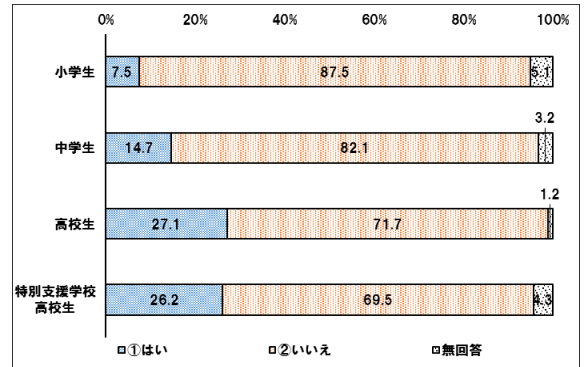
- SNSで作っているグループに所属している人数で最も多いのは、小学生は「2～5人」、中学生は「16～20人」、高校生と特別支援学校高校生では「その他」であった。
 - 中学生や高校生、特別支援学校高校生は、学級や部活動の連絡のためにSNSのグループ機能を利用して連絡手段としているということが考えられる。
- SNSで作っているグループのうち、鍵をかけている（パスワードを設定している）グループがあると答えたのは、いずれの校種においても20%に満たなかった。
 - グループに「鍵をかける」ということは、安全性を高め、そのグループのみの秘密性を保持することにもつながる一方、外部の侵入を制限することができ、外からは見えにくい。そのため、グループ内でいじめが発生したときに、トラブルの発見が遅れがちになり、重大事態となることも考えられる。
 - 一方で、グループに「鍵をかけない」ということは、会話や投稿の内容を誰でも見ることができる可能性があるため、利用しているSNSの危険性について知り、危険を防ぐ仕組みを学ぶことや、危険を防ぐ能力を身に着けることも重要である。
- 「アイコンに未読1,000件」という表示を見たことがある児童生徒は577/3,383人（17.1%）もいることが分かった。学年が上がるにつれてその数は大きくなるが、小学5年生でも「9人」いた。
 - 調査委員によると、大規模イベントやゲーム、アニメといったグループに入っている生徒たちにとっては、未読件数が1,000件を超えることはあり得ることなので、冷静に対処している様子がみられるとのことであった。
- フリマアプリを利用したことがあるのは、児童生徒も教師もほぼ同じ割合、約22%であった。
 - フリマアプリの利用者は急増しているが、個人間取引だからこそ生じる取引上の勘違いや情報不足によるトラブルも多発している。消費者教育を通してその危険性にも触れつつ、被害者にならないようにすることはもちろん、加害者にもならないようにしていくこと、保護者による見守りが欠かせないことを伝えていく必要がある。
 - 調査研究協力委員によると、ゲームで課金するために、フリマアプリを利用してお金を手に入れるケースもみられるとのことであった。
- ゲームの課金については、3分の1の児童生徒が「課金したことがある」と答えた。学年が上がるにつれて、課金した経験も増えている。プリペイドカードを購入して、SNS等のコミュニケーションアプリに利用したことがある児童生徒も27.7%と、少なくはないことがわかった。
 - 調査研究協力委員によると、児童生徒自身で課金していなくても、保護者に小遣い代わりに課金を許可してもらってコミュニケーションアプリを利用しているケースがみられるとのことであった。

項目4【トラブル経験率】【トラブルの種類と自身の対応】

【トラブル経験率】【トラブルの種類と自身の対応】

(24) SNS等のコミュニケーションアプリを使用しているときに、嫌な思いをしたことがありますか。

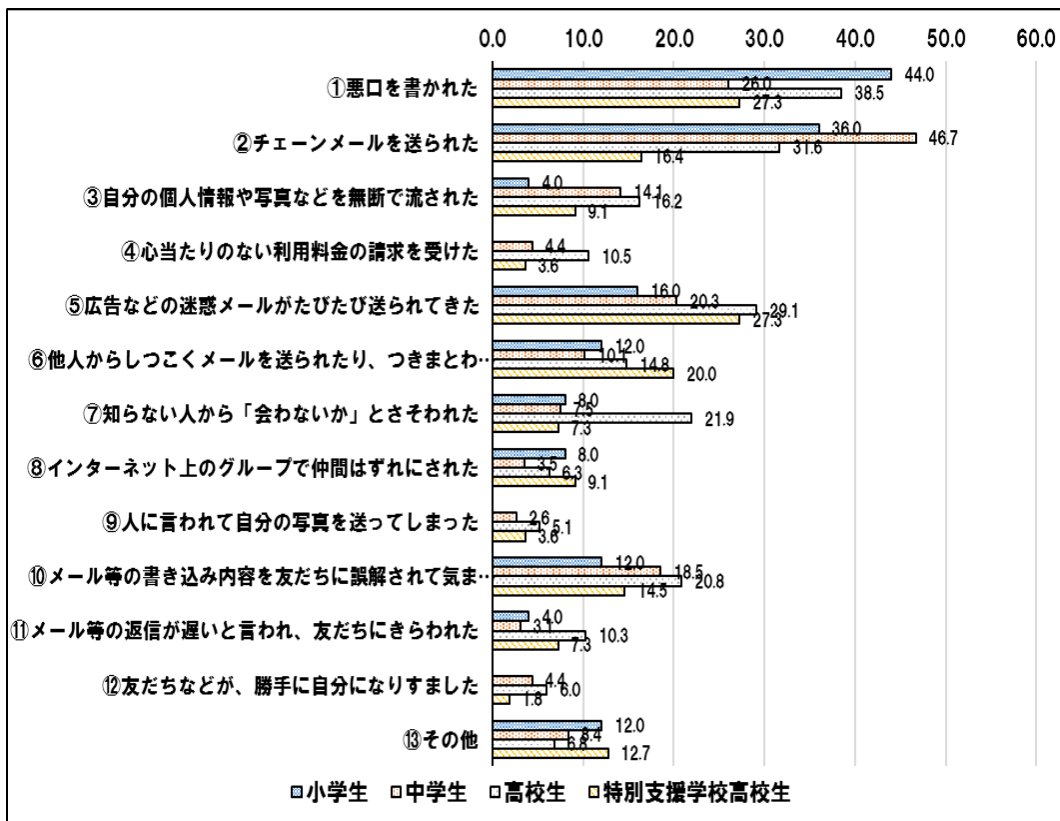
人数	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生
①はい	25	227	351	55
②いいえ	293	1268	927	146
無回答	17	50	15	9
%	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生
①はい	7.5	14.7	27.1	26.2
②いいえ	87.5	82.1	71.7	69.5
無回答	5.1	3.2	1.2	4.3



(25) (24)で①はいと答えた人に聞きます。どのような嫌な思いをしましたか。(複数回答可)

人数	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生
①悪口を書かれた	11	59	135	15
②チェーンメールを送られた	9	106	111	9
③自分の個人情報や写真などを無断で流された	1	32	57	5
④心当たりのない利用料金の請求を受けた	0	10	37	2
⑤広告などの迷惑メールがたびたび送られてきた	4	46	102	15
⑥他人からしつこくメールを送られたり、つきまとわれたりした	3	23	52	11
⑦知らない人から「会わないか」とさそわれた	2	17	77	4
⑧インターネット上のグループで仲間はずれにされた	2	8	22	5
⑨人に言われて自分の写真を送ってしまった	0	6	18	2
⑩メール等の書き込み内容を友だちに誤解されて気まづくなった	3	42	73	8
⑪メール等の返信が遅いと言われ、友だちにきらわれた	1	7	36	4
⑫友だちなどが、勝手に自分になりました	0	10	21	1
⑬その他	3	19	24	7
%	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生
①悪口を書かれた	44.0	26.0	38.5	27.3
②チェーンメールを送られた	36.0	46.7	31.6	16.4
③自分の個人情報や写真などを無断で流された	4.0	14.1	16.2	9.1
④心当たりのない利用料金の請求を受けた		4.4	10.5	3.6
⑤広告などの迷惑メールがたびたび送られてきた	16.0	20.3	29.1	27.3
⑥他人からしつこくメールを送られたり、つきまとわれたりした	12.0	10.1	14.8	20.0
⑦知らない人から「会わないか」とさそわれた	8.0	7.5	21.9	7.3
⑧インターネット上のグループで仲間はずれにされた	8.0	3.5	6.3	9.1
⑨人に言われて自分の写真を送ってしまった		2.6	5.1	3.6
⑩メール等の書き込み内容を友だちに誤解されて気まづくなった	12.0	18.5	20.8	14.5
⑪メール等の返信が遅いと言われ、友だちにきらわれた	4.0	3.1	10.3	7.3
⑫友だちなどが、勝手に自分になりました		4.4	6.0	1.8
⑬その他	12.0	8.4	6.8	12.7

項目 4 【トラブル経験率】【トラブルの種類と自身の対応】



※⑬その他（抜粋）

《小学生》

- ・スタンプ連打

《中学生》

- ・誰か知らない人からの乗っ取りで、勝手にいろいろなことをされる
- ・動画は消されたけど数分にわたってゲームでの名前をさらされた
- ・勝手にLINEを教えられた
- ・知らない人から友達追加されていた
- ・友達が過激な画像を送る
- ・友達の炎上に巻き込まれそうになった

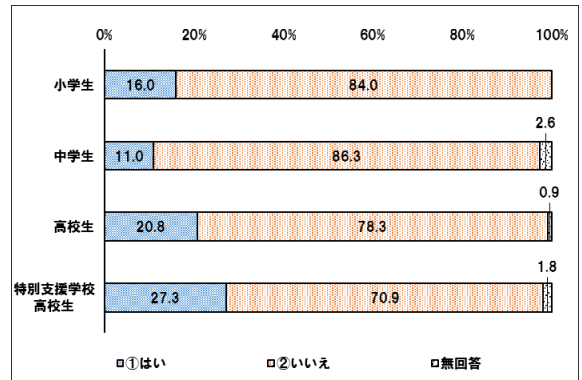
《高校生》

- ・風俗などの誘いのメールが来た
- ・他人が自分になりました
- ・フォローした人のツイートがエロ画像だった
- ・私が描いた絵を無断転載、使用、トレースされたものを自作発言された
- ・知らない人に「〇〇当選者」というリストに入れられたからブロックした
- ・チケット詐欺にあった
- ・友達がネットに自分と親友の本名をのせた

項目4【トラブル経験率】【トラブルの種類と自身の対応】

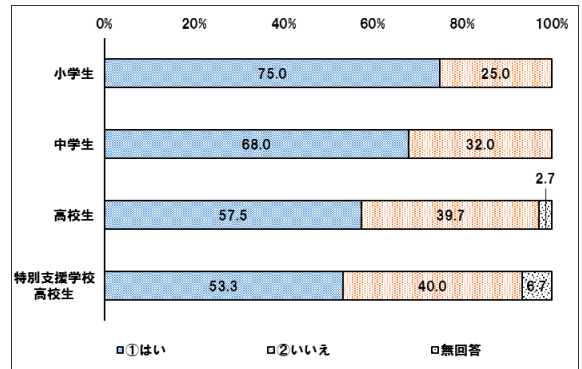
(26) (24)で①はいと答えた人に聞きます。誰かに、自分と同じように嫌な思いをさせたいと思ったことはありますか。

人数	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生
①はい	4	25	73	15
②いいえ	21	196	275	39
無回答	0	6	3	1
%	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生
①はい	16.0	11.0	20.8	27.3
②いいえ	84.0	86.3	78.3	70.9
無回答		2.6	0.9	1.8



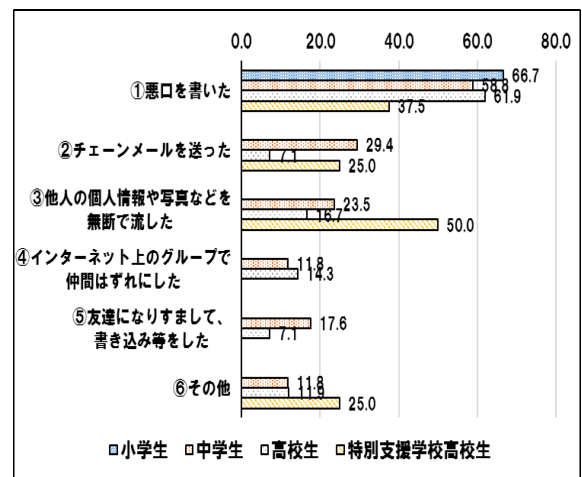
(27) (26)で①はいと答えた人に聞きます。誰かに、実際に自分と同じように嫌な思いをさせる行為をしたことはありますか。

人数	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生
①はい	3	17	42	8
②いいえ	1	8	29	6
無回答	0	0	2	1
%	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生
①はい	75.0	68.0	57.5	53.3
②いいえ	25.0	32.0	39.7	40.0
無回答			2.7	6.7



(28) (27)で①はいと答えた人に聞きます。どのような嫌な思いをさせる行為をしましたか。(複数回答可)

人数	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生
①悪口を書いた	2	10	26	3
②チェーンメールを送った	0	5	3	2
③他人の個人情報や写真などを無断で流した	0	4	7	4
④インターネット上のグループで仲間はずれにした	0	2	6	0
⑤友達になりすまして、書き込み等をした	0	3	3	0
⑥その他	0	2	5	2
%	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生
①悪口を書いた	66.7	58.8	61.9	37.5
②チェーンメールを送った		29.4	7.1	25.0
③他人の個人情報や写真などを無断で流した		23.5	16.7	50.0
④インターネット上のグループで仲間はずれにした		11.8	14.3	
⑤友達になりすまして、書き込み等をした		17.6	7.1	
⑥その他		11.8	11.9	25.0



※⑥その他（抜粋）

《中学生》

- ・うざいほど絡んだ

《高校生》

- ・ブロックされたのでその人のSNSを全てブロックした

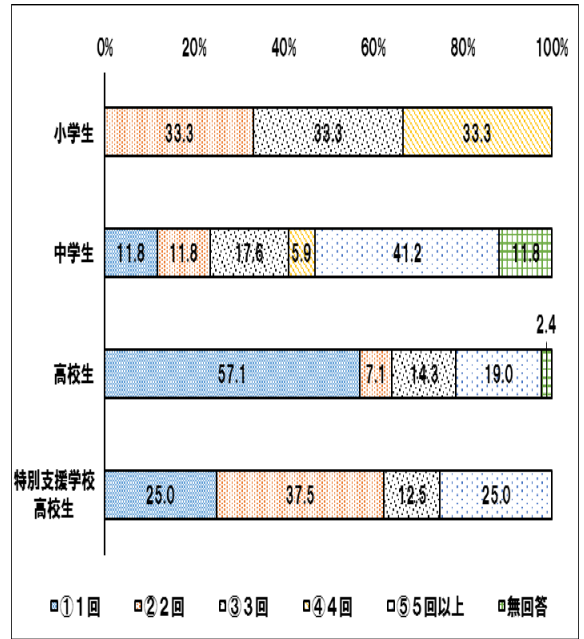
《特別支援学校高校生》

- ・メールをしつこく送ってしまった

項目4【トラブル経験率】【トラブルの種類と自身の対応】

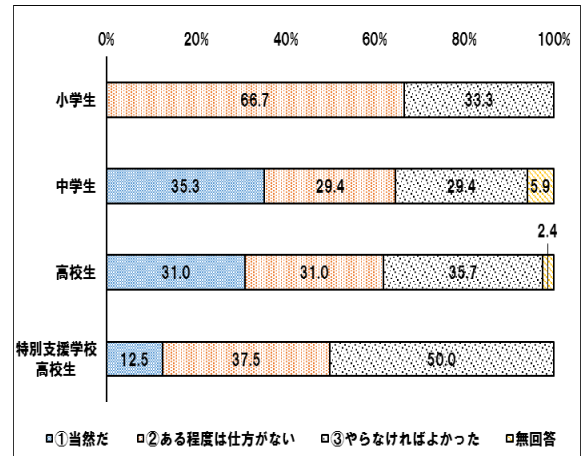
(29) (27)で①はいと答えた人に聞きます。嫌な思いをさせる行為を何回しましたか。

人数	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生
①1回	0	2	24	2
②2回	1	2	3	3
③3回	1	3	6	1
④4回	1	1	0	0
⑤5回以上	0	7	8	2
無回答	0	2	1	0
%	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生
①1回		11.8	57.1	25.0
②2回	33.3	11.8	7.1	37.5
③3回	33.3	17.6	14.3	12.5
④4回	33.3	5.9		
⑤5回以上		41.2	19.0	25.0
無回答		11.8	2.4	



(30) (27)で①はいと答えた人に聞きます。嫌な思いをさせる行為をしたことについて、どう思いますか。

人数	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生
①当然だ	0	6	13	1
②ある程度は仕方がない	2	5	13	3
③やらなければよかった	1	5	15	4
無回答	0	1	1	0
%	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生
①当然だ		35.3	31.0	12.5
②ある程度は仕方がない	66.7	29.4	31.0	37.5
③やらなければよかった	33.3	29.4	35.7	50.0
無回答		5.9	2.4	



項目4【トラブル経験率】【トラブルの種類と自身の対応】

【トラブル経験率】【トラブルの種類と自身の対応】の結果概要と考察

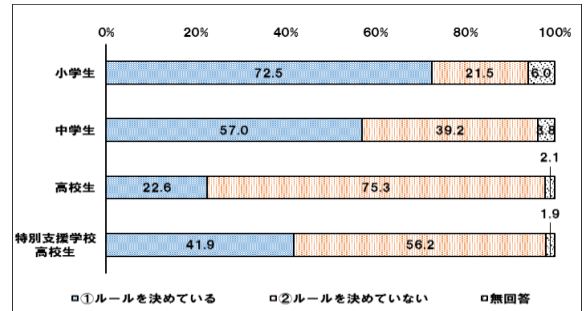
- SNSを利用して「嫌な思いをした」ことがある児童生徒は658人と全体の約2割程度であった。学年が上がるにつれ、その割合も高くなり、高校3年生で28%であった。被害として多かったのが、「悪口」や「チェーンメール」「迷惑メール」などであったが、「不当な請求」や「知らない人から誘われた」「つきまとわれた」「自分の写真を送ってしまった」「個人情報を読まれた」「他人が自分になりすました」など、犯罪被害に直結する恐れのあるものもあった。
- 嫌な思いをした658人については、追加して「自分と同じ思いをさせたいと思ったか」と質問した。それに対して「はい」と答えた児童生徒は658人中117人（17.8%）となった。さらにその117人に「実際、嫌な思いをさせる行為をしたか」という設問を追加したところ、70人が「はい」と答えた。
- 仕返しした内容としては「悪口」が最多で、小学生、中学生、特別支援学校高校生は半数以上が複数回行っていた。実際に仕返しをしたことについては、「当然だ」「ある程度はしかたない」と回答した児童生徒は半数以上であった。
- インターネット利用の普及に伴い、犯罪や被害・トラブルが増加し、それらに関する被害者、加害者が低年齢化している。匿名性が高いことを理由に規範意識が薄らいだり、インターネットだから特別に許されているかのような錯覚に陥ったりして、日常生活では思いとどまる行為を、軽い気持ちで行ってしまいがちであるが、善悪・良否の判断は日常の生活の場合と同じである。インターネットの世界は公共の場であることや、インターネットの向こうには人がいること、他人を傷つけるような書き込みは、その人の人権を侵害することになることを意識させる必要がある。児童生徒が情報社会特有の被害やトラブルから自分の身を守り、被害者にも加害者にもならないよう、情報モラル教育を行うことが必要である。

項目5【小中高毎の使用制限の実態】【家庭の関わり】

【小中高毎の使用制限の実態】【家庭の関わり】

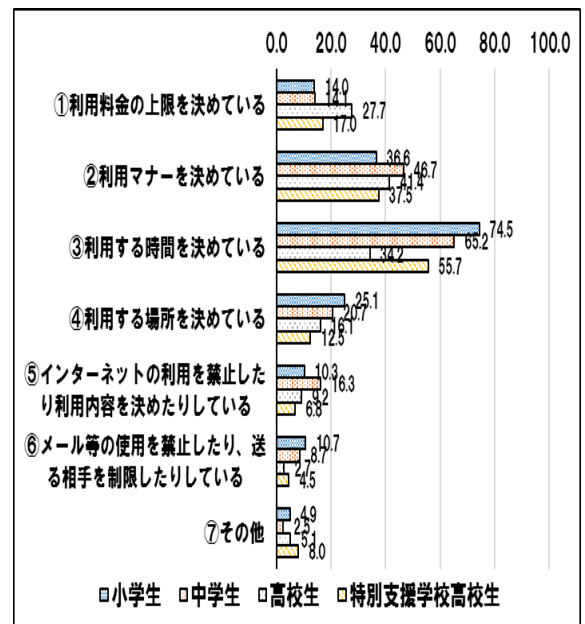
(31) 家庭内で、インターネット（SNS等のコミュニケーションアプリの利用を含む）の利用のルールを決めていますか。

人数	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生
①ルールを決めている	243	881	292	88
②ルールを決めていない	72	606	974	118
無回答	20	58	27	4
%	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生
①ルールを決めている	72.5	57.0	22.6	41.9
②ルールを決めていない	21.5	39.2	75.3	56.2
無回答	6.0	3.8	2.1	1.9



(32) (31)で①ルールを決めていると答えた人に聞きます。どのようなルールですか。(複数回答可)

人数	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生
①利用料金の上限を決めている	34	124	81	15
②利用マナーを決めている	89	411	121	33
③利用する時間を決めてい	181	574	100	49
④利用する場所を決めている	61	182	47	11
⑤インターネットの利用を禁止したり利用内容を決めたりしている	25	144	27	6
⑥メール等の使用を禁止したり、送る相手を制限したりしている	26	77	8	4
⑦その他	12	22	15	7
%	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生
①利用料金の上限を決めている	14.0	14.1	27.7	17.0
②利用マナーを決めている	36.6	46.7	41.4	37.5
③利用する時間を決めてい	74.5	65.2	34.2	55.7
④利用する場所を決めている	25.1	20.7	16.1	12.5
⑤インターネットの利用を禁止したり利用内容を決めたりしている	10.3	16.3	9.2	6.8
⑥メール等の使用を禁止したり、送る相手を制限したりしている	10.7	8.7	2.7	4.5
⑦その他	4.9	2.5	5.1	8.0



※⑦その他（抜粋）

《 共通 》

- ・課金しない

《 小・中学生共通 》

- ・親の許可がないと使えない
- ・生活のルール（食事、入浴、宿題等）を守る

《 小学生 》

- ・メール内容を親に見せる

《 中学生 》

- ・サイトに自分や他人の写真をあげてはいけない
- ・知らない人と知り合わない

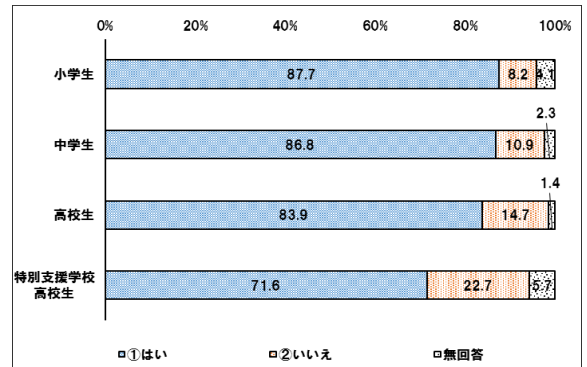
《 高校生 》

- ・自分の部屋で充電しない
- ・自己責任

項目5【小中高毎の使用制限の実態】【家庭の関わり】

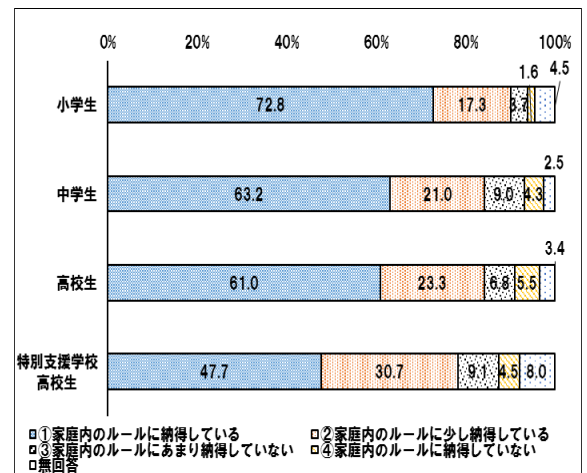
(33) (31)で①ルールを決めていると答えた人に聞きます。そのルールを守れていますか。

人数	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生
①はい	213	765	245	63
②いいえ	20	96	43	20
無回答	10	20	4	5
%	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生
①はい	87.7	86.8	83.9	71.6
②いいえ	8.2	10.9	14.7	22.7
無回答	4.1	2.3	1.4	5.7



(34) (31)で①ルールを決めていると答えた人に聞きます。ルールを定めることについて、どう思いますか。

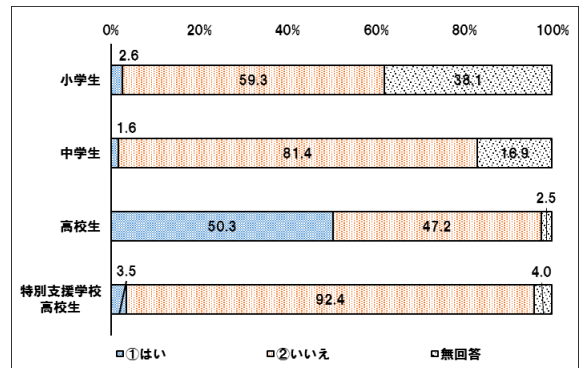
人数	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生
①家庭内のルールに納得している	177	557	178	42
②家庭内のルールに少し納得している	42	185	68	27
③家庭内のルールにあまり納得していない	9	79	20	8
④家庭内のルールに納得していない	4	38	16	4
無回答	11	22	10	7
%	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生
①家庭内のルールに納得している	72.8	63.2	61.0	47.7
②家庭内のルールに少し納得している	17.3	21.0	23.3	30.7
③家庭内のルールにあまり納得していない	3.7	9.0	6.8	9.1
④家庭内のルールに納得していない	1.6	4.3	5.5	4.5
無回答	4.5	2.5	3.4	8.0



項目5【小中高毎の使用制限の実態】【家庭の関わり】

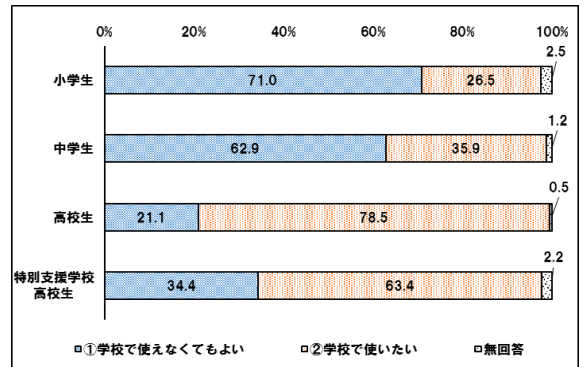
(35) スマートフォン等を持っている人に聞きます。スマートフォン等を学校で使えますか。(学校ごとの偏りあり)

人数	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生
①はい	7	22	647	7
②いいえ	162	1096	608	183
無回答	104	228	32	8
%	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生
①はい	2.6	1.6	50.3	3.5
②いいえ	59.3	81.4	47.2	92.4
無回答	38.1	16.9	2.5	4.0



(36) (35)で②いいえと答えた人に聞きます。学校で使えないことに対して、どう思いますか。

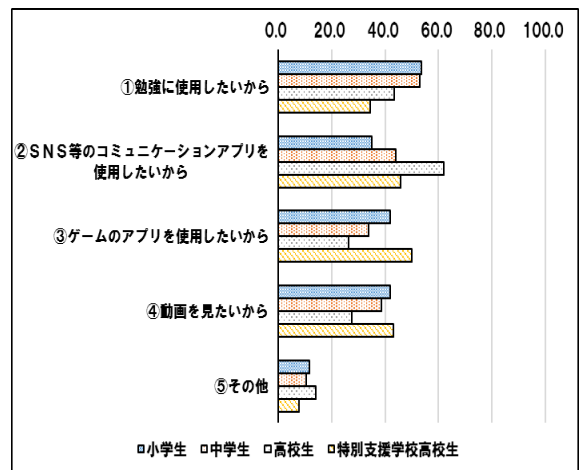
人数	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生
①学校で使えなくてもよい	115	689	128	63
②学校で使いたい	43	394	477	116
無回答	4	13	3	4
%	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生
①学校で使えなくてもよい	71.0	62.9	21.1	34.4
②学校で使いたい	26.5	35.9	78.5	63.4
無回答	2.5	1.2	0.5	2.2



項目 5 【小中高毎の使用制限の実態】【家庭の関わり】

(37) (36)で②学校で使いたいと答えた人に聞きます。使いたいのはなぜですか。(複数回答可)

人数	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生
①勉強に使用したいから	23	209	207	40
②SNS等のコミュニケーションアプリを使用したいから	15	173	296	53
③ゲームのアプリを使用したいから	18	133	125	58
④動画を見たいから	18	152	131	50
⑤その他	5	41	66	9
%	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 高校生
①勉強に使用したいから	53.5	53.0	43.4	34.5
②SNS等のコミュニケーションアプリを使用したいから	34.9	43.9	62.1	45.7
③ゲームのアプリを使用したいから	41.9	33.8	26.2	50.0
④動画を見たいから	41.9	38.6	27.5	43.1
⑤その他	11.6	10.4	13.8	7.8



※⑤その他（抜粋）

《小学生》

- ・ ひまだから

《中学生》

- ・ 困ったときに電話をして助けを求められるようにしたいから
- ・ 手軽にいろいろな事を調べられるようにしたい
- ・ 写真を撮りたい
- ・ 音楽を聴きたい

《高校生》

- ・ 黒板やテスト範囲など大事な資料などを写真に撮っていつでも確認できるようにしたい
- ・ 交通などで問題があって遅れていないか知りたいから
- ・ 帰りが遅くなるときとかに家族に連絡をとりたいから
- ・ たくさん写真や動画を撮って思い出に残したいから
- ・ 音楽を聴きたい

項目5【小中高毎の使用制限の実態】【家庭の関わり】

- (38) (35)で①はいと答えた人に聞きます。学校で勉強や調べものをするとき等で、スマートフォン等を上手に活用したことがあったら教えてください。【自由に記入してください】

《 共通 》

- ・ 調べもの

漢字（読み、書き方、書き順） 英単語 算数公式 地理 歴史の人物
修学旅行の現地の情報 進路先 小論文の書き方

《 小学生 》

- ・ 理科の動画を見る
- ・ 図工の色のぬり方を見たり、友達と宿題のわからないところを聞きあってわかったところがあったりした

《 中学生 》

- ・ いろんな人が書いたノートを見ることができるクリアというアプリは、自分にあったノートを見つけることができるからわかりやすくていい
- ・ タイマー設定してその間は集中して取り組む
- ・ 一日にやる範囲を決めて通知する
- ・ スマートフォンや電子辞書などで作業の効率化を図るのはよいとは思いますが、「辞書などを使う」ということも学習の一つだと思うので、あまり電子機器に頼らないほうがいい

《 高校生 》

- ・ 調べ学習の際、細かく精度の良い調べ物ができた
- ・ 辞書で調べても出てこなかったものが簡単に出てくる
- ・ 学校で配布される一般的な資料よりも、より正確でより細かく書かれているアプリやサイトを使う
- ・ 問題の解き方を動画を見て理解した
- ・ Y a h o o ! の知恵袋はわからない問題があったとき、同じ問題を質問している人がいるから便利だと思う
- ・ アプリでわからないところを質問したら丁寧に教えてくれた人がいた
- ・ ノートが書き終わらなくて友達に送ってもらった
- ・ 美術で絵を参考にした
- ・ 生物の実験で細胞の観察をしたとき、スケッチする時間が少なかったのでスマートフォンで写真を撮り、家で書いてきた
- ・ 隙間時間にアプリで単語などを覚えた
- ・ 先生の解説でわからなかったところを調べて内容を根本から理解するために昼休みに多く使っている
- ・ 授業中は使えないが、昼休みなどに調べ物ができたりして予習ができた

【小中高毎の使用制限の実態】【家庭の関わり】の結果概要と考察

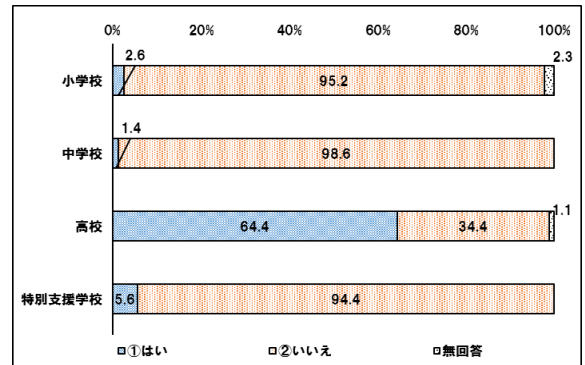
- ・ 家庭内でのルールについては、「決めている」と「決めていない」の割合が小学校から高校に上がるにつれ、逆転している。小学生では「決めている」が7割を超えているが、中学生ではほぼ半数となり、高校生では約2割しかいなかった。
 - 内閣府による令和元年度青少年のインターネット利用環境実態調査報告書では、学校種別にみると、「ルールを決めている」と答えた者の割合は、中学生が63.6%、高校生が38.6%で、全国調査と比べても、ルールを決めている家庭が少ないことが伺える。
- ・ 家庭内でのルールが決められている児童生徒の85.5%が、ルールを守れていると回答している。
- ・ 学校でスマートフォン等を使えないことについて、小学生、中学生は「使いたい」と答えた児童生徒が約25～35%であったが、高校生では約8割と多かった。使いたい理由について、「勉強に使いたい」と答える児童生徒がいる一方で、コミュニケーションのツールとしてカメラやゲームの使用を希望している児童生徒も見られた。
- ・ 教師に対する「校内でスマートフォン等を使用することを認めているか」の質問では、小学校、中学校、特別支援学校で9割以上が「認めていない」と答えた。また、使用を認めていない小学校、中学校の教師の9割近くが「学校で使えなくてよい」「学校で使わせたくない」と答えた。
- ・ 世代別で見ても、「学校で使えなくてよい」「学校で使わせたくない」と回答した教師がどの世代も多く、「使えた方がよい」「使わせたい」と一番多く答えた60代でも16.6%と、学校での使用に積極的な姿勢はみられなかった。
 - 令和2年7月に文科省より「学校における携帯電話の取扱い等について（通知）」が発出されたが、小学校、中学校においては原則持込み禁止、高校では「校内における使用を制限すべき」と示されている。
 - 県教育委員会は、ネットいじめやネットトラブルの解決に向けて子供たちが主体的に関わるよう、平成30年度から「生徒自身による『私たちのネット利用ルール』づくり」の活動を推進している。
 - 生徒が自らを律することができるようなルールを、学校の他、児童生徒や保護者が主体的に考え、協力して作る機会を設けることが必要である。

項目6【情報モラル教育】

※以下、教師のみの設問

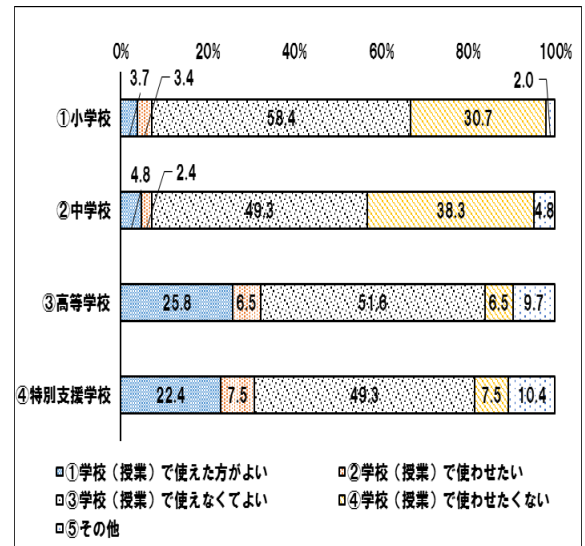
(25) あなたが勤務する学校では、児童生徒が、校内でスマートフォン等を使用することを認めていますか。

人数	小学校	中学校	高校	特別支援学校
①はい	8	3	58	4
②いいえ	296	209	31	67
無回答	7	0	1	0
%	小学校	中学校	高校	特別支援学校
①はい	2.6	1.4	64.4	5.6
②いいえ	95.2	98.6	34.4	94.4
無回答	2.3		1.1	

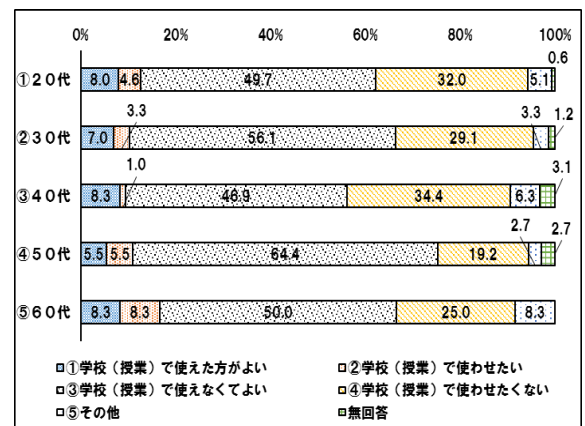


(26) (25)で②いいえと答えた方に聞きます。学校でスマートフォン等を使えないことに対して、どう思いますか。

人数	小学校	中学校	高校	特別支援学校
①学校(授業)で使えた方がよい	11	10	8	15
②学校(授業)で使わせたい	10	5	2	5
③学校(授業)で使えなくてよい	173	103	16	33
④学校(授業)で使わせたくない	91	80	2	5
⑤その他	6	10	3	7
無回答	5	1	0	2
%	小学校	中学校	高校	特別支援学校
①学校(授業)で使えた方がよい	3.7	4.8	25.8	22.4
②学校(授業)で使わせたい	3.4	2.4	6.5	7.5
③学校(授業)で使えなくてよい	58.4	49.3	51.6	49.3
④学校(授業)で使わせたくない	30.7	38.3	6.5	7.5
⑤その他	2.0	4.8	9.7	10.4
無回答	1.7	0.5		3.0



人数	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答
①学校(授業)で使えた方がよい	14	17	8	4	1	0
②学校(授業)で使わせたい	8	8	1	4	1	0
③学校(授業)で使えなくてよい	87	137	45	47	6	3
④学校(授業)で使わせたくない	56	71	33	14	3	1
⑤その他	9	8	6	2	1	0
無回答	1	3	3	2	0	0
%	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答
①学校(授業)で使えた方がよい	8.0	7.0	8.3	5.5	8.3	
②学校(授業)で使わせたい	4.6	3.3	1.0	5.5	8.3	
③学校(授業)で使えなくてよい	49.7	56.1	46.9	64.4	50.0	75.0
④学校(授業)で使わせたくない	32.0	29.1	34.4	19.2	25.0	25.0
⑤その他	5.1	3.3	6.3	2.7	8.3	
無回答	0.6	1.2	3.1	2.7		



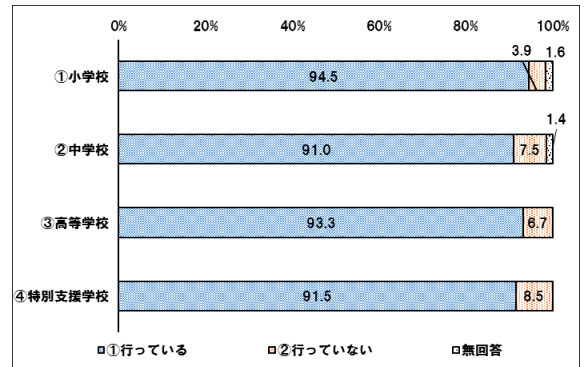
項目6【情報モラル教育】

※以下、教師のみの設問

【情報モラル教育】

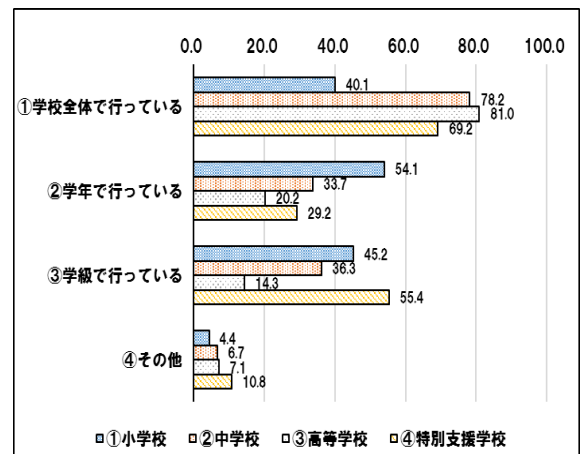
(27) 児童生徒に、情報モラル教育を行っていますか。

人数	小学校	中学校	高校	特別支援学校
①行っている	294	193	84	65
②行っていない	12	16	6	6
無回答	5	3	0	0
%	小学校	中学校	高校	特別支援学校
①行っている	94.5	91.0	93.3	91.5
②行っていない	3.9	7.5	6.7	8.5
無回答	1.6	1.4		



(28) 設問(27)で①行っていると答えた方に聞きます。どのような方法で情報モラル教育を行っていますか。(複数回答可)

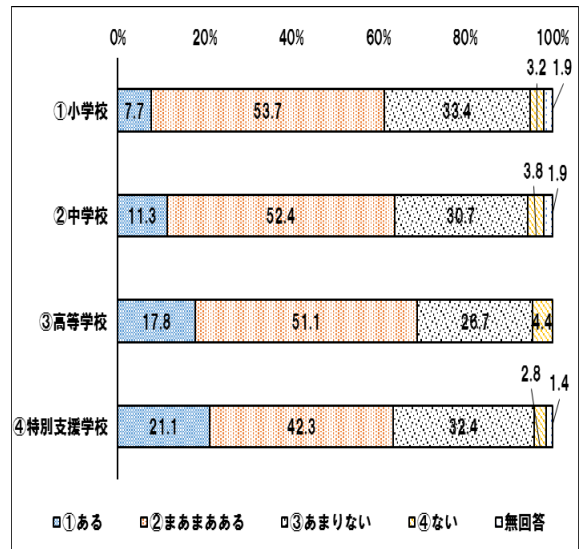
人数	小学校	中学校	高校	特別支援学校
①学校全体で行っている	118	151	68	45
②学年で行っている	159	65	17	19
③学級で行っている	133	70	12	36
④その他	13	13	6	7
%	小学校	中学校	高校	特別支援学校
①学校全体で行っている	40.1	78.2	81.0	69.2
②学年で行っている	54.1	33.7	20.2	29.2
③学級で行っている	45.2	36.3	14.3	55.4
④その他	4.4	6.7	7.1	10.8



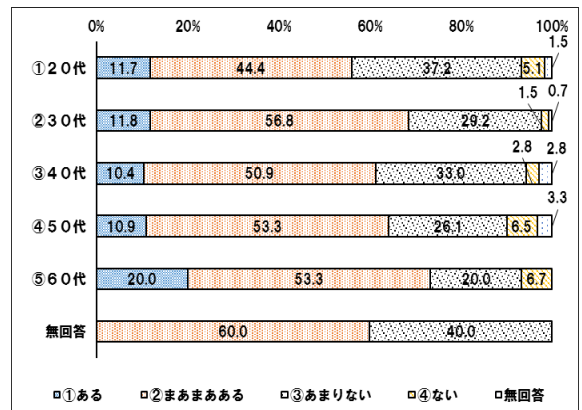
項目6【情報モラル教育】

(29) 情報モラル教育を行うにあたり、適切に指導する自信はありますか。

人数	小学校	中学校	高校	特別支援学校
①ある	24	24	16	15
②まあまあある	167	111	46	30
③あまりない	104	65	24	23
④ない	10	8	4	2
無回答	6	4	0	1
%	小学校	中学校	高校	特別支援学校
①ある	7.7	11.3	17.8	21.1
②まあまあある	53.7	52.4	51.1	42.3
③あまりない	33.4	30.7	26.7	32.4
④ない	3.2	3.8	4.4	2.8
無回答	1.9	1.9		1.4

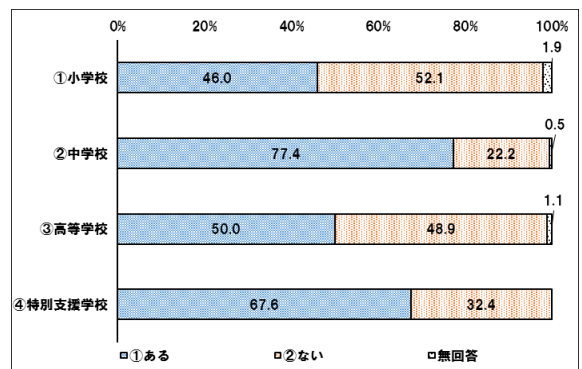


人数	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答
①ある	23	32	11	10	3	0
②まあまあある	87	154	54	49	8	3
③あまりない	73	79	35	24	3	2
④ない	10	4	3	6	1	0
無回答	3	2	3	3	0	0
%	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答
①ある	11.7	11.8	10.4	10.9	20.0	
②まあまあある	44.4	56.8	50.9	53.3	53.3	60.0
③あまりない	37.2	29.2	33.0	26.1	20.0	40.0
④ない	5.1	1.5	2.8	6.5	6.7	
無回答	1.5	0.7	2.8	3.3		

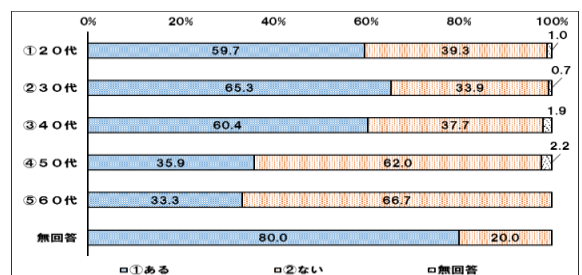


(30) 児童生徒から、SNS等のコミュニケーションアプリの利用に係るトラブルについて相談を受けたことはありますか。

人数	小学校	中学校	高校	特別支援学校
①ある	143	164	45	48
②ない	162	47	44	23
無回答	6	1	1	0
%	小学校	中学校	高校	特別支援学校
①ある	46.0	77.4	50.0	67.6
②ない	52.1	22.2	48.9	32.4
無回答	1.9	0.5	1.1	



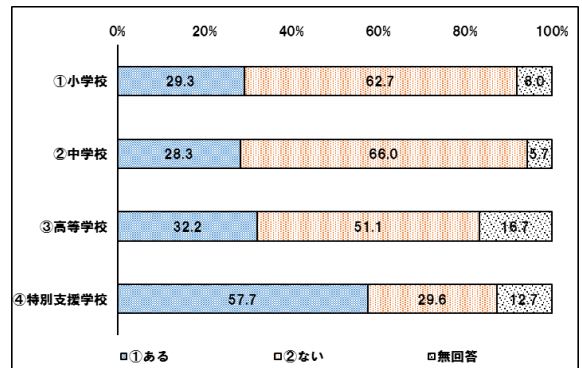
人数	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答
①ある	117	177	64	33	5	4
②ない	77	92	40	57	10	1
無回答	2	2	2	2	0	0
%	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答
①ある	59.7	65.3	60.4	35.9	33.3	80.0
②ない	39.3	33.9	37.7	62.0	66.7	20.0
無回答	1.0	0.7	1.9	2.2		



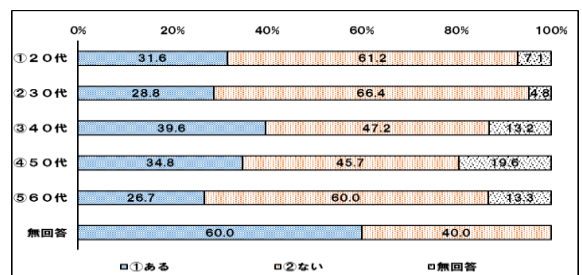
項目6【情報モラル教育】

(31) SNS等のコミュニケーションアプリの利用に関する、学校でのルールはありますか。

人数	小学校	中学校	高校	特別支援学校
①ある	91	60	29	41
②ない	195	140	46	21
無回答	25	12	15	9
%	小学校	中学校	高校	特別支援学校
①ある	29.3	28.3	32.2	57.7
②ない	62.7	66.0	51.1	29.6
無回答	8.0	5.7	16.7	12.7



人数	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答
①ある	62	78	42	32	4	3
②ない	120	180	50	42	9	2
無回答	14	13	14	18	2	0
%	①20代	②30代	③40代	④50代	⑤60代	無回答
①ある	31.6	28.8	39.6	34.8	26.7	60.0
②ない	61.2	66.4	47.2	45.7	60.0	40.0
無回答	7.1	4.8	13.2	19.6	13.3	



【情報モラル教育】の結果概要と考察

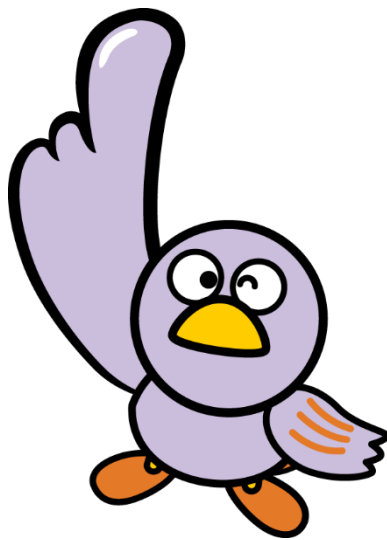
- ・ 情報モラル教育はすべての校種で実施率が90%以上であり、多くの学校で実践されていることがわかった。その単位は校種によって大きく異なっており、各学校における今日的課題を踏まえた情報モラル教育の取組が、実態に応じた形態で指導されていると考えられる。
- ・ 情報モラル教育を適切に指導する自信が「ある」「まあまあある」と答えた教師は63.2%であった。
- ・ 児童生徒からの「SNSトラブルに関する相談」は校種による差はあるものの、半数近くの教師が受けており、20代～40代の教師が相談を受けやすい傾向にあった。
 - 一方で、SNSやスマートフォンに関するトラブルは学校外で起こることが多く、「学校に相談されてもなかなか対応できない」との記述もあった。
- ・ 93.0%の教員が情報モラル教育を実施しているという現状があるものの、児童生徒が関わるSNSによるトラブルやいじめ、人権侵害等の被害あるいは加害といった事案は依然として報告されている。本調査においても、19.5%の児童生徒がSNS等のネットアプリケーションの使用に際し、嫌な思いを経験しているという結果が出ている。
- ・ SNS等の利用に関する学校でのルールについて、小学校、中学校、高校では約3割の教師が「ある」と答えた。
 - 学校では定めないが、「市町村単位でルール作りを進めている」、「生徒会で話し合った」などの記述もあった。

Ⅲ 児童生徒のSNS利用に係る指導事例集

- | | |
|--------|--------------------------|
| 指導事例 | 県立総合教育センター |
| 実践事例 1 | 学級活動（久喜市立桜田小学校） |
| 実践事例 2 | 教科：道徳（熊谷市立熊谷東中学校） |
| 実践事例 3 | 総合的な学習の時間（県立羽生第一高等学校） |
| 実践事例 4 | 教科：商業（県立大宮商業高等学校） |
| 実践事例 5 | 教科：情報（県立特別支援学校さいたま桜高等学園） |

アンケートにみる指導前後の差異

指導案例
県立総合教育センター



指導案（例）

「情報モラル」の育成に係る学習指導案 及び 成果

〇〇立〇〇学校

- 1 教科等 特別の教科「道徳」、人間としての在り方生き方に関する教育など
- 2 科目等 〇〇〇
- 3 内 容 私たちの生活とＳＮＳ（仮題）
- 4 日 時 令和〇年〇月〇日（〇）第〇校時（〇〇時〇〇分～〇〇時〇〇分）
- 5 実施学級・学年等 〇年〇組 〇〇人（男〇〇人、女〇〇人）
- 6 授業者 〇〇 〇〇
- 7 児童生徒の状況★
 - ・ 〇〇〇。
 - ・ 〇〇〇。
- 8 児童生徒のＳＮＳ等利用に関する状況★
 - ・ 〇〇〇。
 - ・ 〇〇〇〇。
 - ・ 〇〇〇〇。
- 9 上記４・５の生徒の状況から導いた本時の目標★
 - ・ 〇〇〇〇〇〇。
 - ・ 〇〇〇。
- 10 評価規準
 - ・ 〇〇〇〇
 - ・ 〇〇〇〇
- 11 これまでの指導（対象学級等に行ってきた「情報モラル」に関する教育など）
 - ・ 〇〇〇
- 12 本時の流れ
 - ※ 以下はベースです。○は「生徒に考えさせたい内容の柱」を、☆は「扱う具体例になりえるアイデア」を、◆は「生徒の具体的な動き」を示します。児童生徒の発達段階や実情に応じて仕様を追加または修正してください。

	学習活動	指導の留意点
導 入	◇授業者が設定したテーマに沿って、以下の柱について1つ以上考えさせ、いわゆる「リアル」な生活では当たり前を考えられていることを意識させる。 ○「情報」とは何か ☆見たり聞いたりしたことがあるもので、真似してよいこと、いけないものをあげてみる。 ☆自身や周囲の人のことで、誰かに教えてよいこと、教えてはいけないこと、教えてよい人、教えてはいけない人などをあげてみる。 ○「モラル」とは何か ☆誰かに言われたり、何かされたりして楽しいことや嫌なことをあげてみる。 ☆自分の気づかないところで誰かを傷つけていたことはないか考える。 ☆大勢の人と関わるときに気をつけようと思う点をあげてみる。	・ ☆は教師がリードしながら発言を引き出すようにし、●はグループでじっくり話し合っ て考えさせるようにする。 ・ 今後の展開に沿った定義づけをできるように扱う題材を選ぶ。 ・ 導入段階では「情報」「モラル」などの抽象的単語を使わなくてもよい
展 開	◇授業者が設定したテーマに沿って、以下の柱について1つ以上考えさせ、導入時の当たり前が「インターネット上」では当たり前でなくな りえることを意識させる。 ○モラルや情報を軽んじると起きうること ☆個人情報を知られたら困ることをあげる。 ☆無意識に自身の個人情報を知らせているかもし れない場面をあげてみる。 ○インターネット、SNS上で起きていること ☆SNS上で話題になることをあげる。 ☆SNSを使いたい理由をあげる。 ☆アプリでメッセージを送ったり、画像をアップし たりするときの気持ちを振り返る。 ○情報を送る目的とは ☆「正確性」について考えたことはあるか。 ☆発信することで誰かに影響を与えるかもしれな いと考えたことはあるか。	・ 「匿名性」「圧倒的 不特定多数の介 在」といった点に つながれるよう 題材を選ぶ。 ・ 総務省の「インタ ーネットトラブル 事 例 集 (2020 年 版)」等が参考にな る。 ・ 電子黒板等を使っ てブログの良さが わかる実例を見 せ、価値を理解さ せるとともに関心 を高める。

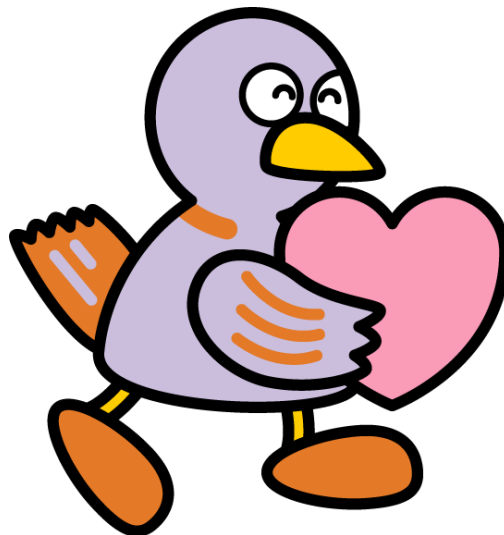
	◇ SNS 上でモラル等が踏みにじられているときの対応や感情を考えさせる。 ☆LINE 上で、(確信を持ってないが) 自分や友人への中傷的書込みを見つけた。どうするか。 ☆中傷が複数人から出ていたらどうするか。 ● SNS の書込み例を基に、ロールプレイやジグソー法などの手法を通じて自分自身に引きつけて考えさせる。 ロールプレイの例 (1) 3 人以上一組の班を作る。 (2) A と B がペアを組み、C の悪口を声に出して読み合う。 (3) 役割を交換して読み合いを行う。 (4) A B C の立場での気持ちを伝えあう。 例：A、B (面白い、可哀そう、怒られる等) C (つらい、腹がたつ等) (5) さらに新たな D (不特定の知らない誰か。匿名。) が加わったと仮定し、D が書き込むと予想されるコメント等を考える。 (6) 各自が書いたものを班で性質別に分類し、発表する。 例：あおりたてる、やめさせようとする 関連のないもの、書き込みをしないもの (7) 人を傷つけそうな書込みがされる理由等を話し合う。 例：匿名性…誰が書いたかわからない。 表情が見えない…お互いの感情がうまく伝わらない。	・ 問題のあるブログを見せ、問題点を話し合わせる。 ・ NHK for school などを参考にしてもよい。 ・ ロールプレイやジグソー法等でその時の気持ちを考えさせる。また、それぞれの立場になったときの気持ちを伝えることによって、相手の気持ちや考えに対する理解を深めさせる。 ・ 対面式で「お互いの気持ちを伝えあうこと」を盛り込む。 ・ 悪意ある第三者が加わることで、大変な事件になることに気付かせる。 ・ グループで出た意見を内容別に分類し、学級全体で考える。 ・ 匿名性があると思っても実際の匿名はなく、本人が特定され犯罪となることを知らせる。 ・ SNS を利用する際に、気をつけるべきことを自己決定させる。 ・ 相手を誹謗中傷したり、プライバシーを侵害したりす
--	--	--

		るなど、相手の心を傷つけるようなことをしない点をおさえる。 ・意見の相違からコミュニケーションが生まれ、課題解決の糸口になることを気付かせる。 ・日頃から相手思いやる気持ちをもって生活することの大切さをおさえる。 ・健全なネットワーク社会は、一人一人がルールとマナーを守ることによって成り立っていることをおさえ、実践への意欲を高める。
まとめ	◇SNS等を利用する際に、自分が気をつけたいことや改善したいこと等各自でまとめる。 ☆私たちは何ができるか。 ☆SNSを使用するときの注意点をまとめる。 ☆SNS上でモラルが守られていないとき、どう対応すればよいか。	・課題に対して各自が対応策を考え、ワークシート等を活用して文字として残させる。 ・総務省の資料等を用いて、インターネット上で困ったことになったときの対処法に触れてもよい。 ・SNSは今後必要不可欠になることが予想されるため、SNSに対する恐怖心を煽り、「SNSを使わせない指導」にならないように注意する。

1 3 授業後の成果、児童生徒の反応等

実践事例 1
久喜市立桜田小学校

学級活動
「SNSの正しい使い方」



令和2年11月21日(土) 第3校時

指導者 教諭 恩田 拓

学習場所 5年1組 教室

在籍人数 38名

1 題材「SNSの正しい使い方」 学級活動(2) (イ よりよい人間関係の形成)

2 題材について

(1)児童の実態

事前のアンケート結果から本学級の児童のスマートフォンの所持率は、34%、LINE等、SNSを利用している児童は、21%である。また、オンラインゲームの利用者は、80%であった。SNSの使用率はそれほど高くはないが、児童にとって、インターネットを介して会話やゲーム等で互いにやりとりすることは、ごく当たり前であることがわかった。そして、現段階では、SNSによるトラブルに巻き込まれた経験がない児童がほとんどである。

(2)題材設定の理由

近年、SNSが普及し、特にLINEの利用者は8400万人、Twitterの利用者は4500万人とも言われ、児童の間でもコミュニケーションツールとして利用されている。LINEでは写真、動画、スタンプなどをやりとりできる便利な機能がある。その反面、誤解や自分の気持ちを上手に伝えられないことによるトラブルの発生が多く報告され、いじめ問題につながることも報告されている。また、SNSでは安易な投稿による個人情報の流出の危険性もある。児童生徒の利用に対してマイナスのイメージでとらえる場面が非常に多いのが実情である。しかし、SNSの利便性は非常に高く、これからの社会生活で切り離すことは難しい。SNSの利便性や危険性を理解し、有効な活用法を身につけ、児童の生活をより豊かなものにすることができるようになりたい。

3 評価規準

よりよい生活や人間関係を築くための知識・技能	集団の一員としての話し合い活動や実践活動を通じた思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全といった、自己の生活上の課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解するために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。	自己の生活上の課題に気づき、多様な意見を基に、自らの解決方法を意思決定し、実践している。	自己の生活をよりよくするために、他者と協働して自己の生活上の課題の解決に向けて粘り強く取り組んだり、他者を尊重してよりよい人間関係を形成しようとしていたりしている。

4 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
ワークシート(アンケート部分)を記入する。	児童自らが「他の人はどう思っているのか。どうしているのか」という疑問が持てるようにする。	児童が調査結果をまとめることで、自己の課題として捉えることができるようにする。 (思考・判断・表現)
アンケート結果を表にまとめる。(計画委員)	アンケート結果をわかりやすくまとめ、学級としての実態をつかむようにする。	【ワークシート】

5 本時のねらい

SNSの利便性や危険性等を含む「情報モラル」について理解を深め、SNSを有効に活用したり、危険やトラブルを回避したりしようことができるようにする。

6 展開

段階	児童の活動	指導上の留意点 (○) と評価 (☆)	資料
つかむ 5分	1 アンケートの結果を見て、気づいたことを発表する。 ・「情報モラル」について知る。	○事前にとった家庭学習の状況のアンケート結果をグラフ化し、自分たちの現状を把握できるようにする。 ○SNSの利便性と危険性を比較し、どのように使っていけばよいのか見通しをもたせる。	アンケート結果
さぐる 15分	SNSを使う時に大切なことを考え、自分が気を付けることを決めよう。		思考ツール用紙 ふせん
見つける 15分	2 NHK for school「たった一言の違いが」を視聴し、SNSを使うことで起こるトラブルの原因についてさぐる。 ・メッセージを送る側、受け取る側について、グループでそれぞれ考える。	○3～4人のグループで話し合い、付箋を活用して原因を分類整理しながら思考ツール用紙にまとめていく。 ○話し合うことを通して、人によって感じ方や考え方に違いがあることに気づかせる。	
	3 よりよい解決策を見つける。 ・2のトラブルの原因に対しての解決策をグループで考える。	○個々の児童の生活経験や発想の違いを活かしながら解決方法を見つけられるようにする。 ☆どうしたらトラブルにならないか考えたり、よりよくSNSを使うことができたりするか考えている。(思考・判断・表現)	
決める 10分	4 グループ内の意見を発表し合う。	○自分たちの考えと比べながら友達の意見を聞くように助言する。	ワークシート
	5 自分のめあてを決める。	○自分に合わない目標や実現性の低い目標を決めている児童には、「見つける」段階でみんなで出し合った考えを参考に、めあてを選ぶように助言する。 ○SNSを利用していない児童には、日ごろの言葉づかいや、友達との接し方でよりよい人間関係が築ける具体的な実践方法を意思決定させる。 ☆SNSの正しい使い方について理解を深め、自分のめあてを決めている。(思考・判断・表現)	
	6 教師の話を聞く。	○めあての実現に向けて、努力していくこと、時には友達と励まし合いながら取り組んでいくことを話す。	

7 事後指導

- ・ワークシートにある振り返りの欄を定期的に記入し、自分のめあての振り返りをする。
- ・新聞やニュース等で取り上げられたSNSやオンラインゲームについての情報を朝の会や帰りの会で話をする。



「SNS を正しく使おう」

氏名()

☆自分に一番あてはまるものに○をつけて下さい。

1. あなたは SNS を利用していますか。

毎日している ほぼ毎日している あまりしていない 全くしていない

2. どんなときに SNS を利用しますか。(したいですか)

3. SNS は便利だと思いますか。

とても思う 少し思う あまり思わない 全く思わない

<そう思った理由を教えてください。>

4. SNS を利用してトラブルになったことは、ありますか。

ある ない

5. 「ある」と答えた人は、どんなトラブルだったか教えてください。

1 自分のめあてを立てよう。ふだん SNS を利用しない人も、自分の生活の中で気を付けたいことをめあてにして取り組もう。

《めあて》

2 自分の一週間の行動を振り返ってみましょう。自分の立てためあては、できましたか。これから続けていきたいことは、何でしょうか。

<振り返り>

3 先生からのコメント

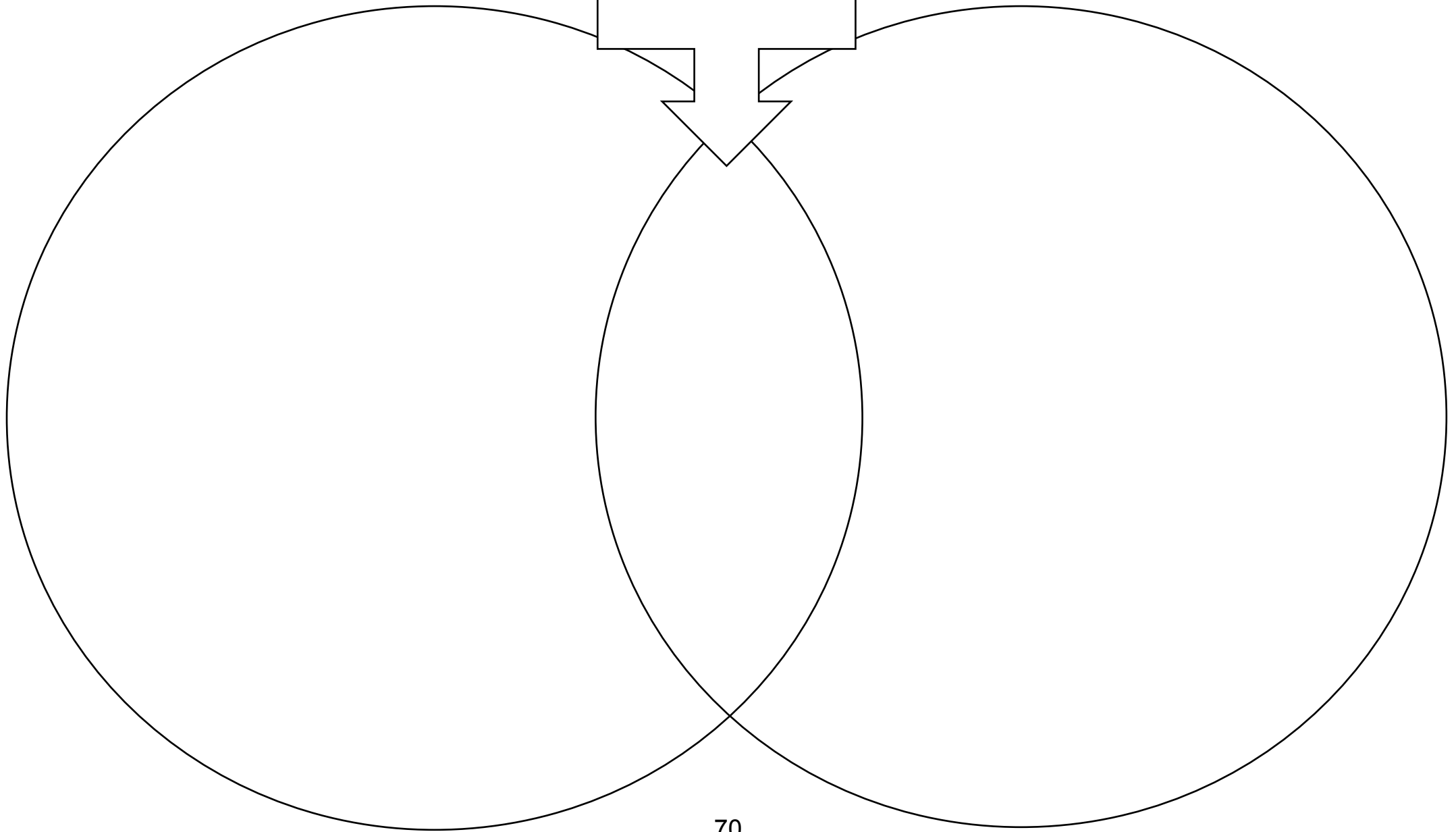
《先生からのアドバイス》



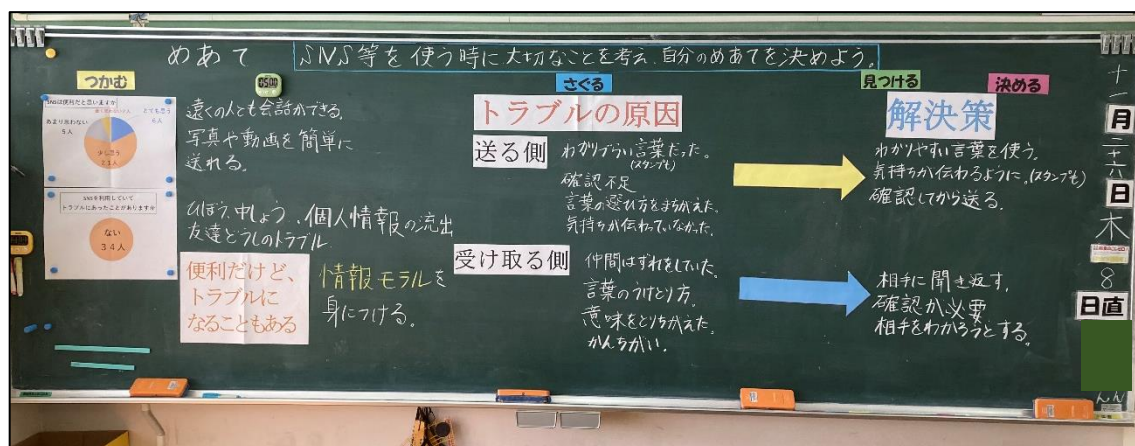
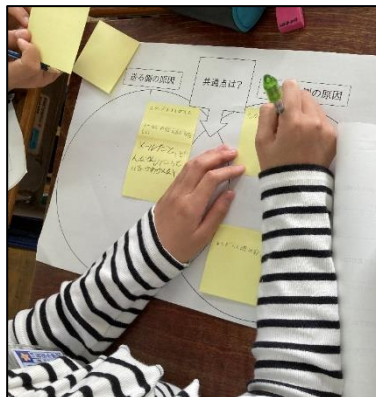
送る側の原因

共通点は？

送られる側の原因



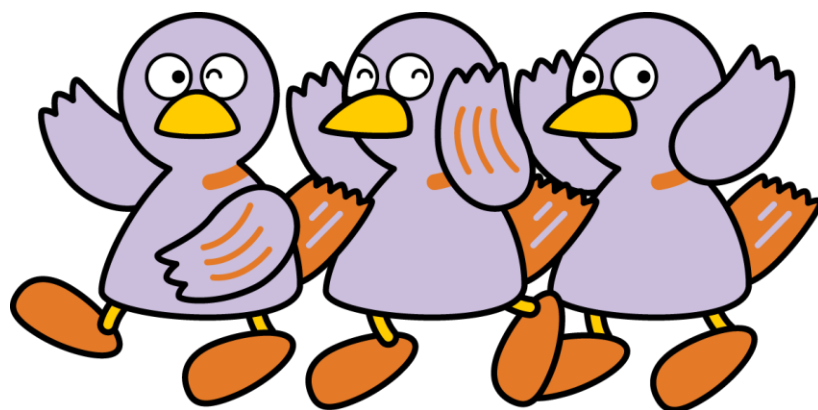
【授業風景】



実践事例 2

熊谷市立熊谷東中学校

特別の教科：道徳
「SNSのグループについて考える」
「情報の信頼性について」



1 教科等 道徳

2 科目等

3 内容 「SNS のグループについて考える」

4 日時 令和 2 年 9 月

5 学級 2 年 2 組

6 授業者 矢島 彬光

7 生徒の状況

- ・学習意欲が高く、教科問わず熱心に授業に取り組む生徒が多い。また、県学力学習状況調査の結果では、学力が伸びた生徒が多い。しかし、自分から話しかける等のコミュニケーションが苦手で、相手の発言や行動をそのまま受け止めてしまい、友人関係をうまく築けない生徒が一定数いる。特にそのような生徒やその周りの生徒が SNS 等を利用する場合、上手に利用することができるような指導をしていく必要がある。

8 生徒の SNS 等利用に関する状況

- ・自分専用のスマホを持っている生徒の割合 74% [35人中26人]
- ・スマホやタブレットの利用率（1度でも使ったことがある） 100% [35人中35人]
- ・スマホ、タブレットの使用目的は、「調べものをする」が最も多く、次に「SNS を使用する」が多い。
- ・LINE アプリ利用率（家族のスマホ等を使って利用したことがあるも含む） 66% [35人中23人]

9 上記 4・5 の生徒の状況から導いた本時の目標

- ・SNS 等を利用する際は、いろいろな立場の人のことを配慮し、上手に使うためのルールが必要であることを理解する。

10 評価規準

- ・みんなが気持ちよく SNS 等を使うことができるようにするためのルールを、いろいろな立場の人のことを踏まえて考えることができたか。

11 これまでの指導

- ・情報モラル及びスマホの使い方と危険性について

12 本時の流れ

	主な学習活動・予想される生徒の反応	○指導上の留意点 ☆評価
導入	1 中学生のスマホ、タブレットの利用率を知る。 - 所持者、利用者の割合を知る。 - 所持者、利用者の使用目的を考える。 2 アンケート結果を知る。 - 友達と SNS を使ってコミュニケーションをとる。 - 調べものをする。情報収集をする。 - ゲームをする。 3 本時のねらいを知る。 SNS の友達関係について考えよう	○SNS をコミュニケーションツールとして使っている人の割合が多いことをおさえる。 ○ねらいを提示し、本時は SNS の友達関係について考えることを伝える。
展開	4 資料について知る。 - 教師が範読をする。 仲の良い女子4人（Aさん、Bさん、Cさん、Dさん）のグループがありました。 この4人にはLINEのグループがあります。 あるとき、4人のうち3人は、3人でとった写真を共有するため、Aさんを除く3人のグループを作りました。 その後も、その3人のグループでやり取りが続きました。 ある日、Aさんといっしょに下校していたBさんが「昨日送ってきた芸能人の写真面白かったね」と話してきました。それを聞いたAさんは「昨日？ 写真もらってないけど・・・」その写真は、Aさん以外の3人のグループに送られた写真でした。 5 資料をふりかえる。[発表] (1) 3人はなぜ、別のグループを作ったのか。 【予想される生徒の反応】 - 写真を共有するため (2) なぜ、Bさんはだまってしまったと思いますか。 【予想される生徒の反応】 - だまって別のグループを作ってしまったから。 - Aさんがいないグループでやりとりをしてしまったから (3) 仲良しの友達の中で、別の LINE のグループができていたら、あなたはどのように感じますか。 【予想される生徒の反応】 - 不安になる。 - 他にどんな話をしているか気になる。	仲の良い3人のグループがありました。    Aさん Bさん Cさん 3人にはLINEのグループがありました。あるとき、3人のうち2人は、2人でとった写真を共有するため、Aさんを除く2人のグループを作りました。 その後も、その3人のグループでやり取りが続きました。   Cさん Bさん  Aさん ある日、Aさんといっしょに下校していたBさんが「昨日送ってきた芸能人の写真面白かったね」と話してきました。   Aさん Bさん それを聞いたAさんは「昨日？ 写真もらってないけど」 その写真は、Aさん以外の2人のグループに送られた写真でした。   Aさん Bさん 「私が入っていないグループを作っているの？」 Aさんの問いかけに、Bさんはだまっていました。 ○資料の内容を確認する。

6 教材について話し合う。

【発問】 3人がとった行動について理解できますか。

【活動】「理解できる」「理解できない」
それぞれの立場で理由を主張し合う。

[個人]

【予想される生徒の反応】

「理解できる」

- ・写真の共有だけなので問題はない。
- ・3人の共有の話題で話したい内容もあるだろう。

「理解できない」

- ・仲間にいれてもらえなかったのを知ったら嫌な思いをする。
- ・Aさんにグループを作った理由を説明していないので、なにが裏があると思ってしまう。

【発問】 あなたがBさんならこのあとどうしますか。

【活動】 Bさんになりきって、役割演技をする。

[ペア] 役割演技をする。

二人一組で、「Aさん」「Bさん」の役を決める。

【予想される生徒の反応】

- ・ちゃんとAさんに理由を説明する。
- ・これからは、4人のグループで投稿しあう。
- ・3人グループを消去する。

【発問】 クラスや習い事、友達間でLINEなどのSNSのグループを作ることになったとき、みなさんはどのようなことに気をつけるべきだと思いますか。

[個人]

【予想される生徒の反応】

- ・SNSを利用していない人もいるので、グループを作るときは、仲間外れにならないようにする。
- ・たくさんグループを作らない。どうしても追加でグループをつくる場合は、グループに入らない人の気持ちも考える。
- ・学校で話をする。
- ・悪口等をかかず、秘密をつくらない。

○「理解できる」「理解できない」の人数を板書する。

○どちらの考えも否定せず共感できるところがあることを全体で共有する。

○以下の3つの視点で考える。

ア SNSを使っていない人がいるときはどうしますか。

イ グループをたくさん作ることの問題点を考えよう。

ウ SNSにのせる内容で気をつけることを考えよう。

○SNSでのやりとりを否定しない。

☆みんなが気持ちよくSNS等を使うことができるようにするためのルールを、いろいろな立場の人のことを踏まえて考えることができたか。

終末	7 本時の授業を振り返って、感想を記入する。	○LINE などの SNS のグループは便利だが、いろいろな立場の人のことを考えて使うことが大切であることを知らせる。 ○宿題として、本時の授業でわかったことや学んだことを家族に伝え、家族に伝える。
----	-------------------------------	---

1 3 授業後の成果、生徒の反応等

- ・気にせず、使っていた LINE でのやり取りでも、もしかしたら相手を知らずに傷つけているかもしれないなど相手の立場を考えた感想を書く生徒が多かった。
- ・三者面談にて保護者に会った際、「この文章おかしくない？」と母親に文面をチェックしてもらってから送信していた時期があったことを聞いた。

SNS のグループについて考えよう

ねらい SNS の友達について考えよう

____年 ____組 ____番

名前 _____

1. まゆこさん、ゆきこさん、ひかりさんのとった行動について理解できますか。できませんか。
どちらかに○をつけ、その理由も書いてください。

• 理解できる • 理解できない	【理由】
--	------

2. あなたがひかりさんなら、このあとどうしますか。

--

- 3 クラスや習い事、友達間で LINE などの SNS のグループを作ることになったとき、みなさんはどのようなことに気をつけるべきだと思いますか。

◇次の3つの視点で考えましょう。

- ① SNS を使っていない人がいるときは？
- ② グループをたくさん作ることの問題点は？
- ③ SNS にのせる内容で気をつけることは？

--

本時の振り返り

- | | | | | | |
|----------------------|-------|---|-----|---|--------|
| 1 自分のこととして考えることができた。 | よくできた | • | できた | • | できなかった |
| 2 友達の考えを聞くことができた。 | よくできた | • | できた | • | できなかった |
| 3 今日の学習の感想を書きましょう。 | | | | | |

「情報モラル」の育成に係る学習指導案及び成果

熊谷市立熊谷東中学校

1 教科等 道徳

2 科目等

3 内容 「情報の信頼性について」

4 日時 令和2年9月

5 学級 2年2組

6 授業者 矢島 彬光

7 生徒の状況

- ・学習意欲が高く、教科問わず熱心に授業に取り組む生徒が多い。また、県学力学習状況調査の結果では、学力が伸びた生徒が多い。しかし、自分から話しかける等のコミュニケーションが苦手で、相手の発言や行動をそのまま受け止めてしまい、友人関係をうまく築けない生徒が一定数いる。生徒アンケートより、スマホ利用目的で「情報収集」をする生徒の割合が多かった。情報の信頼性の判断の仕方や方法を考え、情報を批判的に読み解く力を身につけさせたい。

8 生徒の SNS 等利用に関する状況

- ・自分専用のスマホを持っている生徒の割合 74% [35人中26人]
- ・スマホやタブレットの利用率（1度でも使ったことがある） 100% [35人中35人]
- ・スマホ、タブレットの使用目的は、「調べものをする」が最も多く、次に「SNSを使用する」が多い。
- ・LINE アプリ利用率（家族のスマホ等を使って利用したことがあるも含む） 66% [35人中23人]

9 上記4・5の生徒の状況から導いた本時の目標

- ・情報の信頼性の判断の仕方や方法を考え、情報を批判的に読み解く力を身につける。

10 評価規準

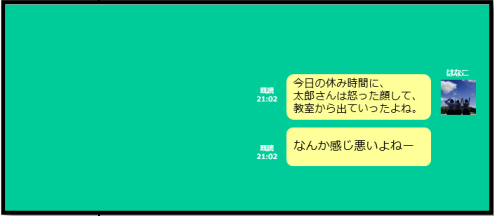
- ・情報の信頼性の判断の仕方や方法を考え、どのように行動していけばよいか考えることができたか。

11 これまでの指導

- ・情報モラル及びスマホの使い方と危険性について

12 本時のながれ

	主な学習内容・予想される生徒の反応	○指導上の留意点 ☆評価
導入	1 アンケート結果を知る。 ・友達と SNS を使ってコミュニケーションをとる。 ・情報を収集する。 ・ゲームをする。 2 1 高校生のスマホ普及率を知る。 2011 年 東日本大震災 6.8 % 2016 年 熊本地震 94.8 % 3 本時のめあてを知る。 情報の信頼性・信憑性について考えよう	○本時では、「情報を収集する」に注目すること伝える。 ○スマホの普及率が高くなっていることとスマホは震災時に情報を収集や連絡ツールとして活躍していたことにふれる。
展開	4 資料を知る。 資料 拡散希望で、以下のような投稿がありました。 熊谷市の東マンションで、助けを呼ぶ声が聞こえました。 近隣の方は、救助をお願いします。 場所：熊谷市〇〇1-2-3 東マンション 5 資料について話し合う。 【発問】この情報を拡散しますか。 (この情報を他の人に伝えますか。) 【活動】「拡散する」「拡散しない」 それぞれの理由を伝えあう。 [発表] 「拡散する」：助けを呼べば助かるかもしれないから。 「拡散しない」：間違った情報かもしれないから。 【発問】発信源が誰なら拡散しますか。 ・友達 ・友達の友達 ・芸能人 ・熊谷市在住の人 ・知り合い ・ネット上で知り合った人	○「拡散する」「拡散しない」を全体に問い、その人数を板書しておく。 ○東日本大震災で支援物資を求めるツイートで助かった場面もあったが、状況が改善された後も情報が拡散させ続け、結果問い合わせ等で混乱してしまった事例を紹介する。

【予想される生徒の反応】 ・友達なら拡散する。 ・熊谷市在住の人なら考える。 ・ネットで知り合った人なら拡散しない。	
【発問】 拡散した場合としなかった場合、どうなることが考えられますか。	
[個人] 【予想される生徒の反応】 <拡散した場合> ・情報が正しいなら、人助けになる。 ・情報が間違いなら、誰かに迷惑をかける。 <拡散しなかった場合> ・情報が正しいなら、人を助けることができない。 ・情報が間違いなら、誰にも迷惑をかけない。	○正しい情報を拡散すると人助けになることや間違った情報や必要なくなった情報を拡散・発信してしまうと混乱を招くことがあることを確認する。
【発問】 情報が正しいか間違いかをどのように見分ければよいでしょうか。	
[個人][ペア] 【活動】 それぞれの考えを伝えあう。 【予想される生徒の反応】 ・発信源が信用できるか。 ・他の人の反応はどうか。 ・時間や場所は明確に示されているか。 ・1つの情報源だけでなく他の情報源も確認する。 6 資料2について知る。 資料2 ある人から、こんな LINE が届きました。	☆情報の信頼性の判断の仕方や方法を考え、どのように行動していけばよいか考えることができたか。
今日の休み時間に、太郎さんは怒った顔して、教室から出ていったよね。 なんか感じ悪かったよねー	
7 資料2について話し合う。 【発問】 太郎さんにどんな印象を持ちますか。 [発表]	○悪い印象をもった人の人数を板書しておく。

	【予想される生徒の反応】 ・怒っている。 雰囲気が悪い。 【活動】 この文章で「事実」である部分と「個人的な意見」である部分を分けてみよう。 [発表] 【予想される生徒の反応】 「事実」：教室を出て行った。 「個人的な意見」：太郎さんは怒った顔をしていた。 感じが悪そうだった。	○「実際に怒っていたのかな」と生徒に問いかけ、「本当に怒っていたかはわからない」という発言を引き出す。 ○事実は、赤ペンで個人的な意見は青ペンでマークさせる。 ○いろいろな情報を受け取ったなかには、事実と個人的な意見が含まれ、それらを見極めることも大切であることに触れる。 ○情報は、事実と個人的な意見が混じっている場合があり、事実とは違った認識をしてしまう恐れがあるので、事実と個人的な意見を分けて捉えるとよいことを伝える。
終末	7 本時の授業を振り返って、感想を記入する。	○情報には、事実ではないものや個人的な意見であるものもある。また、間違った情報を受信や発信してしまうと他者に迷惑をかけることがある。また、情報の信頼性を見極めるために疑いの目も必要であることを知らせる。 ○宿題として、本時の授業でわかったことや学んだことを家族に伝え、家族に伝える。

1 3 授業後の成果、生徒の反応等

・授業後の調査より

1つの情報だけでなく複数調べて情報を確認しようと思う 53% (34人中18人)

ねらい 情報の信頼性・信憑性について考えよう

年 組 番

名前

1. あなたは、誰の投稿であれば拡散しますか？

- ・ 熊谷市在住の人
- ・ 親しい友人
- ・ 新聞社
- ・ 芸能人
- ・ 友達の友達
- ・ ネットの人

拡散した場合、しなかった場合、情報が正しかった場合、間違っていた場合、どのようなことが起こるのか

	拡散したら	拡散しなかったら
情報が正しかったら		
情報が間違っていたら		

2. 「花子さんは怒った顔して、こっそり教室を出て行ったよ。感じ悪いね～」

事実

個人的な意見

本時の振り返り

- 1 自分のこととして考えることができた。よくできた ・ できた ・ できなかった
- 2 友達の考えを聞くことができた。よくできた ・ できた ・ できなかった
- 3 今日の学習の感想を書きましょう。

実践事例 3

県立羽生第一高等学校

総合的な学習の時間 「私たちの生活とSNS」



- 1 教科等 総合的な学習の時間
- 2 科目等 総合的な学習の時間
- 3 内 容 私たちの生活とSNS
- 4 日 時 令和2年11月17日（火）第7校時（15時35分～16時25分）
- 5 実施学級・学年等 3年1組 39人（男20人、女19人）
- 6 授業者 中村 悠哉
- 7 児童生徒の状況★
 - ・スマホの所有率は100%である。
 - ・SNSの利用率は高いが、生徒指導案件となる事例は発生していない。
- 8 児童生徒のSNS等利用に関する状況★
 - ・LINE 使用率100%
 - ・Twitter 使用率62%（積極的に発信をしている生徒3%）
 - ・Facebook 使用率28%
 - ・インスタグラム使用率69%
- 9 上記4・5の生徒の状況から導いた本時の目標★
 - ・どのような書き込みが炎上の種となるのかを理解する。
 - ・匿名性を見る側にもあることを理解する。
- 10 評価規準
 - ・なぜ、炎上が起こるのかを理解し、回避する方法を実践できる。
 - ・不特定多数の『誰か』の目を気にした発言ができる。
 - ・与えられた情報が正しいかどうかの判断をしようとする。
- 11 これまでの指導（対象学級等に行ってきた「情報モラル」に関する教育など）
 - ・学年集会やLHR等での使用上の注意
 - ・3学年での「社会と情報」の授業内容

12 本時の流れ

※ 以下はベースです。○は「生徒に考えさせたい内容の柱」を、☆は「扱う具体例になりえるアイデア」を、◆は「生徒の具体的な動き」を示します。児童生徒の発達段階や実情に応じて仕様を追加または修正してください。

	学習活動	指導の留意点
導 入	○「モラル」とは何かについて考える ☆誰かを傷つける言葉にはどのようなものがあるか ☆言われたらどんな気持ちになるか ☆ばれなそうな嘘をついてみよう ☆モラルのない行為とはどんなものか ◆モラルという言葉の意味を考え、共有する	・具体的な誰かを対象にした悪口にならないように配慮する ・一般的なモラルという意味を共有する

展 開	○どのような発言をすると炎上してしまうのか ☆自分自身の発言で炎上させてみる ☆誰かの発言の返信で炎上させてみる <ロールプレイ> ◆なぜ、炎上したのかを理由付けする ○なぜ、炎上する発言をする人がいるのか ◆炎上する投稿をする人の心情を考える ○炎上した後の生活はどうなるのか ◆炎上した後の生活について考える ○信用できる情報とはなんだろうか ☆財布を預けられる関係性はどこまでか ☆天気予報を信じられる関係性はどこまでか ○ネット上でデマが流行るのはなぜか ◆デマが流行する要因を考える	・複数の方向性での発言がみられると考えられるので、発表の段階で分類も行う ・悪意のあるものだけではなく、過剰な承認欲求から起きるものもあることを提示 ・炎上した後の生活を広範にわたり考えさせる。自身や家族についての影響も考えさせる ・人間同士の関係性によって信頼性が異なることを実感させる ・ネット上の情報は誰が書いているのかを考えさせる ・情報の確度の低下が匿名性に起因することを考えさせる ・自身がデマの発生や拡散をしないように気を付けることを伝える
まとめ	情報モラルを持つということは具体的にどのような行動をすればいいのかを各自でまとめる	

1.3 授業後の成果、児童生徒の反応等

<授業後の感想>

- ・自分の書いたものは全世界に向けて発信されていることを意識する
- ・他者の気持ちを考えて、行動し、その情報が正しいかどうかを見極めて判断する
- ・その情報が本当に正しいかを考え、また自分も嘘情報を流さない
- ・周りの人への考慮を忘れず、自分の発した情報には責任を持つこと

<成果>

どのような要素を含む投稿をすると炎上に発展するかを共有でき、どのような心理が働くと炎上するような投稿をしてしまうかがクラス内で確認できた。炎上後の現実世界での生活や、安易な発信がデジタルタトゥーとなり、残り続けることも考えられるようになった。

情報モラルについて考える　－炎上しないためには－

年組番

○「モラル」とは何だろう

○炎上させてみよう

①自身の発信だけで炎上させる



なぜ、炎上すると思ったのか（炎上する要素は何か）

②他者への返信で他者を炎上させる



今日のテスト超簡単。
90点は余裕。



どのような要素で炎上してしまいそうか

○なぜ、人は炎上してしまうような投稿をしてしまうのだろうか

○大炎上をすると生活はどう変化するのだろうか

○どのレベルまで信用できますか

①財布を預ける

②明日の天気

自分

身内

友達

友達の友達

友達の友達の友達

他人

自分

身内

友達

友達の友達

友達の友達の友達

他人

ネットで見ている情報は誰が書いてるんですかね？

○ネットでデマが流行するのはなぜだろう

○情報モラルを持つということはどのようなことに気を付ければいいのか

実践事例 4

県立大宮商業高校

教科：商業
「SNSと肖像権」



「情報モラル」の育成に係る学習指導案

埼玉県立大宮商業高等学校

1. 教科等 商業
2. 科目等 課題研究「経済活動と法」
3. 内 容 SNSと肖像権
4. 日 時 11月中旬
5. 実施学級 3学年選択科目 10名（男子3名、女子7名）
6. 授業者 教科担当者
7. 生徒の状況 課題研究12講座のうち、法律を学ぶ「経済活動と法」の授業である。
社会生活において、法律を知っていると知らないとは、大きな差がある
事を普段の授業を通じて学んでいる生徒たちである。
8. 本時の目標 何気なく使っているスマホの落とし穴について学習する。

	学 習 活 動	指導の留意点
導 入	○スマホ禁止という校則について考えさせる。 ☆何故、禁止なのか？ ☆学校行事で使えるようにするには？	・模範解答的な意見ではなく、素直な気持ちを述べさせる。
展 開	○普段のスマホの使い方をあげさせる。 ☆写真を撮る ☆SNSにアップする ○SNSにアップするのは何故？ ☆SNSを利用する時に気を付けていることは？ ☆SNSの落とし穴とは？ ○知らぬ間に加害者になりうる危険性について学ぶ。 ☆個人情報の保護について考えさせる。 ☆肖像権について考えさせる。 ○被害者になった時の対処法について学ぶ。 ☆どんな対処法があるか？ ○学校行事の時にスマホの使用が認められるようにするには、どうしたらよいか？ ☆グループで話し合いをさせる。	・何気なく使っているスマホの機能について考えさせる。 ・（社）日本音楽事業者協会の資料を参考にする。 ・弁護士のHPを参考にする。 ・10分程度の話し合いをさせ、意見をまとめる。
ま と め	○学校でスマホが使用禁止になっている理由を理解させる。そのうえで、学校行事で使えるようにするには、どうすれば良いのかを考えさせる。 ☆写真の撮り方に注意する。 ☆写真をSNSにアップする時に気を付けること。	・ルールを守りながら、楽しい学校生活を送れるか否かは、自分自身にある事を理解させる。

1、そもそも肖像権とは

そもそも、肖像権とは、次の2つの権利に類型化されるといえます。

(1) 自分の顔や容姿をみだりに撮影されない権利(撮影の拒絶)

第1に、自分の容貌や容姿をみだりに撮影されない権利があります。たとえば、散歩の途中でモデルのようなキレイな女性を見かけたとします。このとき、いくらキレイな方だからといっても、勝手にスマートフォンなどで撮影をすることは許されません。また、被写体が子どもの場合、親権者たる親の許可がない限り勝手に撮影はできません。

(2) 撮られた写真・画像を公表されない権利(公表の拒絶)

第2に、撮られた写真や画像を勝手に利用されない、公表されない権利があります。たとえば、電車が遅延していて駅のホームが混雑しているときに、ホームで乗客が行列を作っている写真を撮り、SNSにアップロードして混雑ぶりを知らせるという行為は、肖像権の侵害にあたり可能性があります。最近では安全面への配慮から、自分の子どもの写真を撮ってSNSなどにアップするときには、他人の子どもが写りこまないように注意するケースも少なくありません。

(3) 肖像権の侵害と表現の自由との兼ね合いをどう考える？

肖像権は人格権と捉えられており、守られるべき権利ではありますが、その一方で表現の自由も保障されています。そのため、たとえば写真展に出すために風景の写真を撮ったときに、たまたまそこに居合わせた人が写りこんでしまっていた、などの場合は、肖像権の侵害と表現の自由のどちらを優先すべきかが問題となります。

2、肖像権侵害になるケース・ならないケース

ここでは、肖像権侵害になるケースとならないケースについて考えていきましょう。その判断基準としては、以下の点が考慮されます。

- ① 報道目的など、公益的目的の撮影・公表かどうか
- ② 犯罪予防目的の撮影・公表かどうか
- ③ 私的生活空間の撮影・公表か、それとも、公園や公道などの公衆の場で撮影・公表かどうか
- ④ 人物が特定できるほどの撮影・公表か、それとも、被写体が小さすぎて人物が特定できず、あるいはモザイク処理をするなどして特定できない形での撮影・公表か
- ⑤ 水着姿、裸などの撮影・公表か

(1) 肖像権侵害になるケースとは

肖像権侵害となりうるのは、以下のようなケースです。

例：

- ・他人の下着姿や裸を盗撮した場合
- ・他人の写真を無断で撮影した場合
- ・アップした写真がSNSなどで拡散される可能性が高い場合
- ・被写体本人が撮影は許可していても、公開することは認めていない場合

特に、他人の衣服の中を盗撮した場合は、迷惑防止条例違反として処罰されることにもなりますので絶対に許されません。

(2) 肖像権侵害にならないケースとは

逆に、画像などを見ても誰か判別できないもの、被写体となる本人に許可を得ている場合は、肖像権侵害にならないと考えられます。具体的には、以下のようなケースは肖像権侵害にあたらないとされることが多いといえます。

例：

- ・写っているのが誰であるか判別が付かない場合
- ・たまたま小さく写りこんだ場合
- ・被写体本人から許可を得ている場合

(3) 肖像権侵害の判断基準

肖像権の侵害になるかならないかは、撮影場所や撮影内容、撮影の必要性、撮影者の意向などさまざまな事情を総合的に見て判断されます。過去の判例では、「被撮影者の人格的利益の侵害が社会生活上受忍の限度を超えるときに違法となる」とされています。(最高裁平成17年11月10日判決)しかし、実際には個々のケースに応じて肖像権の侵害にあたるかどうかを判断していくことになります。

(4) 有名人にも肖像権はある？

アイドルやタレント、政治家などは人前に出ることによって知名度を上げることも仕事のひとつであり、広く世間一般に知られるために、撮影されたり公表されることが当人の利益にもつながっています。

そのため、アイドルやタレント、政治家の肖像権は、一般人の場合と比べて狭く解釈されることとなるでしょう。たとえばあるタレントがオフの日に街中を歩いていてファンに写真を撮られた場合、それが肖像権侵害にあたるかどうかは、一定の事情を考慮の上認定されることになります。

とはいえ、アイドルやタレント、政治家にも肖像権は認められます。また、著名人の名前や肖像には顧客吸引力を高める価値があり、それ自体経済的価値のあるものとして扱われます。このような経済的価値の観点から、著名人が肖像・氏名の経済的価値をコントロールする権利をパブリシティ権といいます。

3、もし肖像権侵害の被害に遭ったら？ 対処方法について

最近では、友人の子どもと自分の子どもと一緒に写っている写真が無断でSNSなどにアップされ、トラブルになるケースも増えています。実際に自分が肖像権侵害の被害に遭ったときは、どうすればよいのでしょうか。具体的な対処法は主に3つありますので、順番に見ていきましょう。

(1) サイト管理者や投稿者に削除請求をする

自分の写真や動画がSNSやインターネット掲示板、ブログなどに無断で掲載されていた場合、時間がたつほど多くの人の目に触れることになるので、一刻も早く画像を削除してもらうことが重要です。投稿者がわかっている場合は投稿者に、投稿者がわからない場合はサイトの運営会社や管理者に削除を依頼しましょう。

(2) 民事訴訟を提起する

肖像権の侵害は刑法では罰せられません。しかし、民事上の責任を問うことはできます。

たとえば、インターネットに公表された画像によってプライバシーを侵害される行為は、民法709条の不法行為に該当する可能性があります。その場合、削除を求めたり、差止請求を行ったりすることはもちろん、慰謝料として損害賠償請求をすることも可能です。

ただし、投稿者はわからないが投稿者に対して損害賠償請求を検討している場合、削除請求と並行して、投稿者を特定すべく発信者情報開示請求を行うことが必要です。

発信者情報開示請求とは、SNSや掲示板の管理者や、インターネットサービス提供者（プロバイダ）に対して、投稿者の氏名・住所・電話番号などの情報開示を求めることです。

(3) 弁護士に相談する

自分や子どもの写真がSNSなどに無断でアップされてしまった場合は、まず弁護士に相談し、どのように対処すべきか判断をおおぐことが大切です。

個人でインターネットへの投稿者やサイト管理者に削除を求めても、対応してもらえないことも考えられます。投稿したのが自分の友人であれば、直接指摘することでその後の人間関係にも影響してしまう可能性もあります。また、差止請求や損害賠償請求をするにも、自力で直接相手方に請求しても相手にされなかったり、請求額からかなり減額されてしまったりする可能性もあります。

もしも相手方が応じてくれなかった場合は、裁判所で削除を求めるための仮処分手続きが必要になるでしょう。仮処分とは裁判所の暫定的な処置で、スピードが求められる削除請求などの事件に用いられる手続きです。

弁護士であれば、相談者の個々のケースに応じて任意の削除請求や裁判所での仮処分手続きを含め、必要な手段を検討し事案に応じた方法を選択することができます。任意交渉でも、弁護士を代理人に立てれば相手方も相談者の要求に応じてくれる可能性が高くなるでしょう。

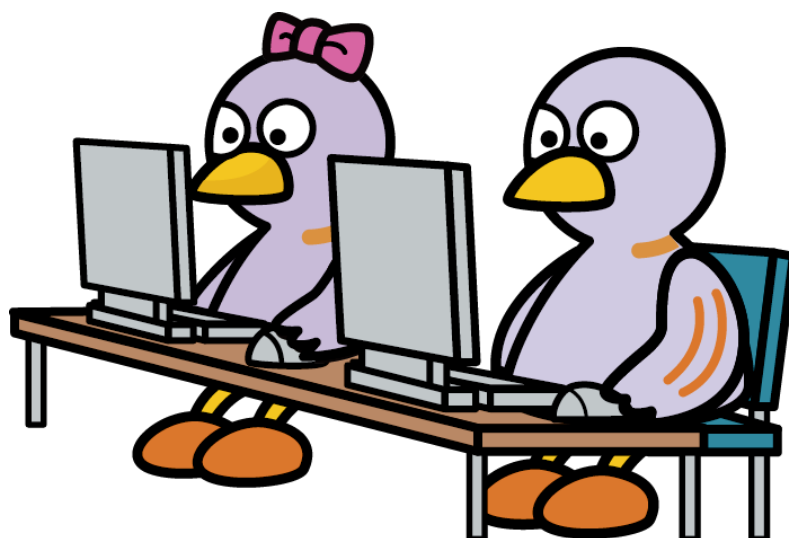
4、まとめ

最近ではカメラ付きのスマートフォンや携帯電話を持つ人が増え、誰もがいつでもどこでも写真を撮ってインターネットにアップできるようになりました。自分の写真が無断でSNSにアップされたなど肖像権侵害の被害者になってしまった場合は、相手方に対して何らかのアクションを起こす前に弁護士に相談されることをおすすめします。

実践事例 5

県立特別支援学校さいたま桜高等学園

教科：情報
「情報モラルについて」



「情報モラル」の育成に係る学習指導案 及び 成果

埼玉県立特別支援学校さいたま桜高等学園

環境・サービス科 1年7組・8組 教科別の指導「情報」学習指導案

日時 令和2年11月21日(土)
8 : 55 ~ 9 : 45
場所 コンピューター室
指導者 富田 高史 (T1)
菅原 彩 (T2)
新井 純平 (T3)

1 題材名 「情報モラルについて」

2 題材設定の理由

(1) 生徒の実態

本指導グループは男子19名、女子1名で構成されている。主たる障害は軽度の知的障害で、広汎性発達障害を併せ有するなど多岐にわたる。授業態度も良く、何事にも一生懸命取り組む生徒が多く、理解しようとする意欲や向上心を持って取り組む姿勢が見られる集団である。

日常生活での SNS 利用については、全員が自分専用のインターネットに接続できる機器を所持している。スマートフォン利用者は19名、携帯電話(ガラケー)利用者は1名。LINEやYouTubeなどを中心に利用している生徒が多い。コミュニケーション面では、語彙の少なさや自分の意思を友達や教員に伝えることが苦手な生徒、相手の気持ちを想像することに課題がある生徒、話の内容を理解することに課題がある生徒など実態は様々である。

(2) 題材観

インターネットは非常に便利なツールであり、現代社会において、私たちの生活やコミュニケーションに様々な影響を与えているだけでなく、社会的にも個人的にも必要不可欠なものとなっている。一方で、インターネットはその利便性から、自制心の発達段階にある生徒や特別な支援が必要な生徒にとっては、とめどなくのめりこんでしまう危険性をはらんだツールでもあると言える。令和元年度総合教育センター研究報告書「情報モラル教育の充実に資する調査研究(中間報告)」によると、情報モラル教育について、多くの学校が取り組んでいる一方で、その内容については「適切に指導できる自信がある」と考える教員が63.4%、「自信がない」と考える教員が35.0%いることが分かった。

また、SNS等のコミュニケーションアプリを使用しているときに、嫌な思いをしたことがある児童生徒が19.5%いて、そのうちの17.8%が仕返しを考え、更にそのうちの59.8%が実際に仕返しをしたことが分かった。本校でも毎年、SNSを利用したトラブルにより生徒指導案件に発展するケースは後を絶たない現状がある。

このような課題を解決するために、教科等横断的な観点から、「情報モラルとは」「SNSの特質に着目した情報モラル教育」を軸に何をどのように気をつけたらよいか、インターネットの利点と問題点を示しながら考えさせるベースを示し、生徒の実情に応じて仕様を変更できるような指導案を作成した。

(3) 指導観

本題材のはじめに「情報モラルアンケート（前）」を実施。質問項目を10段階で自己評価。「情報」及び「モラル」を知っているかの質問に多くの生徒が低い数字に評価をつけていた。「モラル」に関しては「全然知らない」と答えた生徒が12名。全体の6割の生徒が言葉の意味も理解していないこともわかった。

本時では、「情報モラル教育」において、「情報」とは何か。多くの生徒が利用するLINEの特徴を活用し、「情報」について主体的に考え、活動できるようにワークシートやロールプレイなどにより授業を展開し、LINEはどの程度、相手に情報を伝えることができるか等も併せて考えさせたい。情報は、送り手は受け手の影響に配慮する責任があること。習得した知識やコミュニケーションスキル、他人や社会への影響を考えて行動できる力を身に付け、よりよい人間関係を築きながら社会生活・職業生活を送れるような人間を育てていきたい。

3 題材の目標

- ・情報モラルの言葉の意味を理解することができる。【知】
- ・SNS等を利用する際の、注意点や改善点を考えることができる。【思】
- ・自分で考えをまとめ、他者の意見を聞くことにより、考えを深めることができる。【学】

4 指導計画（4時間扱い）

時間	学習内容	育成を目指す資質・能力
2	「情報モラル」アンケート（前） ・モラルについて	・「モラル」について調べ、理解する。【知】 ・具体的事例を聞き、モラルについて、自分の考えをまとめる。【思】 ・SNSで気をつけることを考え、内容を整理し、生活で活用できるようにする。【学】
1	・情報について（本時3/4） ・SNS利用で気をつけること	・「情報」について調べ、理解する。【知】 ・SNSで発信される情報の種類・量について考えをまとめる。【思】 ・SNSで気をつけることを考え、内容を整理し生活で活用できるようにする。【学】
1	・ネット上のトラブルについて ・「情報モラル」アンケート（後）	・ネット上で起こるトラブルについて、対応の仕方や感情など考え、基本的なトラブル対応の方法を身に着ける。【思】【学】 ・ネット上で起きたトラブルが、生活に影響があるか考え、理解する。【知】

5 生徒の実態

7（2）参照

6 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた視点

・「主体的な学び」について

学習の流れや時間を提示し、見通しをもって授業を展開する。ワークシートなど視覚支援教材を使用し、自身の考えを整理しやすくする。

・「対話的な学び」について

自分の考えを発表する場面や他者の考えを聞く活動を通じて、ワークシートに記入させ、考えを広める事ができる時間と場面を設定する。

・「深い学び」について

学びで得た知識や、他者の考えなどを参考に、ネット上や日常生活において、情報モラルの実践及び活用について考える場面を設定する。

7 本時の学習

(1) 本時の目標

- ・「情報」について調べ、考えをまとめることができる。【知】
- ・SNSで発信される情報の種類・量について考えることができる。【思】
- ・SNSで気をつけることなど考え、まとめることができる。【学】

(2) 生徒の実態、本時の目標、指導の手立て

氏名 学年	本題材に関わる実態	本時の目標	指導・支援の手立て
A 1年 女	スマートフォン利用。使用頻度が高いアプリはLINEやYouTubeである。一斉指示を理解すること。自分の考えを整理することに時間を要するが、授業態度は真面目で落ち着いて活動に参加できる。	・他者の考えを参考に、自分の考えをまとめることができる。 ・SNSを利用するときに、気をつけるべきことをまとめることができる。	・ワークシートを活用し、他者の考えを聞く場面を設ける。 ・視覚的な提示資料などを活用し理解を深められるようにする。
B 1年 男	スマートフォン利用。使用頻度が高いアプリはLINEやYouTubeである。指示を聞き逃し、課題が進まないこともある。考えを整理し、まとめることはできる。	・指示を理解して、自分の考えを時間内にまとめることができる。 ・SNSを利用するときに、気をつけるべきことをまとめることができる。	・ワークシートの活用、時間の提示など明確にし、必要に応じて声かけ支援する。 ・視覚的な提示資料などを活用し理解を深められるようにする。
C 1年 男	スマートフォン利用。使用頻度が高いアプリはLINEやYouTubeである。一斉指示を理解すること。自分の考えを整理することに時間を要するが、授業態度は真面目で落ち着いて活動に参加できる。	・他者の考えを参考に、自分の考えをまとめることができる。 ・SNSを利用するときに、気をつけるべきことをまとめることができる。	・ワークシートを活用し、他者の考えを聞く場面を設ける。 ・視覚的な提示資料などを活用し理解を深められるようにする。

(3) 展開

配 時	学習内容 生徒の活動	●教員の指導 ☆指導・支援の意図と手立て	評価基準
5 分	1 号令 2 出欠確認 3 学習内容の確認	●指名をし、号令を促す。(T 1) ●本時の学習内容とねらいを伝える。(T 1) ☆見通しを持てるようにするため流れをP Cに提示する。(T 1) ☆理解できているか個別に確認し、必要に応じて内容を把握できるように声かけする。(T 2・T 3)	
15 分	4 情報について調べる。	●情報とは何か、ネットで検索する。(T 1) ☆検索できているか確認し、必要に応じて声かけをする。(T 2・T 3) ●検索した内容について発表者を指名する。(T 1) ●ワークシートを配布し、再度、情報について全員で確認する。(T 1) ●情報は、発信する側と受け取る側が必要なことをキャッチボールで体験する。(T 1) ☆メッセージを記入し情報は受けとる人にしか伝わらないことを体感させる。(T 1) ☆情報が漏れると困った状況になることも理解させる。(T 1) ●「情報」を伝達しているものについて考え、ワークシートに記入するように指示する。(T 1) ☆活動の時間提示し、見通しをもたせる。(T 1) ☆生徒の様子を観察し、必要に応じて助言する。(T 2・T 3) ●「情報」で一番大切なことを考え、ワークシートにひとつ選択するよう指示する。(T 1) ☆生徒の様子を観察し、必要に応じて助言する。(T 2・T 3)	・自分の考えをまとめることができたか。 主 ・他者の考えを知ることができたか。 思
20 分	5 情報の種類と量、SNS利用について考える。	●情報には種類と量があることを伝える。(T 1) ●提示資料やロールプレイを確認しながら、考えるように促す。(T 1) ☆表情や声の大きさなど意識し、ロールプレイを行う。(T 2・T 3)	・情報の種類・量について自分の考えをまとめることができたか。 主

		●情報の種類や量について考えをワークシートにまとめるように促す。(T 1) ☆活動の時間提示し、見通しをもたせる。(T 1) ☆生徒の様子を観察し、必要に応じて助言する。(T 2・T 3) ●提示資料で、情報の種類や量について全体で確認する。(T 1) ●LINEの利便性などについても確認し、情報量の少なさや考えや思いを伝えることが簡単でないことを確認する。(T 1)	・他者の考えを知ることができたか。思
10分	6 まとめ	●SNS等を利用する際に、自分が気をつけたいことや問題ある情報を見かけたときの対応を各自でまとめる。 ☆時間を提示し、見通しをもたせる。(T 1) ☆生徒の様子を観察し、必要に応じて助言する。(T 2・T 3) ☆便利で欠かせないツール。正確な情報の重要性。誤解が生じやすいことを認識したうえで、活用する必要があることを確認する。	・SNSを利用する際の注意点、対応をまとめることができたか。知

8 本時の評価

(1) 生徒の学習評価

	評 価
A～C	・自分の考えをまとめることができたか。主 ・学習の中で他者の考えを知ることができたか。思 ・SNSを利用する際の注意点、対応をまとめることができたか。知

(2) 教師の指導評価

ア 授業構成（指導手順、時間配当、指導形態等）

- ・生徒が見通しをもって取り組むことができたか。**主**
- ・考える、発表する、聞く時間を適切に設定することができたか。**対 深**

イ 教師による支援（環境設定、教材教具の工夫等）

- ・ワークシートを活用し、考えを整理し、まとめることができたか。**主 深**

ウ 自由記述

- ・授業に関して気がついた点がありましたら、ご記入の上、授業者（T 1）に提出してください

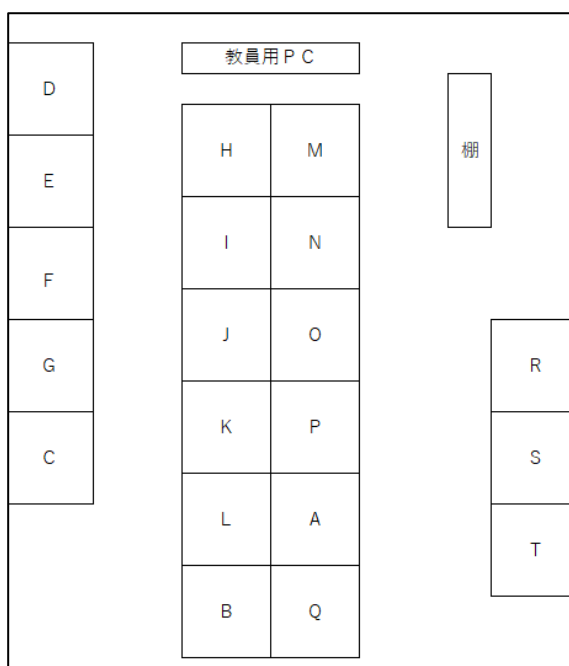
記入例：主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえたアドバイス、教材や授業展開のアイデア

9 授業後の成果、児童生徒の反応等

- ・「情報モラル」の意味が分からない生徒が多くいたが、理解が進んだなどの感想が挙げられた。また、他者の意見を聞くことで、新たな気づきや、考えを深められた生徒の様子も見られた。
- ・SNSを利用する際に気をつけることとして、「悪口を書かない」「写真を勝手にあげないなど」今までも実践していたことに加えて、授業後の感想では、「相手のことを考えて」「相手に誤解されないか」など情報を受け取る側に立って考えられる生徒が多くみられた。

10 備考

■座席配置図（パソコン室）



■ワークシート

「情報」について

1 年 組 氏名 _____

「情報」とは

情報とは、簡単にいえば、「伝えられる内容」のことである。

主に「伝達」という行為においてやりとりされる、事実、知識、データ、合図（信号）、等々、あるいは、その事実や知識を伝達するという行為そのもの。あるいは、「知らせ」（知らせ・報せ）。

情報は発信する側と受け取る側が必要である。

1 情報を伝達するもので知っていることをひとつ書きましょう。

2 情報で一番大切なことは何だろう。ひとつ選んで○を書きましょう。

①話題性 ②正確性 ③面白さ

④速さ ⑤その他()

3 情報の種類と量について?当てはまるものに○を書きましょう。

	情報の種類	情報の量
① LINE	言葉・表情・声の大きさ	多い・普通・少ない
② 写真・文字	言葉・表情・声の大きさ	多い・普通・少ない
③ 実演	言葉・表情・声の大きさ	多い・普通・少ない

4 SNSを利用する際、「情報」で注意することを考えましょう。

5 SNSで問題（悪意など）がある情報を見かけたときの自分ができる対応を書きましょう。

■提示資料

情報モラルについて

- 1 「情報」って何だろう？
- 2 「情報」で大切なことは？
- 3 「情報」の種類と量について考えよう。
- 4 SNS利用の時に大切なことは？

3 「情報」の種類と量について。

ある会話を

3パターンでお見せします。

1つ目は LINE

2つ目は 写真・文字

3つ目は 実演

みなさんは

C君の気持ちも

考えてみましょう。



環境サービス科 楽しい仲間たち

明日、ご飯食べに行こー

Cくんも来るよー

C来るの！

写真と文字



環境サービス科 楽しい仲間たち

明日、ご飯食べに行こー

Cくんも来るよー

C来るの！

実演



素晴らしい演技を
ありがとうございました



3 情報の種類と量について？当てはまるものに○を書きましょう。		情報の種類		情報の量	
①	LINE	言葉	表情・声の大きさ	多い・普通	少ない
②	写真・文字	言葉	表情・声の大きさ	多い・普通	少ない
③	実演	言葉	表情・声の大きさ	多い・普通	少ない



LINEは便利。

でも情報の量は少ない。

自分の考えや思いを伝えるのは簡単？

情報の種類が言葉や絵文字だけだと

誤解されるかも。

情報について(まとめ)

「情報」は送る側と受け取る側がある。

「情報」で大切なことは正確性。

SNSの情報伝達は、情報の量が少ないため
誤解(トラブル)が生じやすい。

■アンケート（事前・事後）

前

「情報モラル」の育成に係る指導に関するアンケート

さいたま市立高等学校 年 組 番 氏名 _____

「情報モラル」に関することについてお聞きします。当てはまるところに●をつけてください。

Q1、「情報」とは何か、知っていますか？

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
全然知らない ともよく知っている

Q2、「モラル」とは何か、知っていますか？

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
全然知らない ともよく知っている

Q3、「情報の大切さ」について、知っていますか？

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
全然知らない ともよく知っている

Q4、SNSでのトラブルについて、自分の身の回りに起きるかもしれないと考えたことがありますか。

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
今まで一度も考えたことはない ともよく考えている

後

「情報モラル」の育成に係る指導に関するアンケート

さいたま市立高等学校 年 組 番 氏名 _____

「情報モラル」に関することについてお聞きします。当てはまるところに●をつけてください。

Q1、「情報」とは何か、わかりましたか？

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
全然わからなかった ともよくわかった

Q2、「モラル」とは何か、わかりましたか？

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
全然わからなかった ともよくわかった

Q3、「情報の大切さ」について、わかりましたか？

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
全然わからなかった ともよくわかった

Q4、ロールプレイを通じて、SNSトラブルについて、自分の身近な問題としてとらえることができましたか。

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
全くとらえることができなかった ともよくとらえることができた

Q5、今回の授業を受けて、SNS等を利用する際に、自分として気をつけたいことを書いてください。

[]

「情報」について

1 年 組 番 氏名 _____

「情報」とは

情報とは、簡単にいえば、「伝えられる内容」のことである。
主に「伝達」という行為においてやりとりされる、事実、知識、
データ、合図（信号）、等々、あるいは、その事実や知識を伝達す
るという行為そのもの。あるいは、「しらせ」（知らせ・報せ）。
情報は発信する側と受け取る側が必要である。

1 情報を伝達するもので知っていることをひとつ書きましょう。

2 情報で一番大切なことは何だろう。ひとつ選んで○を書きましょう。

①話題性

②正確性

③面白さ

④速さ

⑤その他（ ）

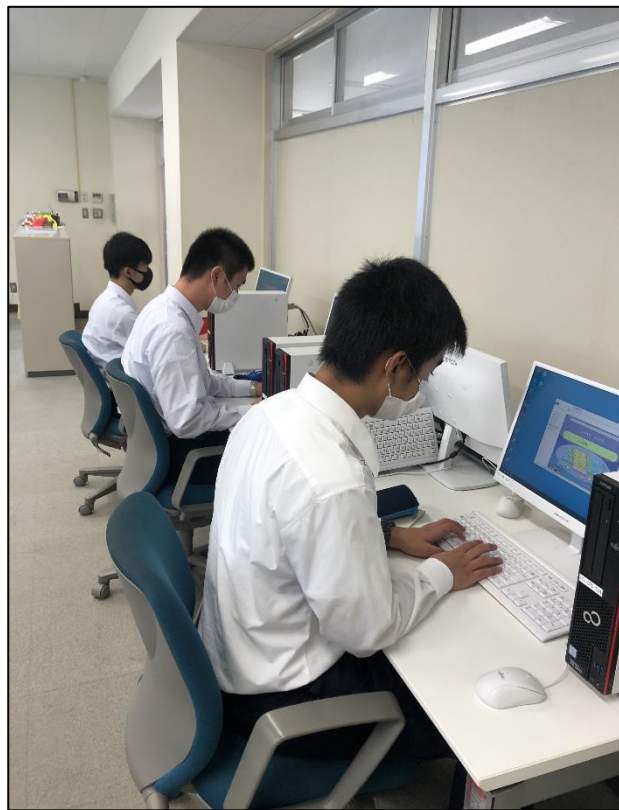
3 情報の種類と量について？当てはまるものに○を書きましょう。

		情報の種類	情報の量
①	LINE	言葉・表情・声の大きさ	多い・普通・少ない
②	写真・文字	言葉・表情・声の大きさ	多い・普通・少ない
③	実演	言葉・表情・声の大きさ	多い・普通・少ない

4 SNSを利用する際、「情報」で注意することを考えましょう。

5 SNSで問題（悪意など）がある情報を見かけたとき、自分ができる対応を書きましょう。

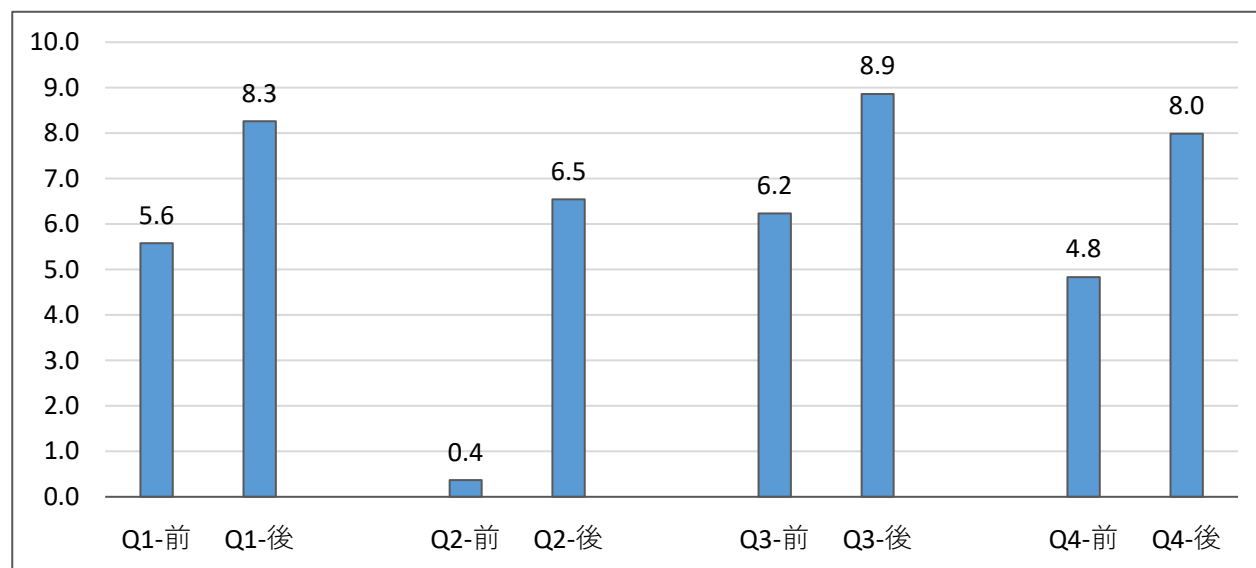
【授業風景】



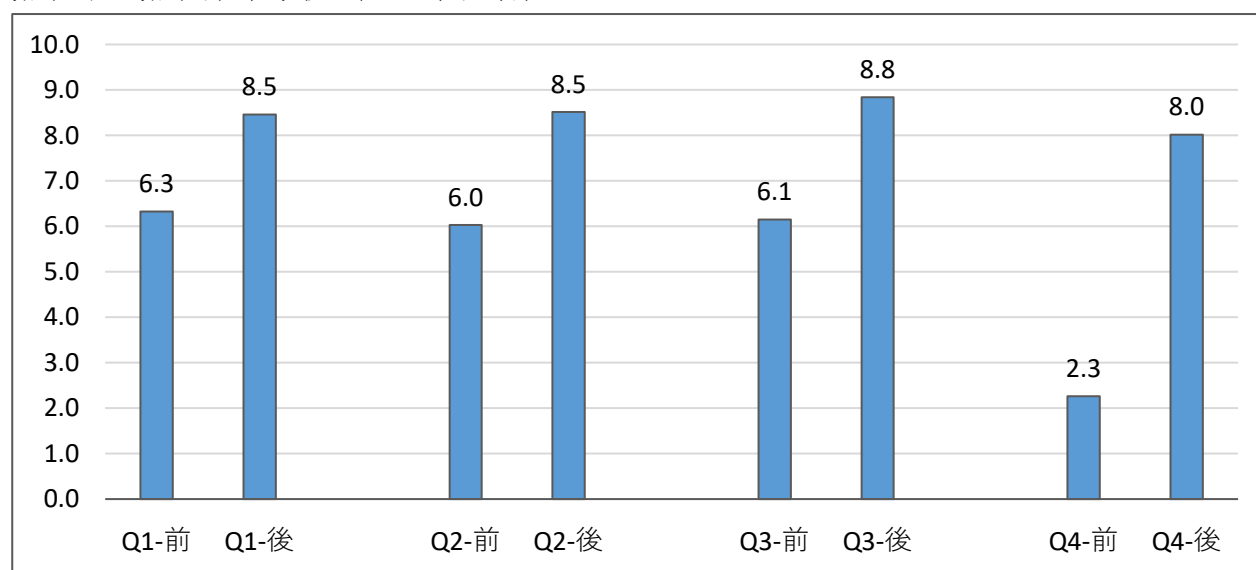
アンケートにみる指導前後の差異

指導前	指導後
Q 1 「情報」とは何か、知っていますか？	「情報」とは何か、わかりましたか？
Q 2 「モラル」とは何か、知っていますか？	「モラル」とは何か、わかりましたか？
Q 3 「情報の大切さ」について、知っていますか？	「情報の大切さ」について、わかりましたか？
Q 4 SNSでのトラブルについて、自分の身の回りに起きるかもしれないと考えたことがありますか。	SNSトラブルについて、自分の身近な問題としてとらえることができましたか。

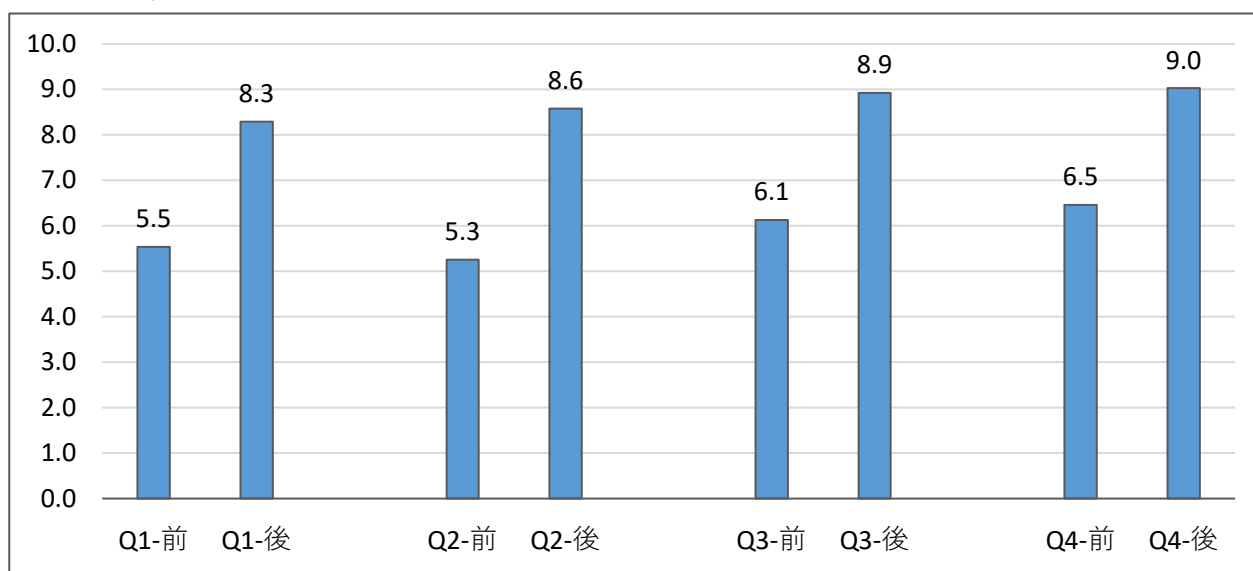
久喜市立桜田小学校（72名回答）



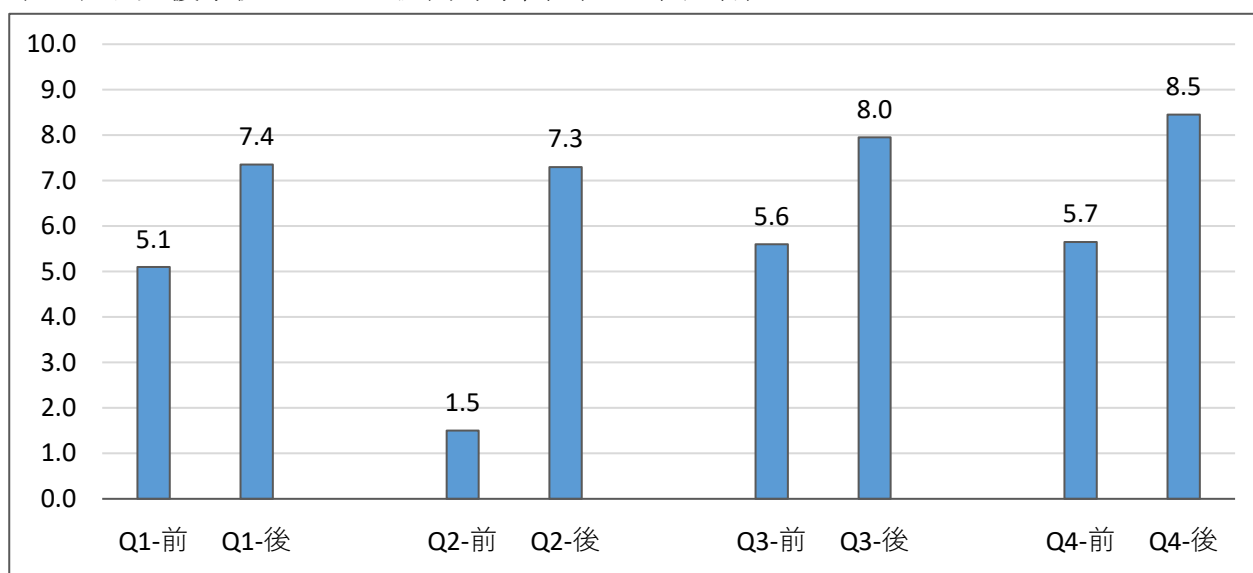
熊谷市立熊谷東中学校（34名回答）



県立羽生第一高等学校（３９名回答）



県立特別支援学校さいたま桜高等学園（２０名回答）



Q５ 今回の授業を受けて、SNS等を利用する際に自分として気をつけたいことを書いてください。

【久喜市立桜田小学校】

- ・「まちがえて」をなくすように気をつける
- ・わかりやすいことばをつかう

【熊谷市立熊谷東中学校】

- ・SNSの良いところはたくさんありますが、誰かを傷つけてしまうことがあるということを考えることができました。
- ・SNSはとてもおそろしいので、将来僕が携帯電話を持つとしたら、スマートフォンではなく折り畳み式の携帯電話を持ちたいです。

【県立羽生第一高等学校】

- ・出していいか確認し、誰に見られているか考えて使う。
- ・倫理的に考え、相手をおもいやった行動をとろうと思った。

【県立特別支援学校さいたま桜高等学園】

- ・相手に対して送る言葉を考えて誤解されないように気をつけたいです。

Ⅲ 研究の成果と今後の課題

1 成果

(1) アンケート調査について

- ・小、中、高、特別支援学校（高等部）の児童生徒にアンケート調査を実施し、加えて教職員に対しても校種別、年代別に実施した。その結果、SNS等のコミュニケーションアプリに関する児童生徒及び教職員の実態や認識の一端を知ることができた。
- ・休前日の利用実態や翌朝の状態、SNSに関する所属グループ数、グループ内におけるパスワード設定の有無、「未読1,000件」の実態、SNSを使っている仕返しの有無、教職員一人一人の情報モラル教育に対する認識等、新たな視点からの質問項目を設けて調査することができた。
- ・アンケート調査において、児童生徒と教職員のSNSの利用実態等に関して同じ質問項目を設けたことで、校種や学年、年代による実態や認識について比較し、その差が顕著に表れている項目があることが分かった。

(2) 授業実践について

- ・アンケート調査の結果を受け、研究協力委員が各学校の実態にあった情報モラル教育の授業実践を行った。授業前後にアンケートを実施して、児童生徒への授業効果を確認することができた。
- ・各教科・科目の授業等、様々な場面において情報モラル教育を取り扱うことができることが分かった。
- ・授業前後にアンケートを行ったところ、「情報」「モラル」「情報の大切さ」についての理解度が授業後に上昇し、ほとんどの児童生徒がSNSでのトラブルについて、自分の身近な問題としてとらえられるようになったと回答した。

2 考察と課題

- ・児童生徒と教職員のSNSの利用実態に大きな差がみられる回答が多かった。このことから、児童生徒が巻き込まれるトラブルが、犯罪被害に直結するケースもあるという認識を持ち、SNSの利用に対して教員や保護者は児童生徒の置かれている状況をよく把握する必要がある。
- ・22時を過ぎてもコミュニケーションアプリを利用している児童生徒の過半数は、休み明けの朝、起きるのがつらいと思うことがあると答えていた。このことから、SNS等の利用に費やす時間が日常生活へ影響を及ぼしているということが分かった。日常生活の中で児童生徒自身が思考、判断し、自らを律するルールづくりやSNSの利用時間を制御できる態度の育成を図ることが必要である。
- ・家庭内でのルールについては、「決めている」と「決めていない」の割合が、校種が上がるにつれ、逆転している。しかし、携帯電話を児童生徒に持たせるかどうかは、保護者の判断によるところが大きい。家庭で定期的に携帯電話の使い方を話し合う等、様々な場面を通じて家庭に意識を啓発し、学校と家庭教育との連携をとおした情報モラル教育の推進を図ることが重要である。

- 情報モラル教育について、93.0%の学校が取り組んでおり、情報モラル教育を適切に指導できる自信があると答えた教員は63.4%と過半数を超えていた。今後、情報モラル教育は様々な場面で行うことが必要とされることから、全教職員が自信を持って指導できるようになることが求められる。情報モラル教育に対する見方や考え方、SNS上のコミュニケーションの特徴について、継続した校内研修等の充実を図ることで、教員の認識を更新していく必要がある。
- 作成した教職員向け「児童生徒のSNS利用に係る指導事例集」の内容や活用法を研修会やHP等で周知して、教職員の指導力の向上を図る。
- SNS等のコミュニケーションアプリを使用しているときに、嫌な思いをしたことがある児童生徒が19.5%（658人）おり、児童生徒の2.1%（70人）が実際に仕返しをしたことが分かった。このことから「ネット上のいじめ」やトラブルに遭わないように、生徒指導や教育相談、道德教育の視点も踏まえ、各校で取組を進めていくことが必要である。
- 児童生徒への携帯電話の普及と緊急時の連絡手段としての期待の高まりから、令和2年7月に文部科学省から学校における携帯電話の取扱い等の取組の充実を図るよう通知が発出され、県教育委員会は、「学校における携帯電話の取扱いに関する基本的指導方針」を令和3年1月に新たに定めた。県立高等学校（県立特別支援学校高等部を含む）では高速大容量通信回線の整備が進み、生徒が所有する端末を学校に持ち込んで校内ネットワークに接続し、学習に活用（以下「BYOD（Bring Your Own Device）」という。）する1人1台環境が実現することになる。情報モラルを学校で指導することが極めて重要である。
- SNS等を扱う指導においては、犯罪に巻き込まれることや、人間関係の悪化につながるなど、負の側面ばかりが強調される内容に傾きがちなことも懸念される。自由記述にもあるとおり、授業で習った内容等について児童生徒が自ら更に深く調べることができる便利なツールである等の正の側面を教えるなど、今後、Society 5.0と言われる社会の中で生きていくことになる児童生徒に、情報社会のメリット、デメリット両面を学ぶことができる指導を行うことが必要である。
- インターネットを利用する際は、セキュリティ対策が必要である。しかし、今回の調査で、多くの児童生徒がSNS利用時にパスワードの設定をしていない状況等が明らかになった。どんな危険にさらされるのか、どのような被害に遭ってしまうのかについて、子供たちに考える機会を持たせることで、セキュリティの重要性を学び、自分自身で対策できるような力を身に付けさせることが必要である。
- 今後、パソコンやタブレット端末が文房具のように使用され、教科指導の中でインターネットを利用することが予想される。このことにより、子供たちの学びへの興味・関心が高まり、教育的価値の高い豊富な情報や資料を集め、問題解決能力を習得できるようになることが期待される。自ら情報を発信することは文章を書く力や表現力を養い、情報を発信・受信することによって、コミュニケーション能力を養う機会にもなるため、授業でどのように扱うのが効果的か、引き続き検討していくことが重要である。

IV 参考文献等

- ・令和元年度青少年のインターネット利用環境実態調査結果
(令和2年4月 内閣府)
- ・平成30年度青少年のインターネット利用環境実態調査結果
(平成31年3月 内閣府)
- ・ちょっと待って！スマホ時代のキミたちへ（小中学生用）（高校生用）
(文部科学省)
- ・情報化社会の新たな問題を考えるための教材＜児童生徒向けの動画教材、教員向けの指導手引き＞
(文部科学省)
- ・平成30年度児童生徒におけるスマートフォン等の利用状況等に関する調査結果について
(令和元年7月 埼玉県教育局県立学校部生徒指導課)
- ・平成30年度中高生のコミュニティサイト利用等に係る実態調査結果
(令和元年6月 埼玉県警察本部生活安全部サイバー犯罪対策課)
- ・2020年度版インターネットトラブル事例集
(総務省総合通信基盤局消費者行政第一課青少年担当)
- ・平成29年度版インターネットトラブル事例集
(総務省総合通信基盤局消費者行政第一課青少年担当)
- ・スマホ時代の子育て 低年齢層の保護者向けリーフレット
(平成31年1月発行 9府庁省（内閣府・内閣官房・警察庁・消費者庁・総務省・法務省・文部科学省・厚生労働省・経済産業省）)
- ・ネットの危険からお子様を守るために今、保護者ができること
(平成31年1月発行 9府庁省（内閣府・内閣官房・警察庁・消費者庁・総務省・法務省・文部科学省・厚生労働省・経済産業省）)
- ・小学生がいるご家庭なら、ぜひ知っておきたい4つのこと。
(平成28年2月 経済産業省)
- ・中学生の保護者が知っておくべき最近のネット事情4つのこと。
(平成28年2月 経済産業省)
- ・高校生の保護者が知っておくべき今どきのネット事情4つのこと。
(平成28年2月 経済産業省)
- ・令和元年度「児童・生徒のインターネット利用状況調査」調査報告書
(東京都教育委員会)
- ・情報モラル養育実践ガイダンス～すべての小中学校で、すべての先生が指導するために～（国立教育政策研究所）

調査研究協力委員等

令和元年度	所 属	職 名	氏 名
スーパーバイザー	筑波大学	教 授	土井 隆義
委員長	上尾市立上平中学校	校 長	瀧澤 誠
委 員	久喜市立桜田小学校	教 諭	恩田 拓
委 員	美里町立東児玉小学校	教 諭	小暮あすか
委 員	滑川町立滑川中学校	養護教諭	市川 優
委 員	熊谷市立熊谷東中学校	教 諭	矢島 彬光
委 員	県立羽生第一高等学校	教 諭	中村 悠哉
委 員	県立大宮商業高等学校	教 諭	呉 洋子
委 員	県立特別支援学校さいたま桜高等学園	教 諭	富田 高志
委 員	県教育局県立学校部生徒指導課	指導主事	荒井 貴之
協力者	総務省関東総合通信局情報通信部 電気通信事業課利用環境担当	企画監理官	井口 善孝
協力者	深谷市立本郷小学校	教 諭 (生徒指導担当長期研修教員)	高橋 尚希
事務局	県立総合教育センター指導相談担当	指導主事兼所員	山内 哲也 秋山 法之 星野 静子 柏木 浩文 赤沼 佳幸 鷲森 智子
令和2年度	所 属	職 名	氏 名
スーパーバイザー	筑波大学	教 授	土井 隆義
委員長	上尾市立上平中学校	校 長	瀧澤 誠
委 員	久喜市立桜田小学校	教 諭	恩田 拓
委 員	美里町立東児玉小学校	教 諭	塚越あすか
委 員	滑川町立滑川中学校	養護教諭	市川 優
委 員	熊谷市立熊谷東中学校	教 諭	矢島 彬光
委 員	県立羽生第一高等学校	教 諭	中村 悠哉
委 員	県立大宮商業高等学校	教 諭	呉 洋子
委 員	県立特別支援学校さいたま桜高等学園	教 諭	富田 高志
委 員	県教育局県立学校部生徒指導課	指導主事	戸田 眞栄
事務局	県立総合教育センター指導相談担当	指導主事兼所員	秋山 法之 赤沼 佳幸 佐藤 明子 松本 信昭 鷲森 智子



2021年は埼玉誕生150周年

令和元年～2年度 埼玉県立総合教育センター調査研究事業